

金沢工業大学 御中

平成25年度 授業調査 報告書

2014.11.04

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	40
<6>同一学生群の分析	51
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	57
<8>全体のまとめ	61

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が9年目となるため、9年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査の集計自体は平成15年から実施している。)

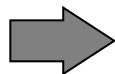
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	1年次生	33,361件				
	2年次生	33,958件				
	3年次生	22,574件				
	4年次生	2,427件				
	合計有効回答数	92,320件				
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票 (比較不可)
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
		年度	前期	後期	全回答数	調査票
		平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票
		平成22年度	48,541	48,175	96,716	
		平成23年度	53,166	49,870	103,036	
		平成24年度	47,317	46,666	93,983	
		平成25年度	47,317	45,003	92,320	
	対象科目	527科目				
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ・ 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



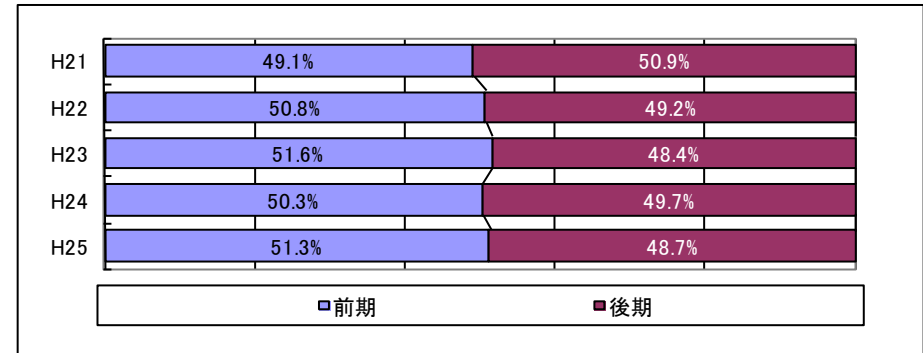
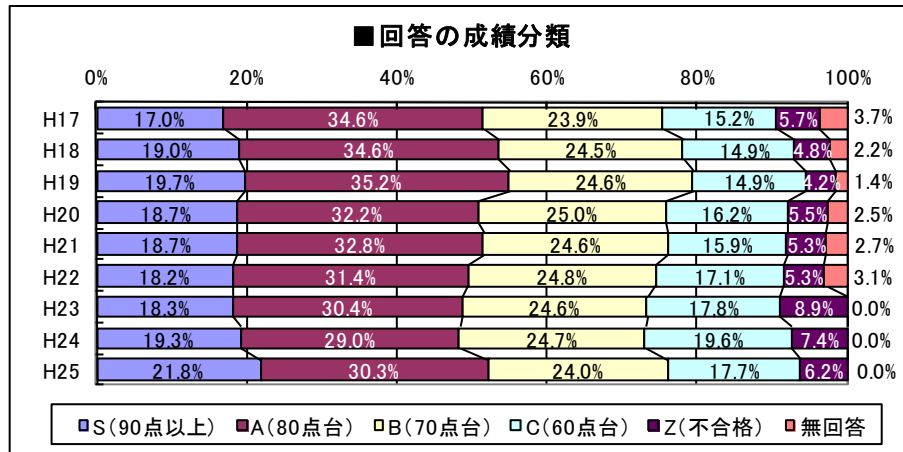
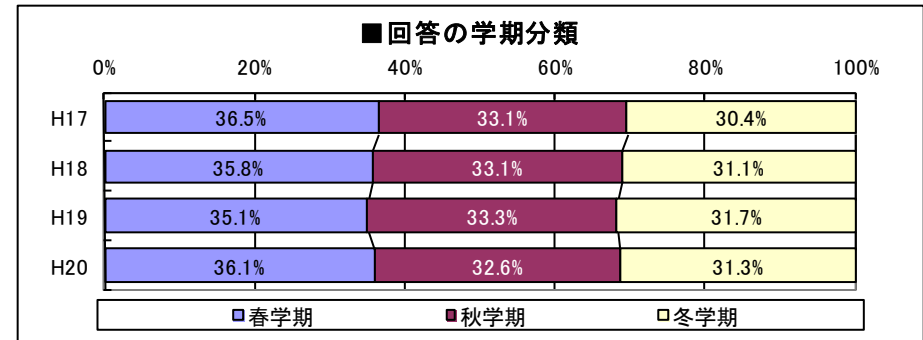
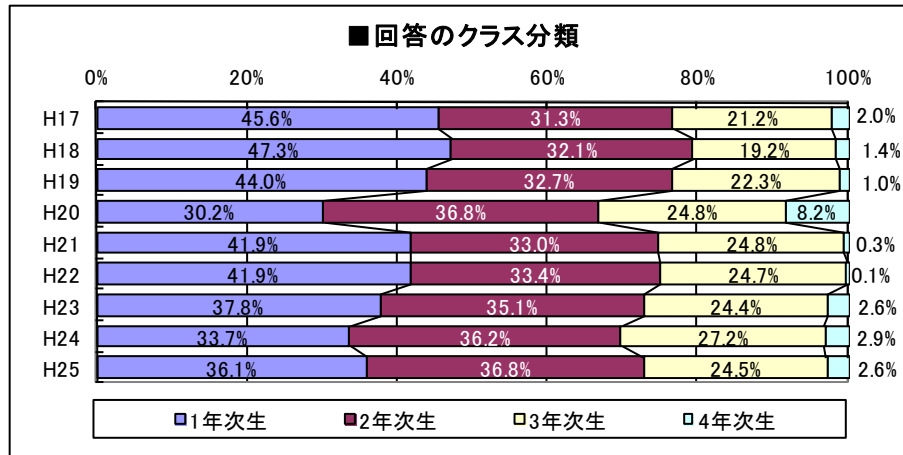
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

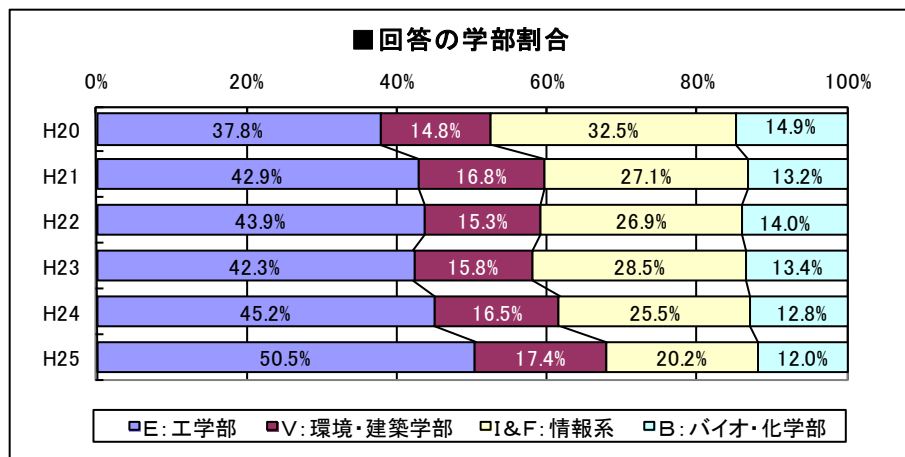
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

<1-2> 回答者の基本属性

- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- クラス分類を見ると「1年次生」が36.1%、「2年次生」が36.8%、「3年次生」が24.5%、「4年次生」は2.6%であり、前回より「1年次生」の増加と「3年生」の減少が目についた。
- 成績分類では「S」が21.8%とこれまでで最も多く、「A」が30.3%、「B」が24.0%、「C」が17.7%、「Z」が6.2%となっていた。
- H21より前期と後期の2期制となっているが、今回は前期の回答が51.3%、後期が48.7%であり、ほぼ半々となっていた。



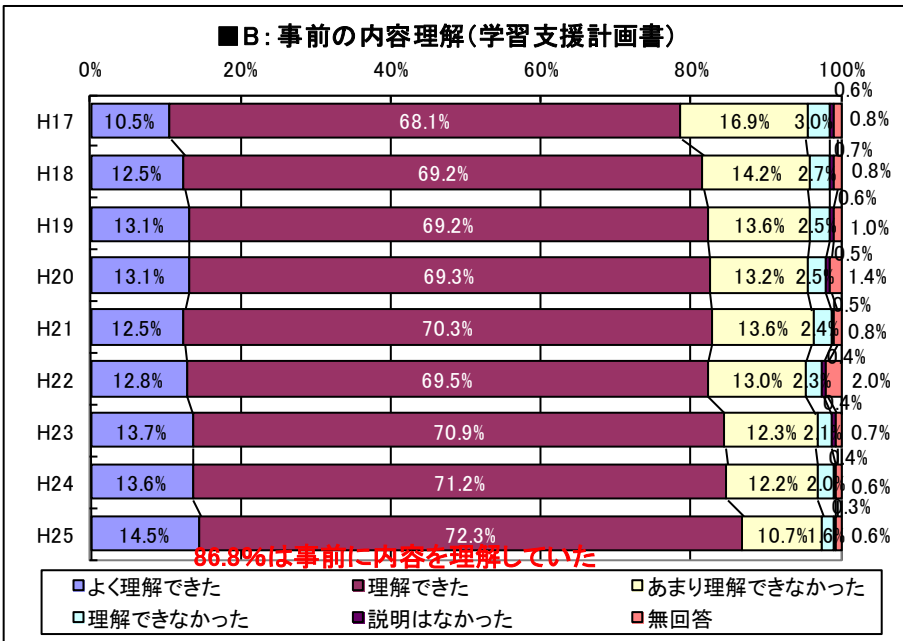
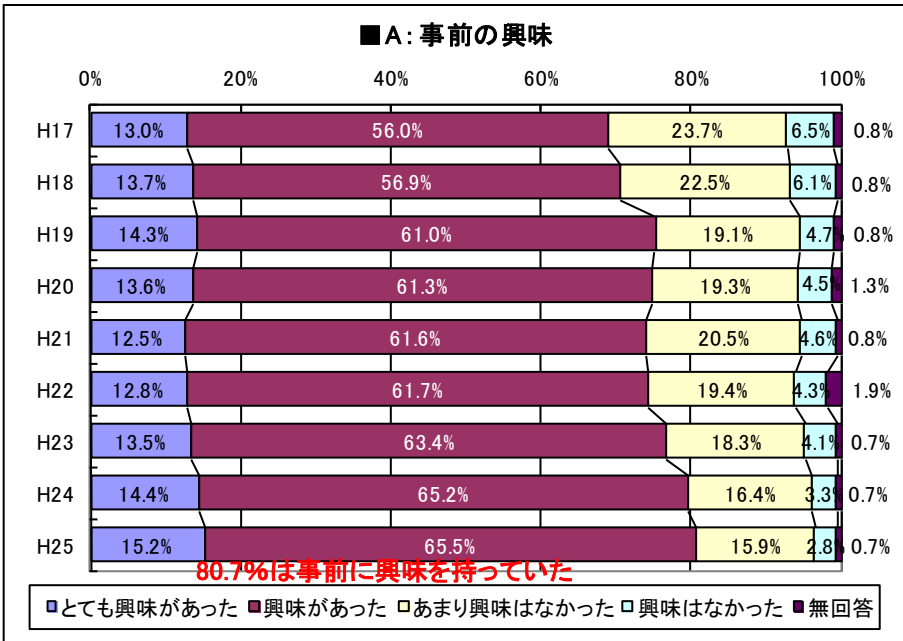
- 今回は「1年次生」と「2年次生」が新たな学部体制となり、科目区分が異なっているため、学部・学科別集計と科目区分別集計は「1～2年次生」と「3～4年次生」で分けて行っている。ただし、基本的な学部構成は「1～2年次生」と「3～4年次生」で変わらないため、全体の集計では「F:情報フロンティア学部」と「I:情報学部」は「I&F:情報系」として集計を行っている。
- 上記に従って学部の割合を見ると「E:工学部」が50.5%と半数を占めており、次いで「I&F:情報系」が20.2%、「V:環境・建築学部」が17.4%、「B:バイオ・化学部」が12.0%という割合であり、「E:工学部」が継続的に増加している点が目についた。



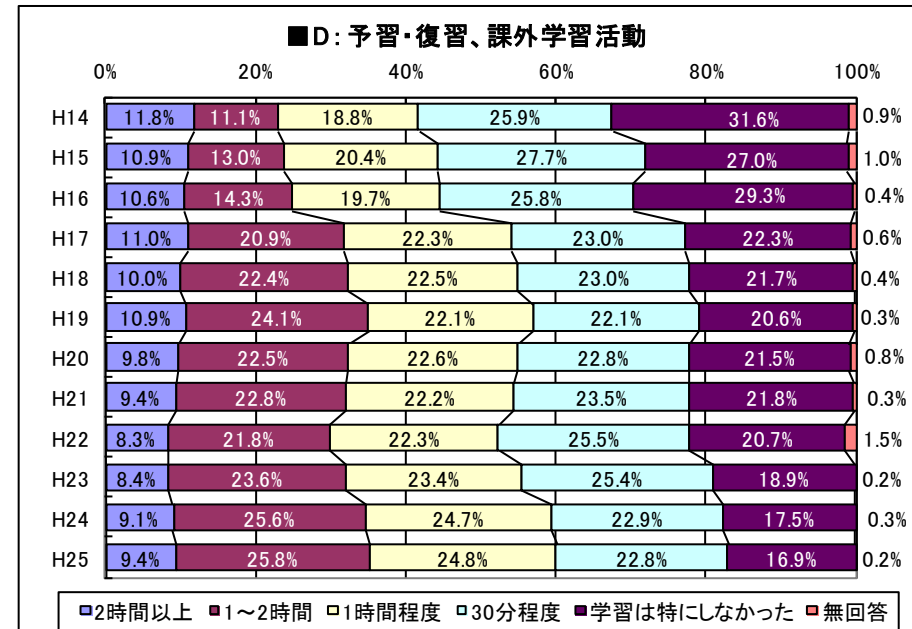
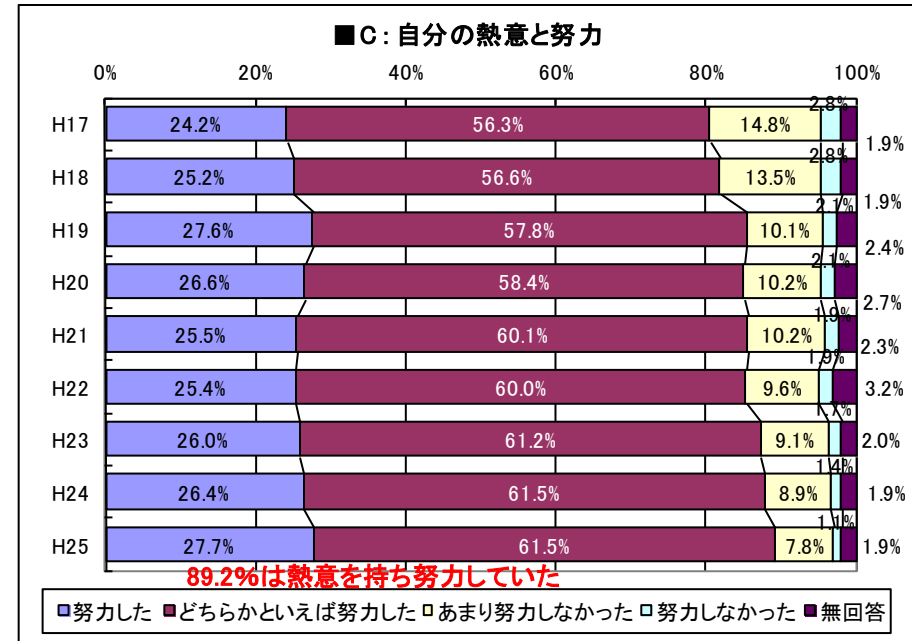
※上記はすべて4学部制の学部割合であり、H20年度は「1年次生のみ」、H21年度は「1年次生～2年次生」、H22年度は「1年次生～3年次生」、H23年度以降は「1年次生～4年次生」の割合となる。
 ※H24年度以降は「I:情報学部」と「F:情報フロンティア学部」を一緒にして「情報系」として扱っている。

<2> 基本的な分析

- 「A:事前の興味」の今回の結果を見ると、「とても興味があった」が15.2%、「興味があった」が65.5%で、いずれもこれまでで最も高くなっており、合わせて80.7%と8割を超え、当然ながら興味を持って授業を受けた学生の割合は、これまでで最も高くなっていった。
- 以前からの変化を見ると、授業に対する興味はH22から今回にかけて急速に強くなってきており、今回も継続する結果となっていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」に関しても、「よく理解できた」が14.5%、「理解できた」が72.3%であり、いずれもこれまでで最も高く、合計の86.8%も過去最高となっていた。
- 「事前の内容理解」はH19からH22まではほとんど変化が見られなかったが、H23以降はやや肯定的な評価が増加しており、今回も続いていた。

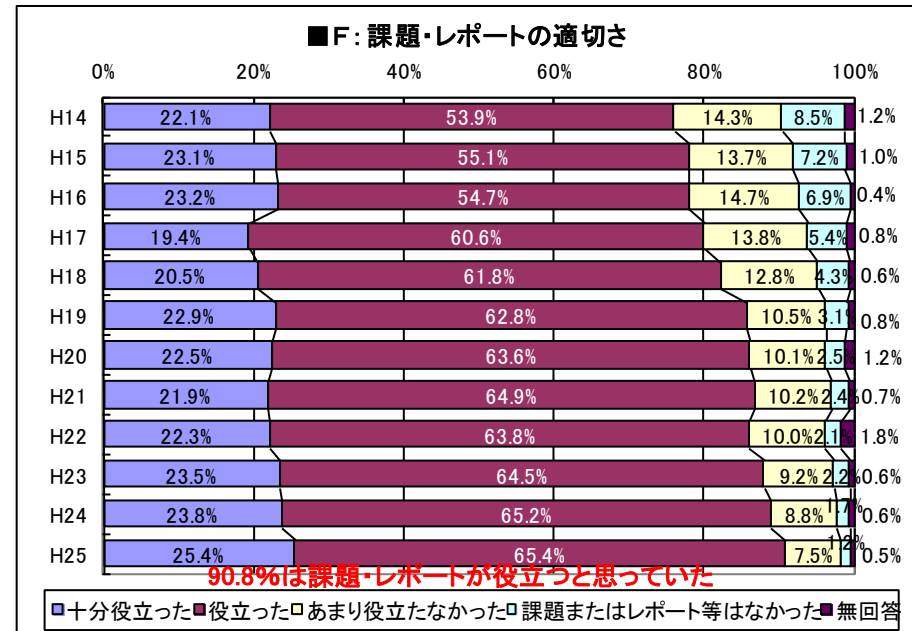
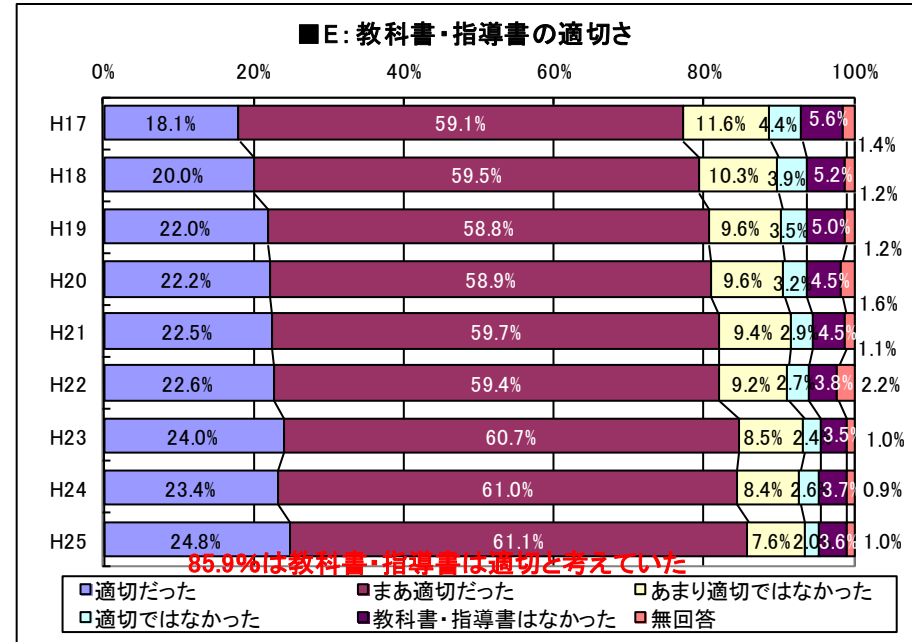


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか？」と聞いているが、それに対して「努力した」という回答は27.7%と過去最高であり、前回と同じであった「どちらかといえば努力した」の61.5%を加えると、89.2%が熱意を持って努力したと回答していた。
- ここでもH23から肯定的な意見の増加が見られ、今回は前回は1.3ポイント上回って、これまでで最も多くなっていた。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか？」という質問であるが、「1～2時間」という回答が最も多く25.8%となっており、次いで「1時間程度」が24.8%、「30分程度」が22.8%と続き、「学習は特にしなかった」は16.9%であった。
- 以前との比較では、「1～2時間」「1時間程度」がこれまでで最も多くなっており、H23あたりから勉強時間が増加する傾向が続いていた。一方、「学習は特にしなかった」はH23より減少が続いており、今回はこれまでで最も少なくなっていた。



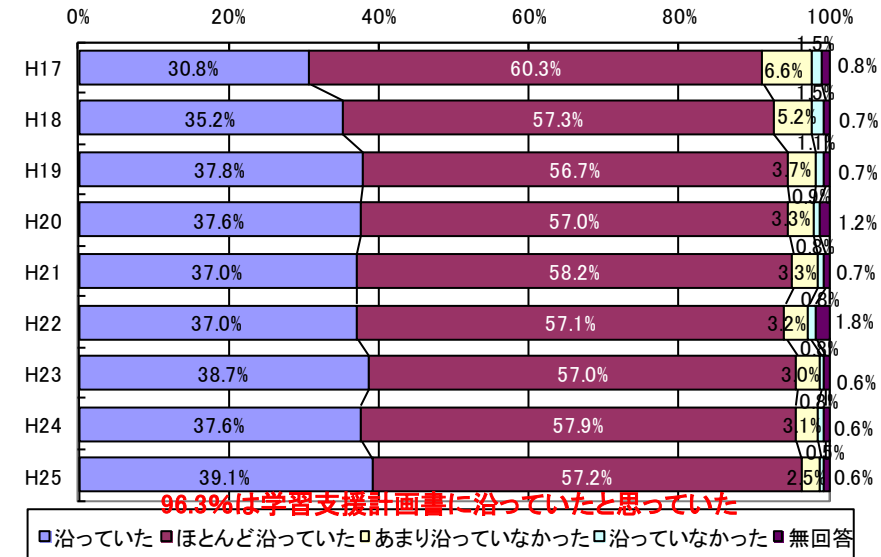
※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」と聞いているが、「適切だった」が24.8%で過去最高であり、「まあ適切だった」も前回をわずかに上回って61.1%となっており、合わせると85.9%となっていた。
- H23からH24にかけては肯定的な意見の割合は横這いであったが、今回は前回を上回って肯定的な意見が過去最高となり、高い評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」が25.4%、「役立った」が65.4%であり、いずれも過去最高で、肯定的な意見の合計は90.8%と9割を超えて、過去最高となっていた。
- この問いに関しては、調査開始から継続的に肯定的な意見が増加しており、他の設問と比べても特徴的であると言える。そして、今回も前回を1.8ポイント上回り、非常に高い評価となっていた。

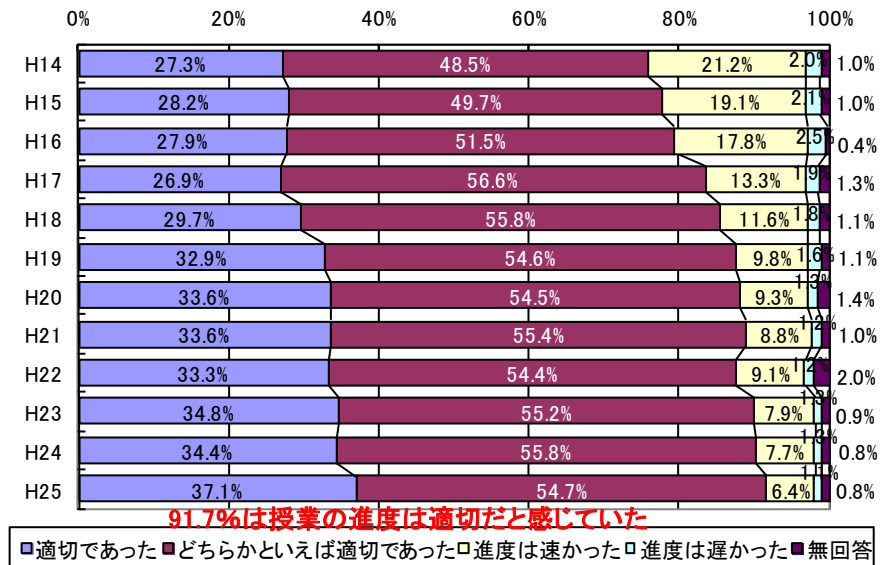


- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」はこれまでで最も多い39.1%であり、「ほとんど沿っていた」の57.2%と合わせると、96.3%が学習支援計画書に問題はないと感じているようであった。
- 「G:学習支援計画書との一致」に関しては、調査開始より肯定的な意見が9割以上を占め、評価は非常に高かったが、今回は過去最高となっており、高い評価が続いていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は前回は2.7ポイント上回って過去最高の37.1%であり、「どちらかといえば適切であった」の54.7%を加えると91.7%が肯定的な意見であり、過去最高となっていた。
- この質問も調査開始から継続的に肯定的な意見が増加してきており、今回も前回は上回る結果となっていた。

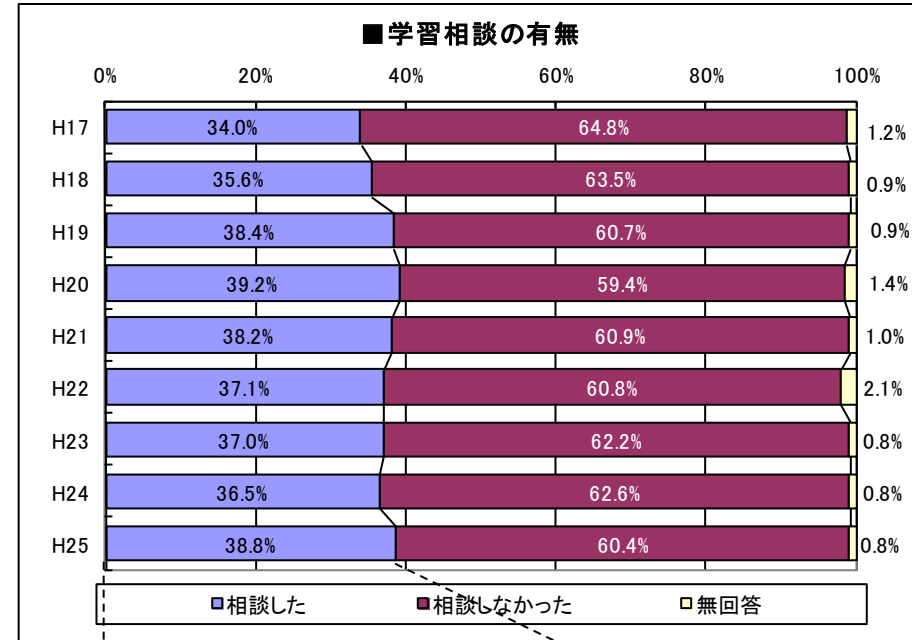
■ G: 学習支援計画書との一致



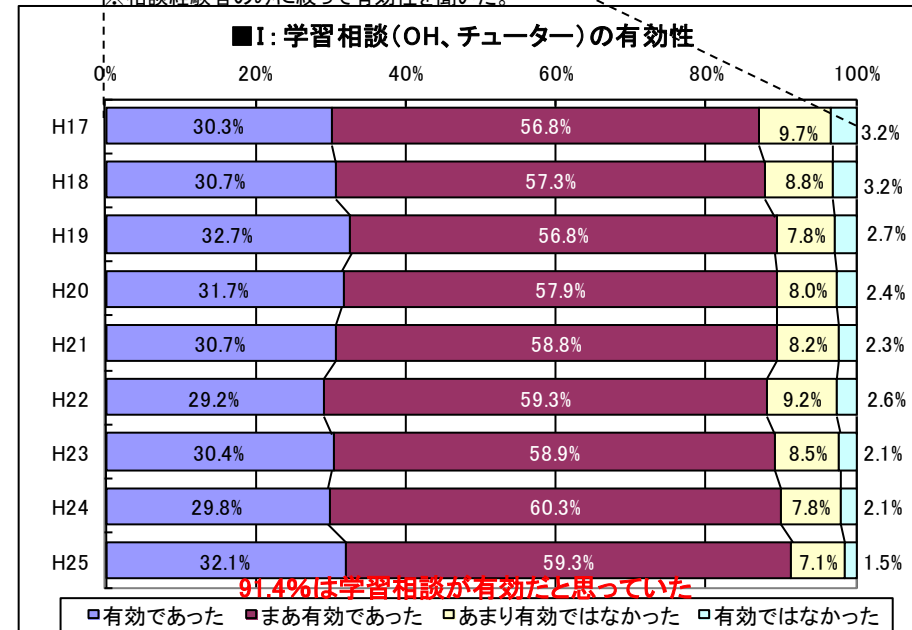
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という問いであるが、まず「学習相談の有無」だけを確認すると、「相談した」が38.8%、「相談しなかった」が60.4%となっていた。
- 「相談した」の割合はH20から昨年まで、わずかずつ減少する傾向が続いていたが、今回は前回は2.3ポイント上回っていた。
- 学習相談の経験がある学生に「学習相談の有効性」を聞いたところ、「有効であった」が32.1%、「まあ有効であった」が59.3%であり、合わせると91.4%が学習相談が有効だと思っていた。
- 学習相談が有効であったという回答は横這いが続いていたが、今回は前回は1.3ポイント上回っており、これまでで最も高い評価となっていた。



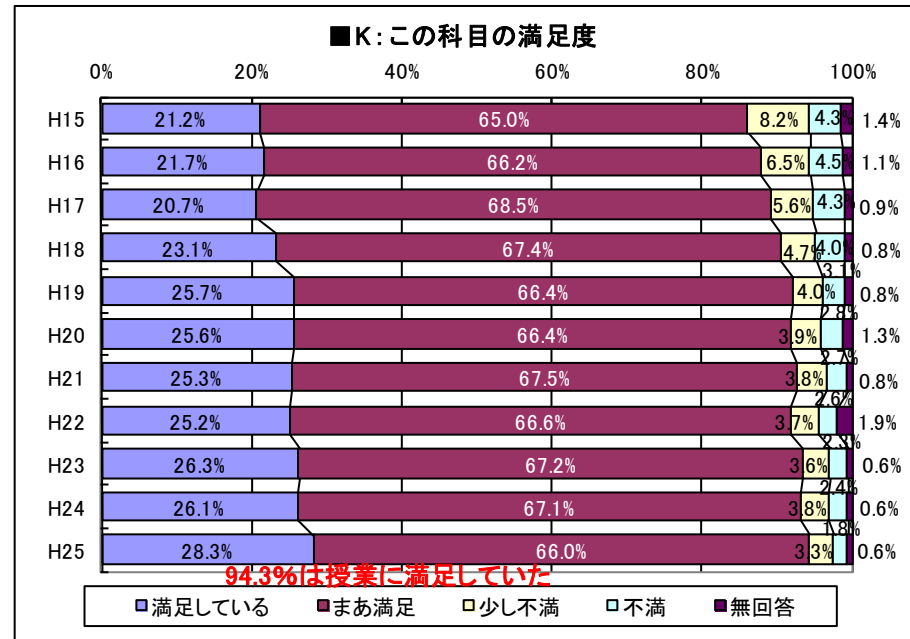
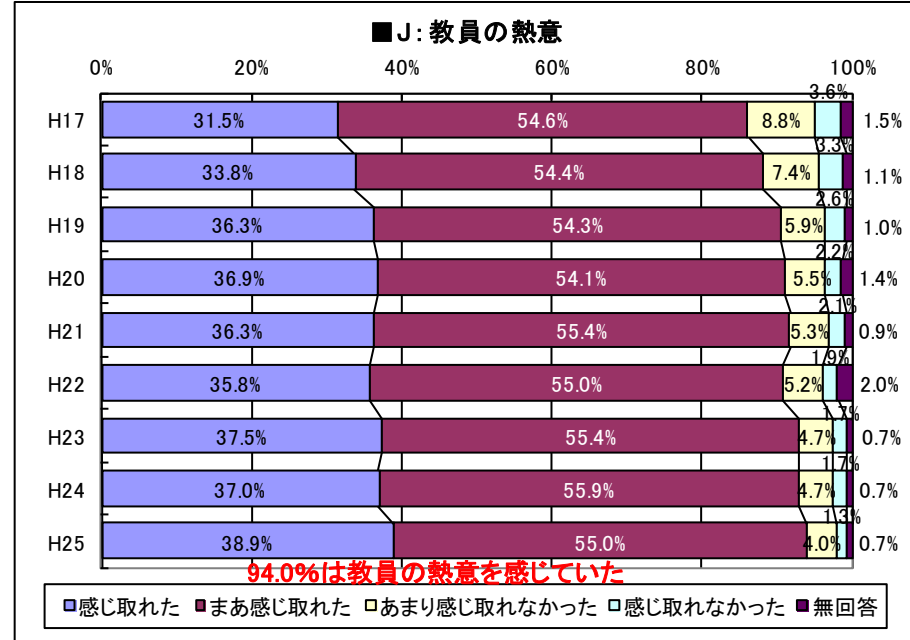
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が38.9%で過去最高であり、「まあ感じ取れた」の55.0%を加えると、94.0%が肯定的な意見であり、過去最高となっていた。
- H22には肯定的な意見がわずかに減少していたが、その後は継続的に増加が続いていた。
- 「K:この科目の満足度」では「満足している」が28.3%で過去最高となっており、「まあ満足」の66.0%を加えると、94.3%が満足という回答となり、前年を1.1ポイント上回っていた。
- 経年変化を見ると、H20、H22、H24に前年をわずかに下回っていたが、長期的には満足度が向上する傾向が続いており、調査開始当初のH15と比べると、満足度は8.1ポイント高くなっていた。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0
H23	93.5%	+1.7
H24	93.2%	-0.3
H25	94.3%	+1.1



<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

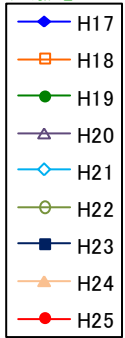
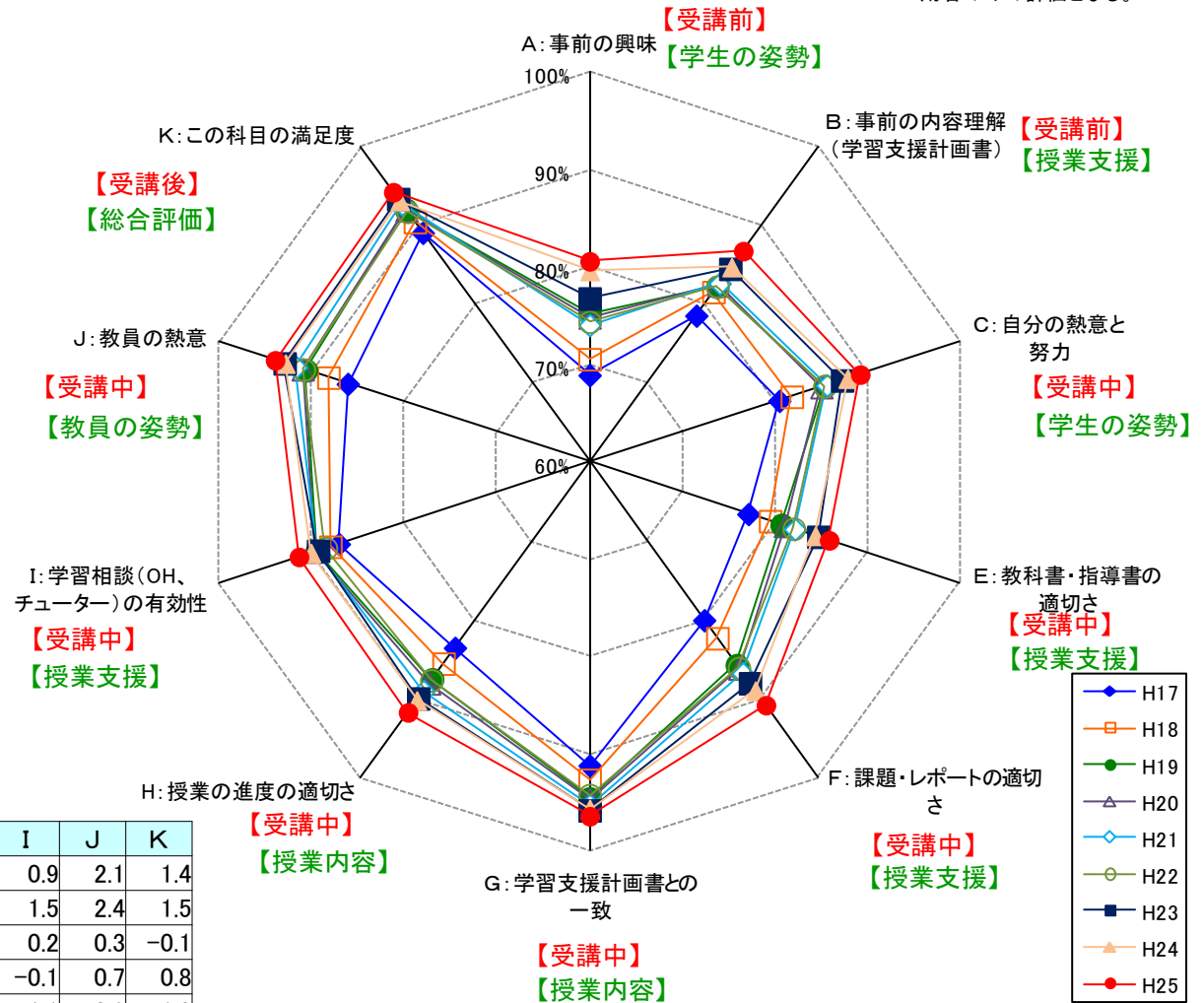
- 肯定的意見の合計をレーダーチャートにまとめた。ここでは「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外しており、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけをプロットしている。
- H25の結果だけではなく、全体的に「A: 事前の興味」は肯定的な意見が少なく、「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」「K: この科目の満足度」が高めとなっていた。
- 以前と比較すると、すべての項目で肯定的な意見は前回は上回っており、これまでで最も高くなっていた。特に「B: 事前の内容理解」は前回は2.0ポイント上回り、最も大きな伸びとなっていた。
- また、「F: 課題・レポートの適切さ」は前回は1.8ポイント、「E: 教科書・指導書の適切さ」は1.5ポイント上回っており、サポートツールの評価の向上も目立っていた。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1

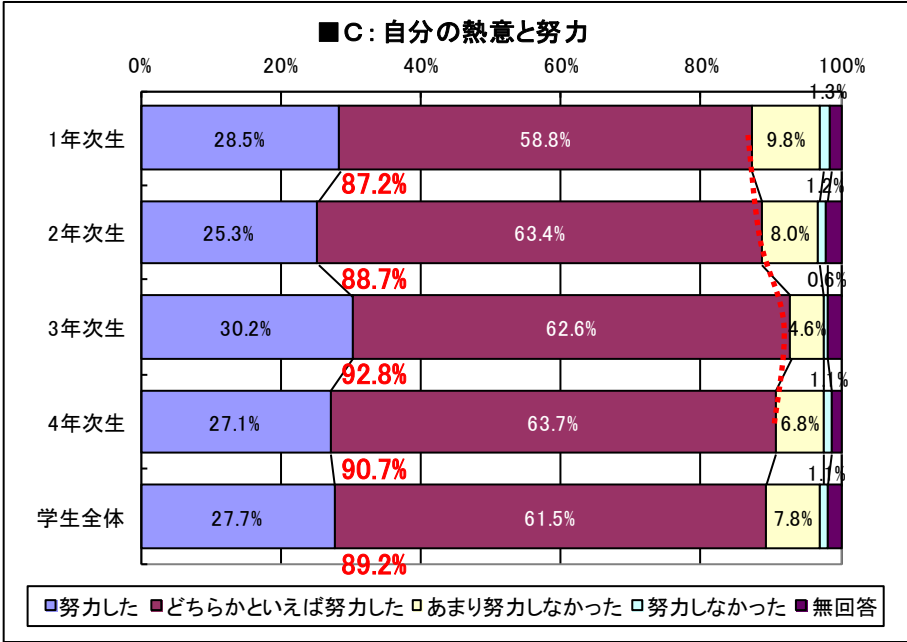
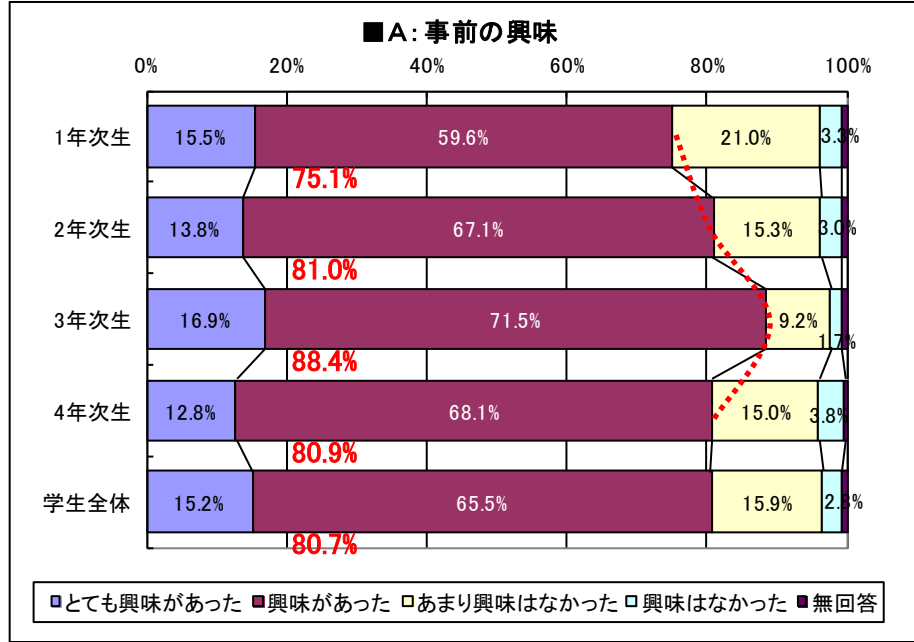
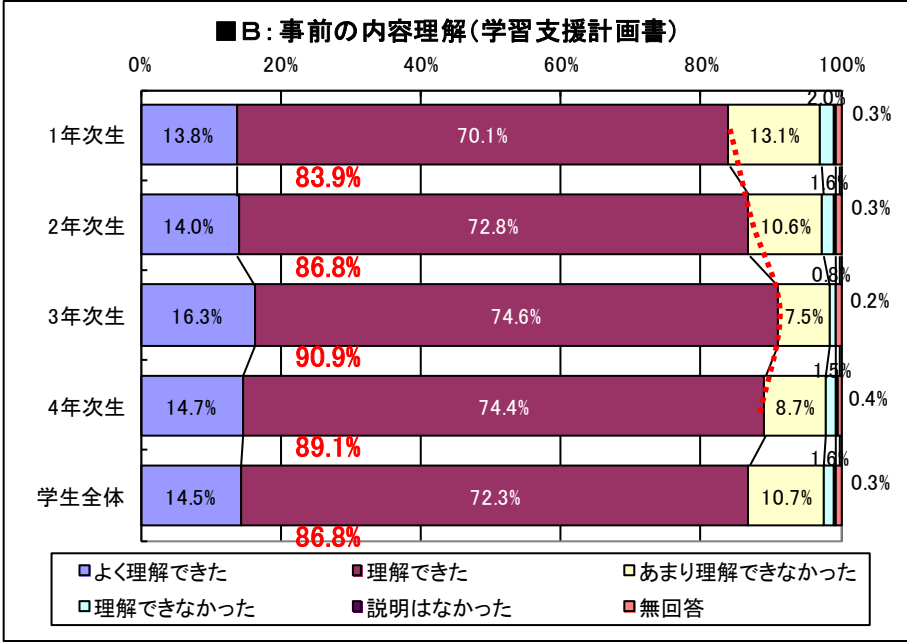
■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者だけの評価となる。

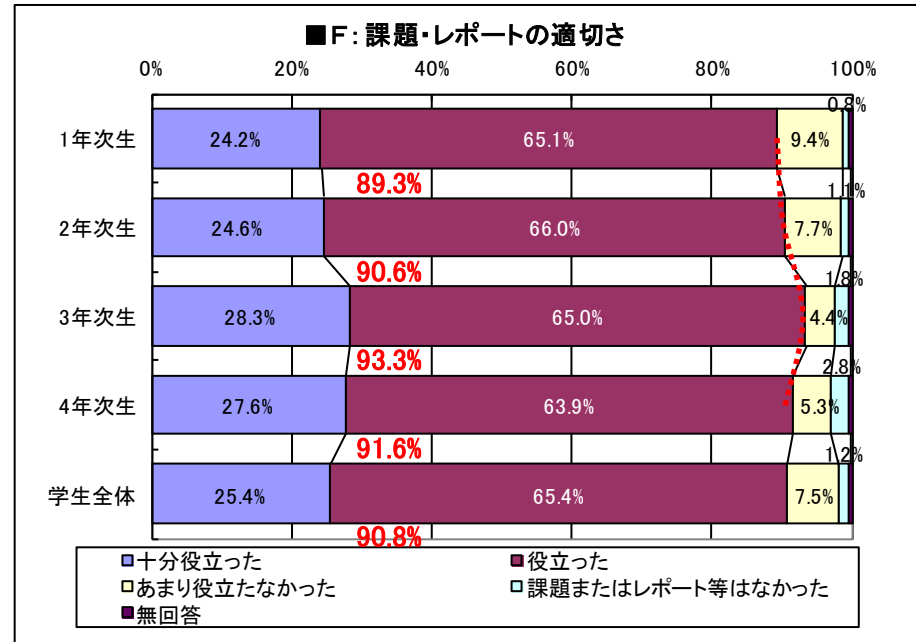
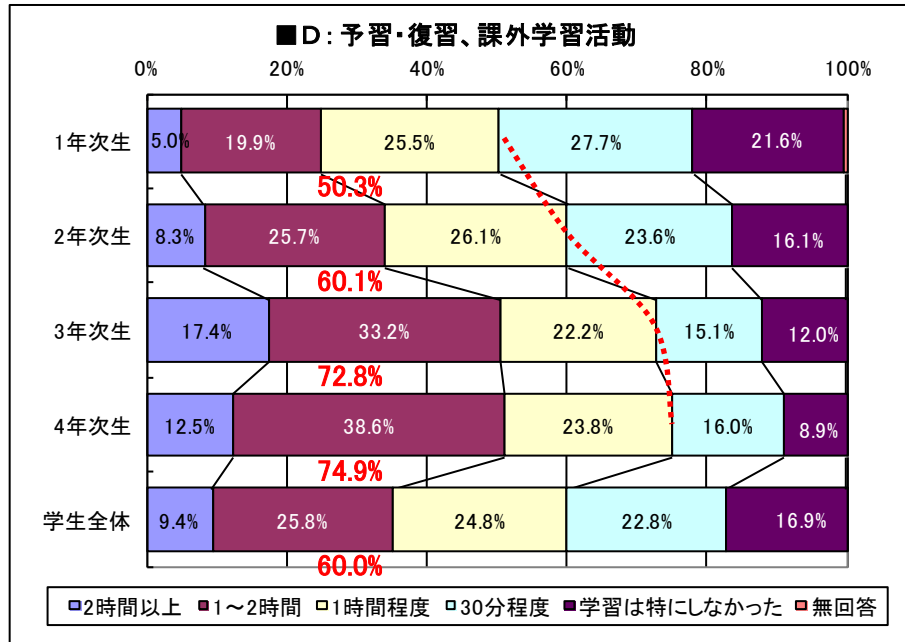
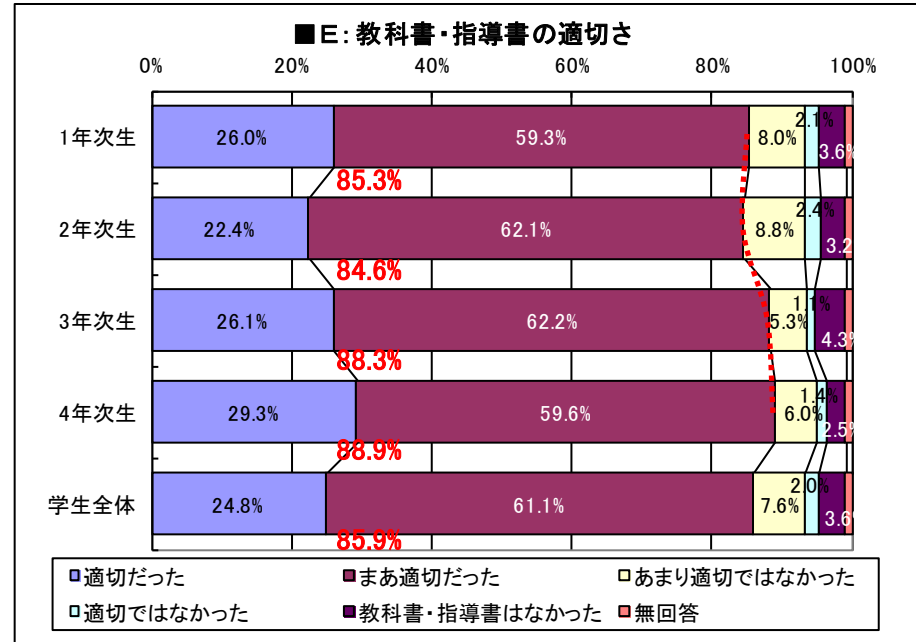


<3> 学年別の分析

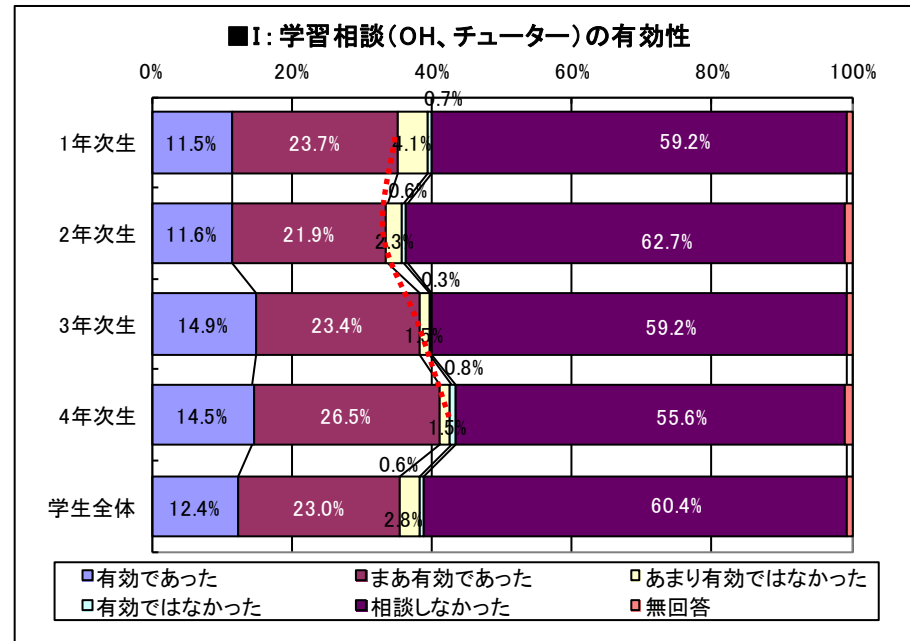
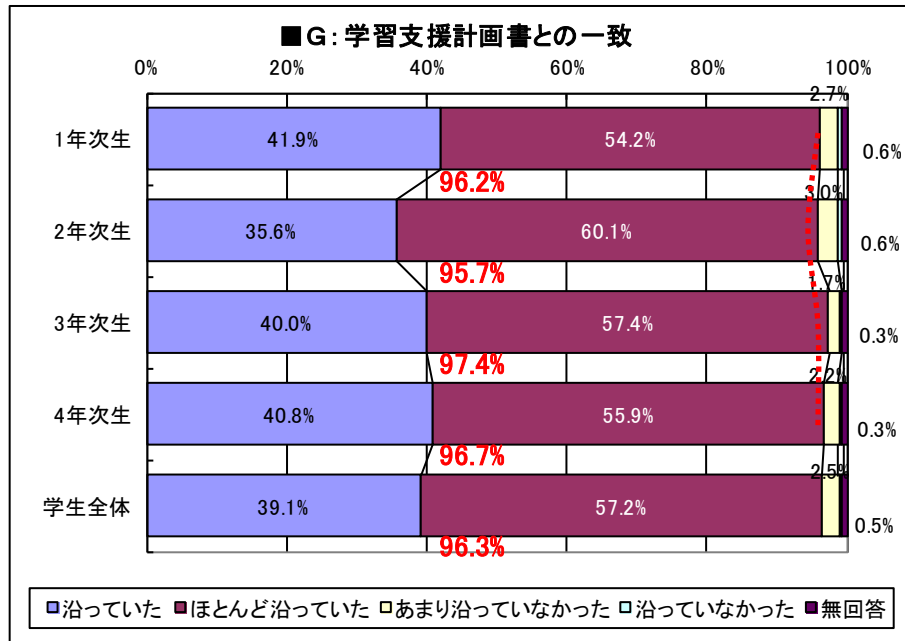
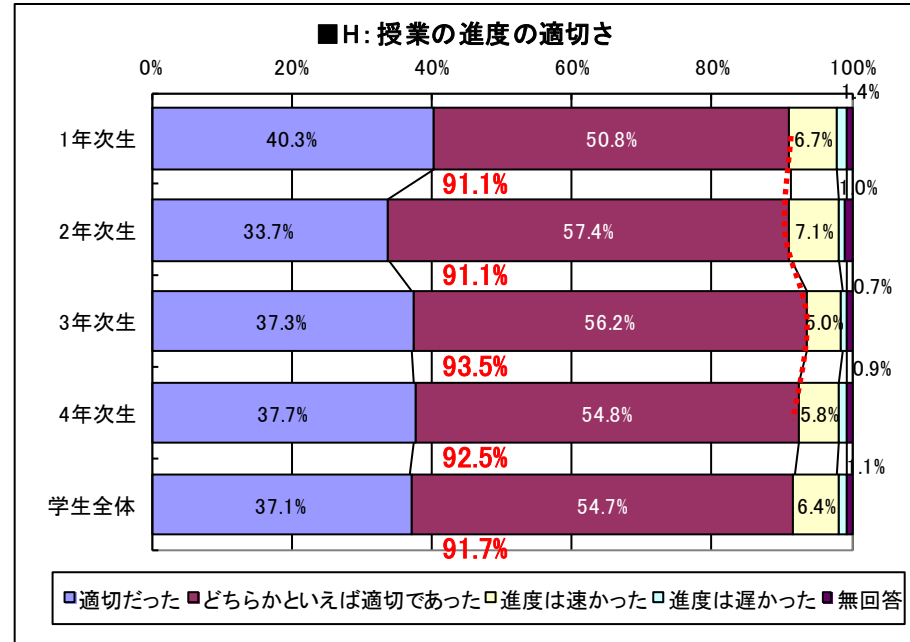
- 「A: 事前の興味」の学年別比較では「3年次生」で興味を持っていた割合が88.4%と非常に多く、「1年次生」の75.1%と比べると13.3ポイントの差がついていた。そして、「2年次生」と「4年次生」はほぼ同じとなっていた。
- 「B: 事前の内容理解」に関しても「3年次生」で理解できたという意見が90.9%と最も多く、「4年次生」で89.1%、「2年次生」で86.8%と続き、「1年次生」が83.9%と最も少なかった。「3年次生」と「1年次生」の差は7.0ポイントとなっていた。
- 「C: 自分の熱意と努力」に関しても「3年次生」で肯定的な意見が最も多く、92.8%が努力したと答えていた。そして、学年による差は少なく、肯定的な意見が最も少ない「1年次生」との差は5.6ポイントとなっていた。



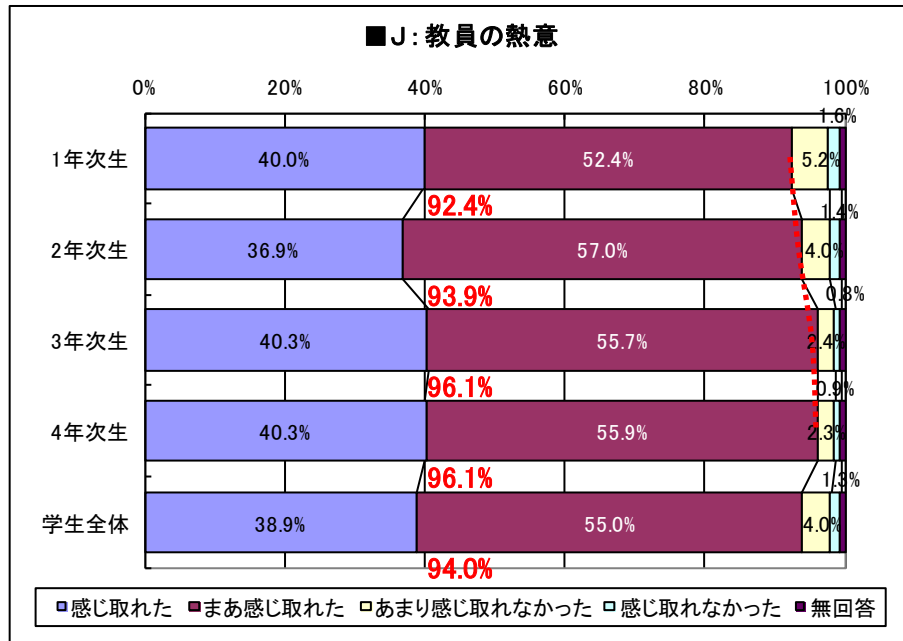
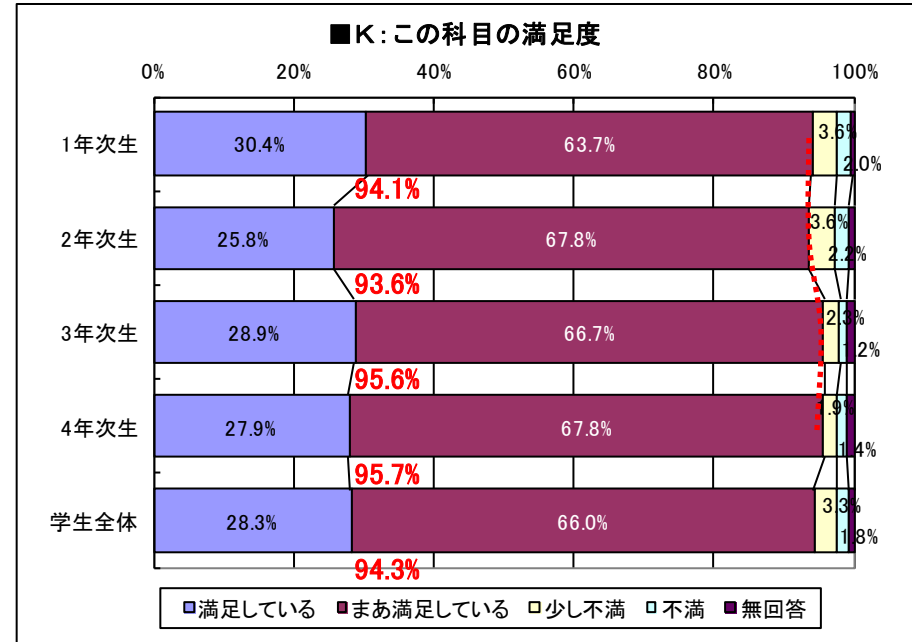
- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して、「1時間程度」までの合計で比べると、「4年次生」が74.9%と最も勉強をしており、「3年次生」はわずかに少なく72.8%、「2年次生」が60.1%、「1年次生」が50.3%と続き、高学年ほど勉強している傾向が見られた。ただし、「2時間以上」だけで見ると「3年次生」が最も多く、しっかりと勉強している様子がうかがえた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学年による差が非常に小さかった。他の設問では「3年次生」が高めであったが、この設問では「4年次生」で肯定的な意見が88.9%と、差は小さいものの最も高かった。一方で肯定的な意見が最も少なかったのは「2年次生」の84.6%であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も学年による差が小さく、肯定的な意見の合計では「3年次生」が最も多く93.3%で、最も少ない「1年次生」(89.3%)との差は4.0ポイントとなっていた。また、この設問でも「4年次生」は91.6%とやや高めであり、授業のサポートツールに関しては高学年の評価が高いという傾向が見られた。



- 「G:学習支援計画書との一致」に関して肯定的な意見の合計を学年別に比較したところ、いずれの学年も95.0%以上が肯定的な意見で、非常に評価が高く、学年による差は見られなかった。「沿っていた」という回答だけで比較すると、「2年次生」が35.6%とやや低かったが、その他の学年では4割以上が「沿っていた」と評価していた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も肯定的な意見の合計は学年による差が非常に小さく、いずれの学年も9割以上が肯定的な意見であった。「適切だった」という回答だけで比較すると「2年次生」が33.7%とやや少なく、最も多い「1年次生」の40.3%と比較すると6.6ポイントの差がついていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関して、「相談しなかった」という回答を学年別に比較したところ、最も少なかったのは「4年次生」の55.6%であり、最も多かったのは「2年次生」の62.7%であった。そして、「有効であった」と「まあ有効であった」の合計でも「4年次生」は41.0%と高い評価をしており、「3年次生」が38.3%、「1年次生」が35.2%、「2年次生」が33.5%と続いていた。

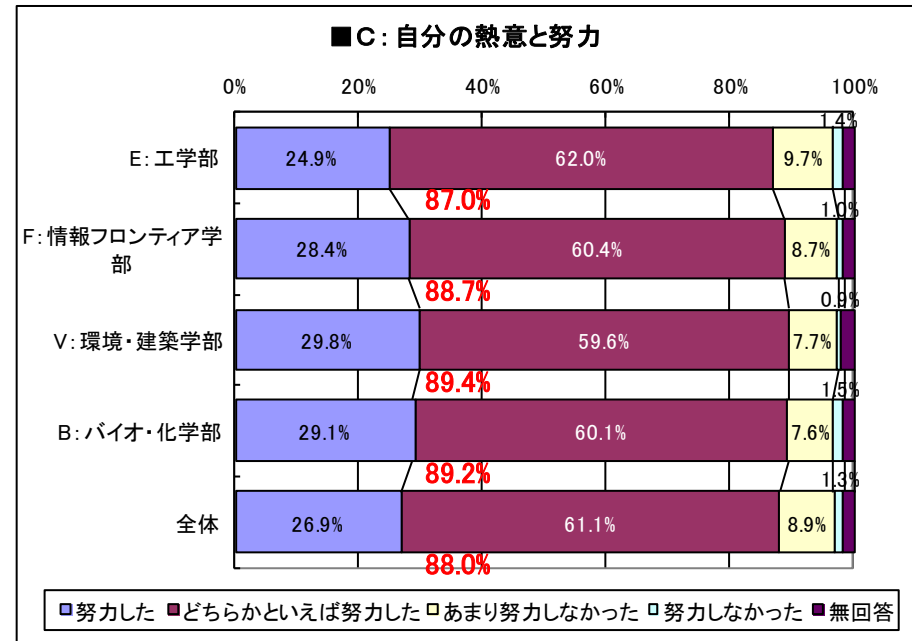
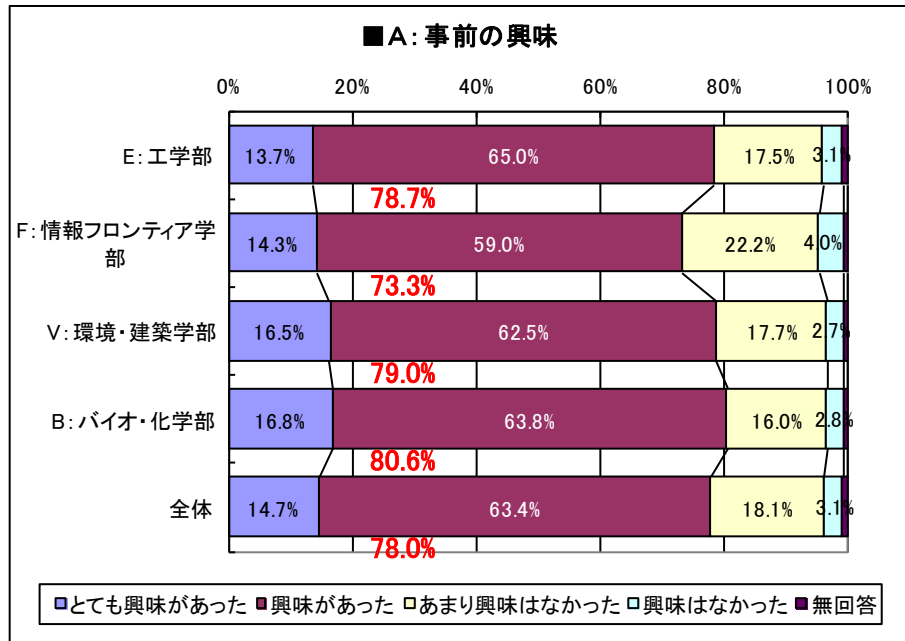
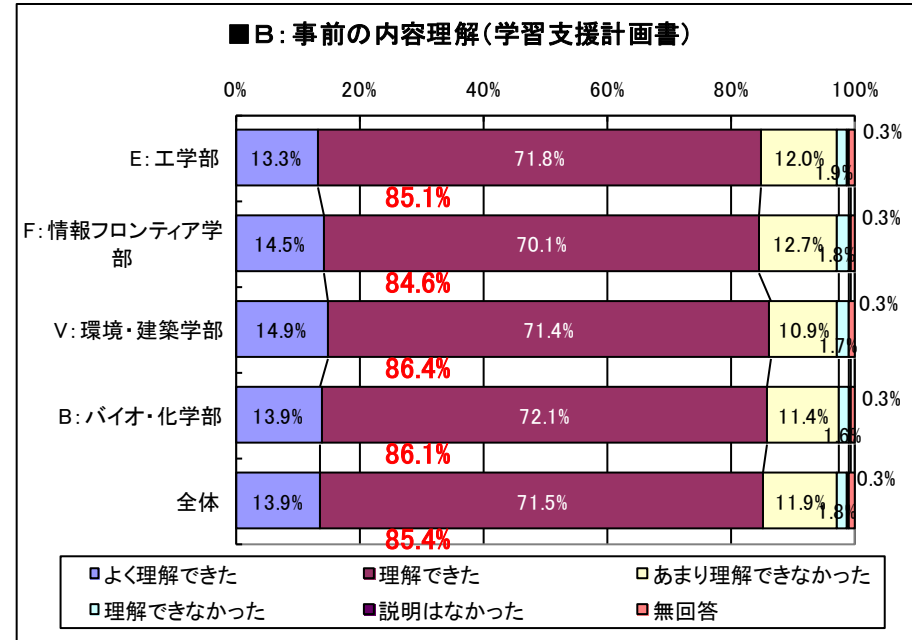


- 「J:教員の熱意」に関して肯定的な意見の合計を学年別に比較すると、いずれの学年でも9割以上が肯定的な意見であり、高い評価となっていた。そして、わずかな差ではあるが高学年ほど高い評価をしていた。「感じ取れた」という回答だけで比較をすると、「2年次生」では36.9%とやや少なかったが、他の学年はいずれも4割を超えており、差は少なかった。
- 「K:この科目の満足度」でも肯定的な意見の合計で比較すると、「4年次生」が95.7%、「3年次生」が95.6%とほとんど差がなく、最も低い「2年次生」の93.6%との差も非常に小さかった。ただし、「満足している」という回答だけで見ると低学年の「1年次生」が30.4%と最も高くなっており、最も低い「2年次生」(25.8%)との差は4.6ポイントとなっていた。

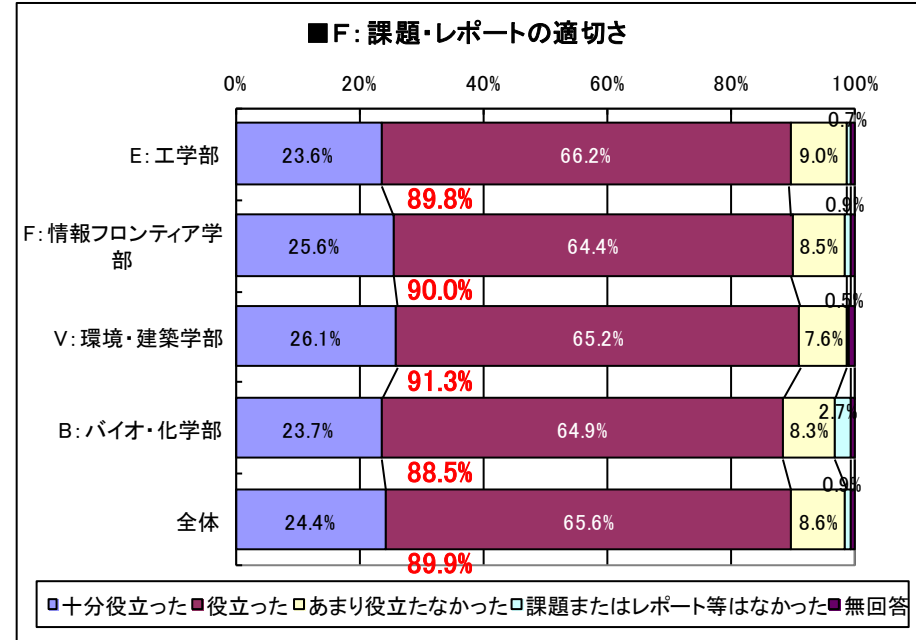
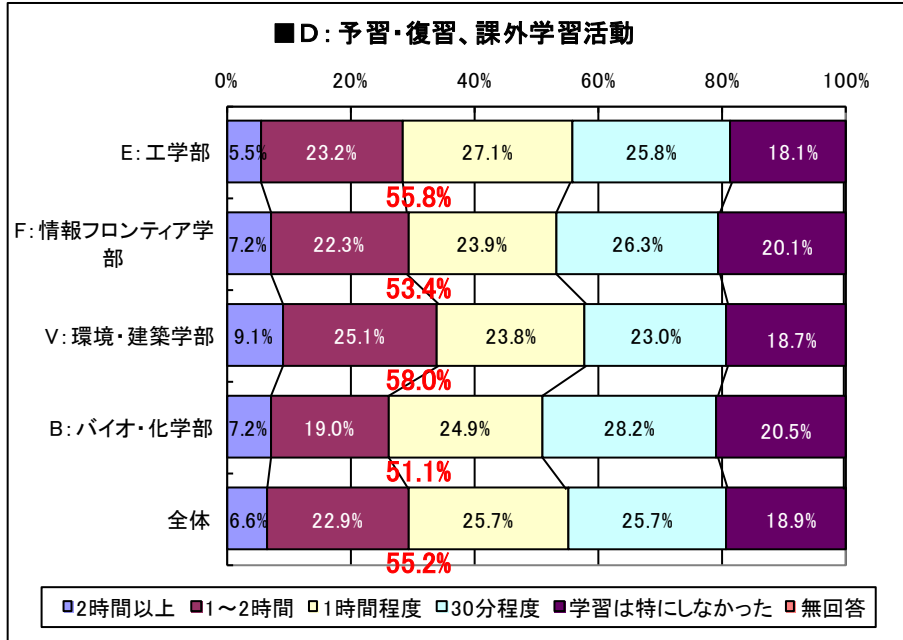
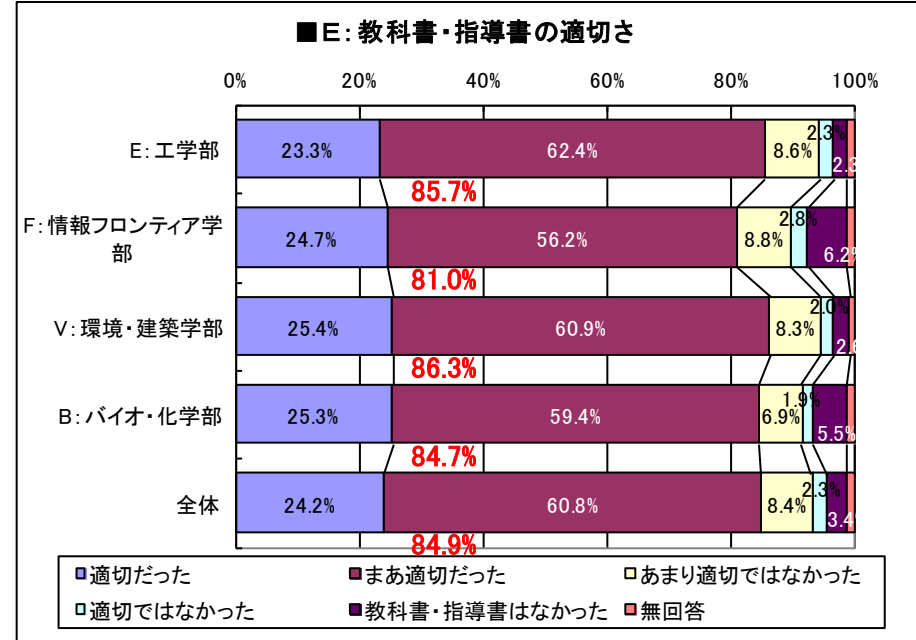


<4> 学部・学科別の分析

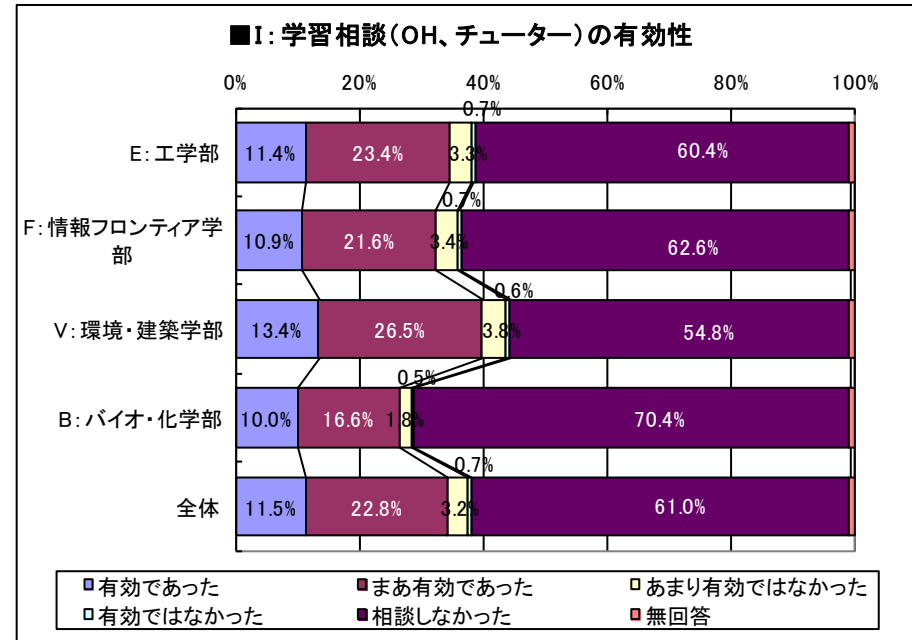
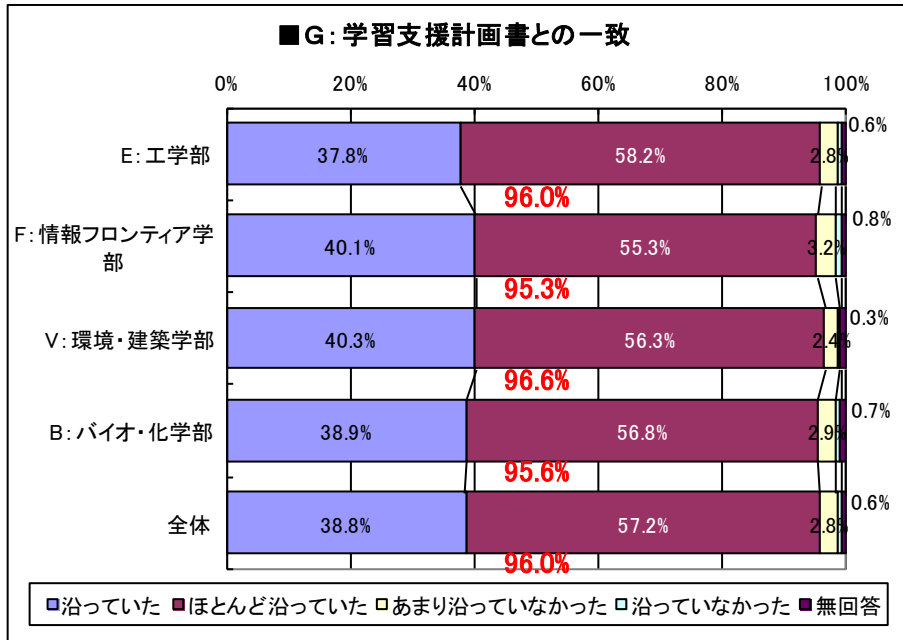
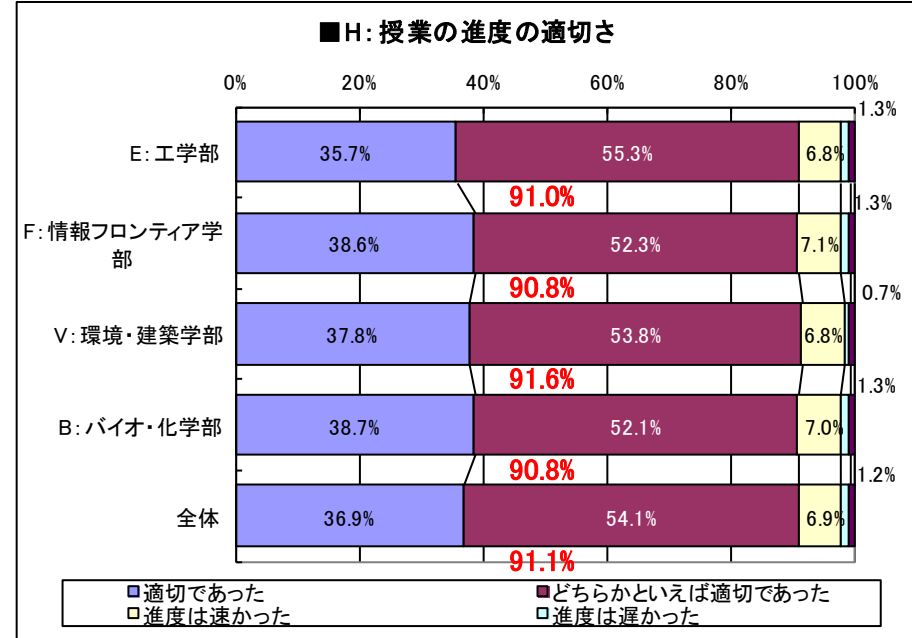
- 今回は「1年次生」と「2年次生」が新しい学部構成になるため、「3～4年次生」とは別集計とした。また、留年生は集計から除外している。
- 「A:事前の興味」を肯定的な意見の合計で比較すると、「B:バイオ・化学部」が80.6%と最も高く、次いで「V:環境・建築学部」が79.0%、「E:工学部」が78.7%であり、ここまでの3学部には大きな差は見られなかった。「F:情報フロンティア学部」は73.3%で、やや低めとなっていた。
- 「B:事前の内容理解」では学部間の差は非常に少なく、肯定的な意見が最も高い「V:環境・建築学部」(86.4%)と最も低い「F:情報フロンティア学部」(84.6%)との差は1.8ポイントであった。
- 「C:自分の熱意と努力」を肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が最も高く89.4%であり、最も低い「E:工学部」の87.0%とは2.4ポイントの差であった。しかし、「努力した」という回答だけで比べると、「V:環境・建築学部」(29.8%)、「B:バイオ・化学部」(29.1%)、「F:情報フロンティア学部」(28.4%)の3学部の差は少なかったが、「E:工学部」は24.9%であり、やや差が見られた。



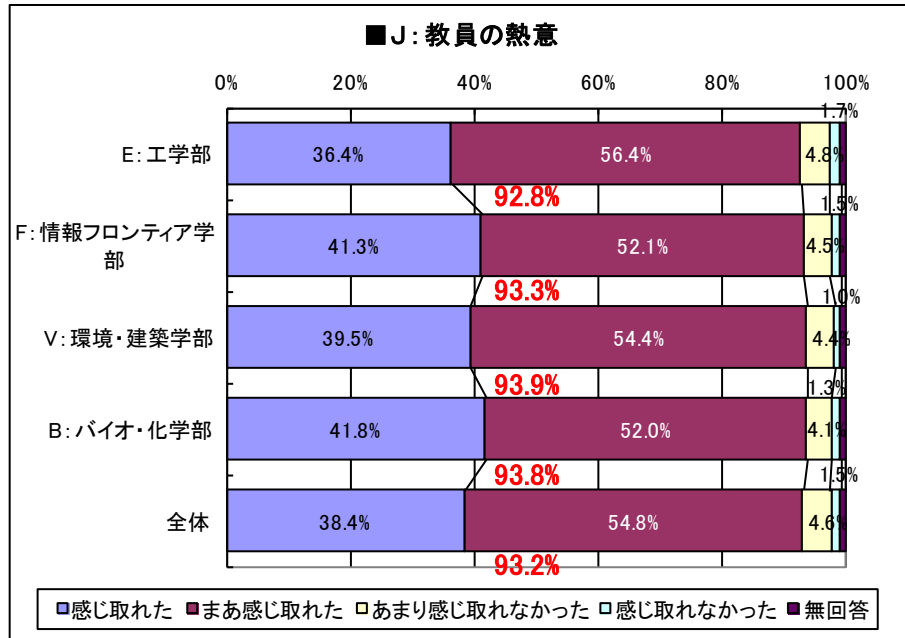
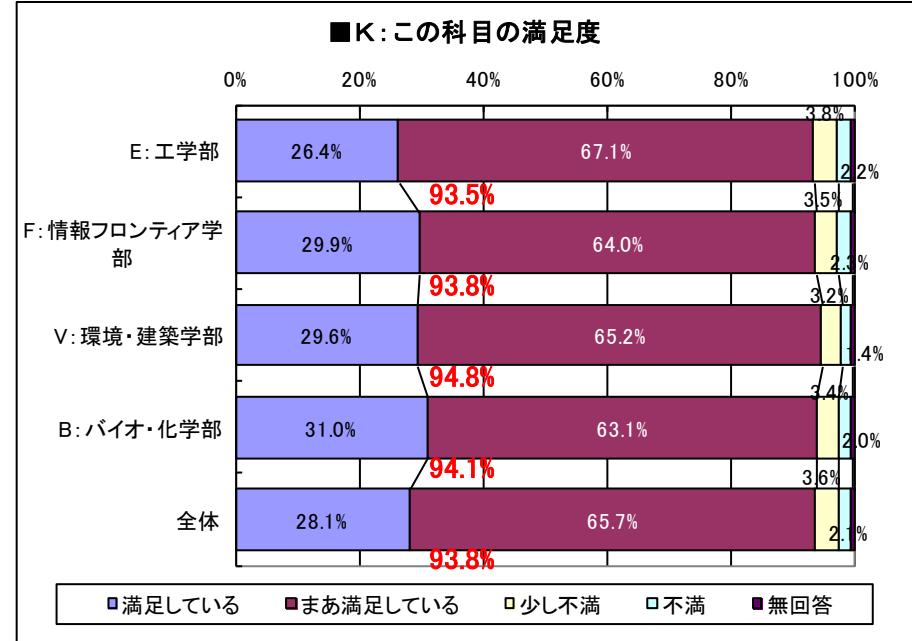
- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して「1時間程度」までの合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が最も高く58.0%であり、最も低い「B:バイオ・化学部」(51.1%)と比べると6.9ポイントの差が見られた。また、「V:環境・建築学部」では「2時間以上」が9.1%、「1～2時間」が25.1%であり、しっかりと勉強している様子がうかがえた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「V:環境・建築学部」の86.3%であった。次いで「E:工学部」が85.7%、「B:バイオ・化学部」が84.7%であり、この3学部の差は小さかったが、「F:情報フロンティア学部」は81.0%と、肯定的な意見がやや少なくなっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は学部間の差が少なく、肯定的な意見が最も多い「V:環境・建築学部」は91.3%であり、最も少ない「B:バイオ・化学部」の88.5%との差は2.8ポイントであった。



- 「G:学習支援計画書との一致」はいずれの学部でも評価が高く、肯定的な意見の合計は全学部で95.0%を超えていた。「沿っていた」という回答だけで比べても、最も多い「V:環境・建築学部」の40.3%に対して、最も少ない「E:工学部」は37.8%であり、差は2.5ポイントとなっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学部間の差が少なく、いずれの学部も90.0%以上が肯定的な意見であった。肯定的な意見の合計が最も多かったのは「V:環境・建築学部」の91.6%で、最も少なかったのは「F:情報フロンティア学部」と「B:バイオ・化学部」の90.8%であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」について「相談しなかった」という回答で比較すると、「B:バイオ・化学部」の70.4%が目立って高く、最も低かった「V:環境・建築学部」(54.8%)との差は15.6ポイントであった。そして、肯定的な意見の合計は「V:環境・建築学部」が39.9%で最も多かった。



- 「J:教員の熱意」は全学部で92.0%以上が肯定的な意見であり、学部間の差も少なかった。いずれの学部も教員の熱意を感じているが、最も高かったのは「V:環境・建築学部」の93.9%であり、「B:バイオ・化学部」(93.8%)、「F:情報フロンティア学部」(93.3%)、「E:工学部」(92.8%)と続いていた。
- 「K:この科目の満足度」も肯定的な意見がいずれの学部でも93.0%を超えており、満足度は非常に高いと言える。そして、最も満足度が高い「V:環境・建築学部」(94.8%)と最も満足度が低い「E:工学部」(93.5%)との差は1.3ポイントと少なかった。ただし、「満足している」という回答だけで比較すると、「E:工学部」では26.4%であり、他の学部と比べると約3ポイント以上の差がついていた。



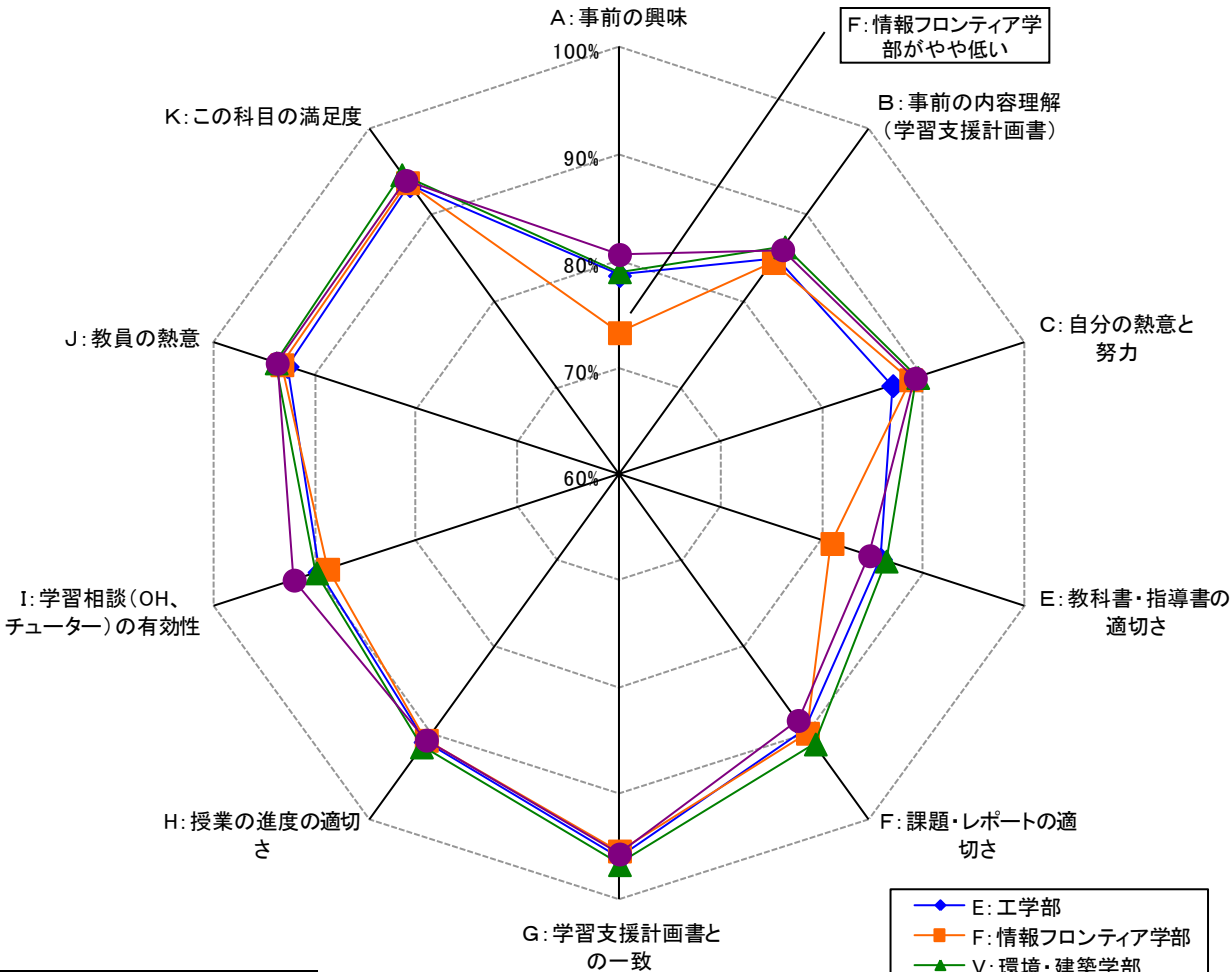
<4-2> 肯定的な意見の学部別比較(1~2年次生)

- 新学部構成の「1年次生」と「2年次生」の肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートでまとめた。
- 学部の差はそれほど大きくなかったが、いくつかの項目で「F:情報フロンティア学部」がやや低めであった。特に「A:事前の興味」の低さが目立っており、「E:教科書・指導書の適切さ」も低かった。
- 大きな差ではないが「B:バイオ・化学部」でやや高めの項目が見られ、特に「A:事前の興味」と「I:学習相談の有効性」が高かった。
- 「E:工学部」は全体的に中庸な結果となっていたが、「C:自分の熱意と努力」はやや低めであった。
- 「V:環境・建築学部」は大きな特徴は見られなかったが、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」がやや高めとなっていた。
- 重要な指標である「K:この科目の満足度」は学部による差が非常に小さく、いずれの学部も高かった。

■ 学部別比較レーダーチャート

(1~2年次生のみ)

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



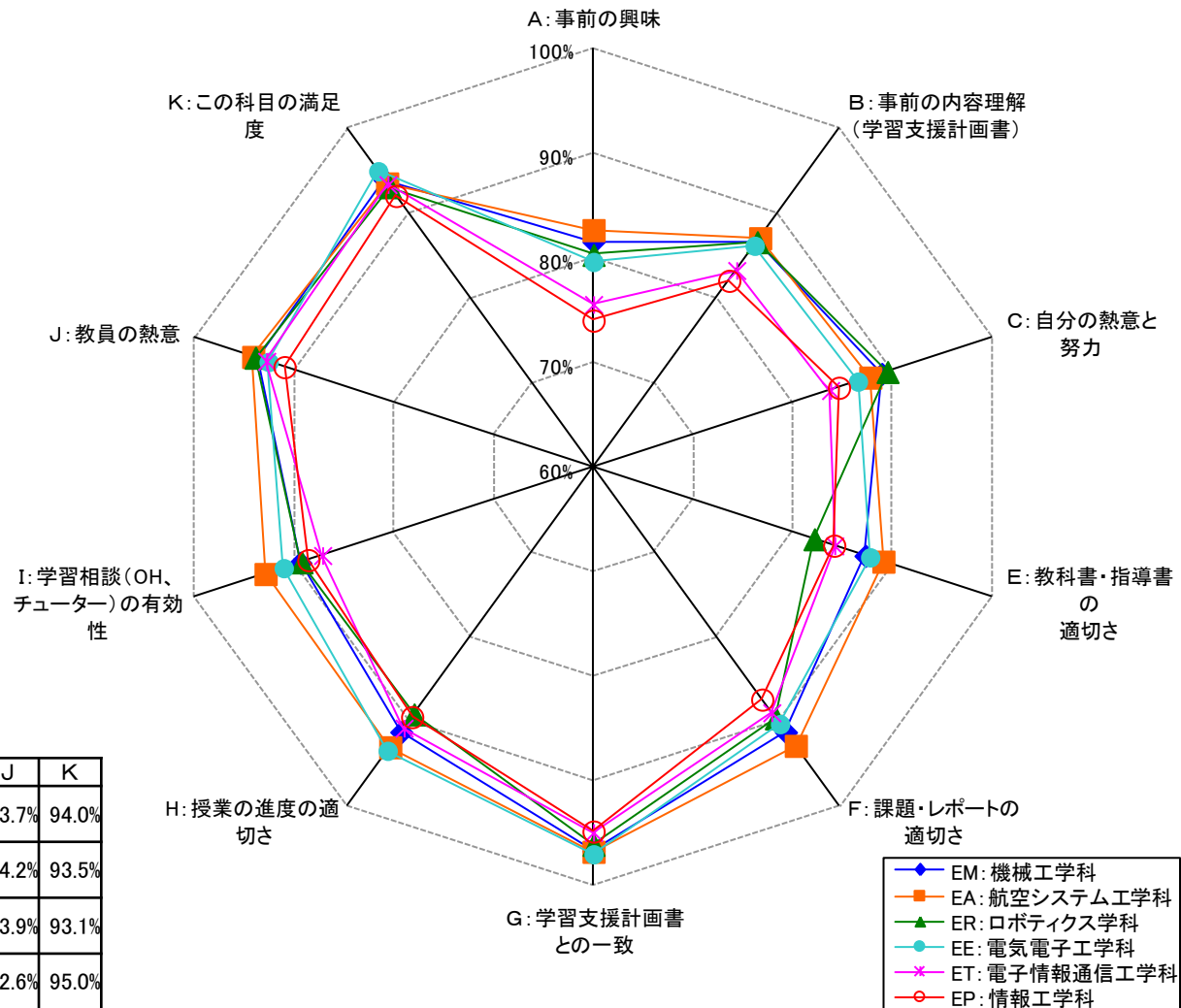
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	78.7%	85.1%	87.0%	85.7%	89.8%	96.0%	91.0%	89.6%	92.8%	93.5%
F: 情報フロンティア学部	73.3%	84.6%	88.7%	81.0%	90.0%	95.3%	90.8%	88.8%	93.3%	93.8%
V: 環境・建築学部	79.0%	86.4%	89.4%	86.3%	91.3%	96.6%	91.6%	89.9%	93.9%	94.8%
B: バイオ・化学部	80.6%	86.1%	89.2%	84.7%	88.5%	95.6%	90.8%	92.1%	93.8%	94.1%

<4-3> 肯定的な意見の学科別比較(1~2年次生)

- 「1年次生」と「2年次生」は学科構成が同じなので、学科別集計はこの2学年を合わせて行った。また、学科数が多いので学部毎に分けて比較をしている。
- 「工学部」の6学科の比較では、全体的に「EA:航空システム工学科」が高めであった。特に「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「I:学習相談の有効性」の高さが目立っていた。
- 一方、全体的に低めであったのは「EP:情報工学科」と「ET:電子情報通信工学科」で、この2学科では特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」の低さが目立っていた。
- 上記以外の特徴として、「ER:ロボティクス学科」では「C:自分の熱意と努力」が高く「E:教科書・指導書の適切さ」が低いという特徴が見られた。
- 主要な指標である「K:この科目の満足度」は学科による差が小さかったが、「EE:電気電子工学科」がやや高く、「EP:情報工学科」がやや低くなっていた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

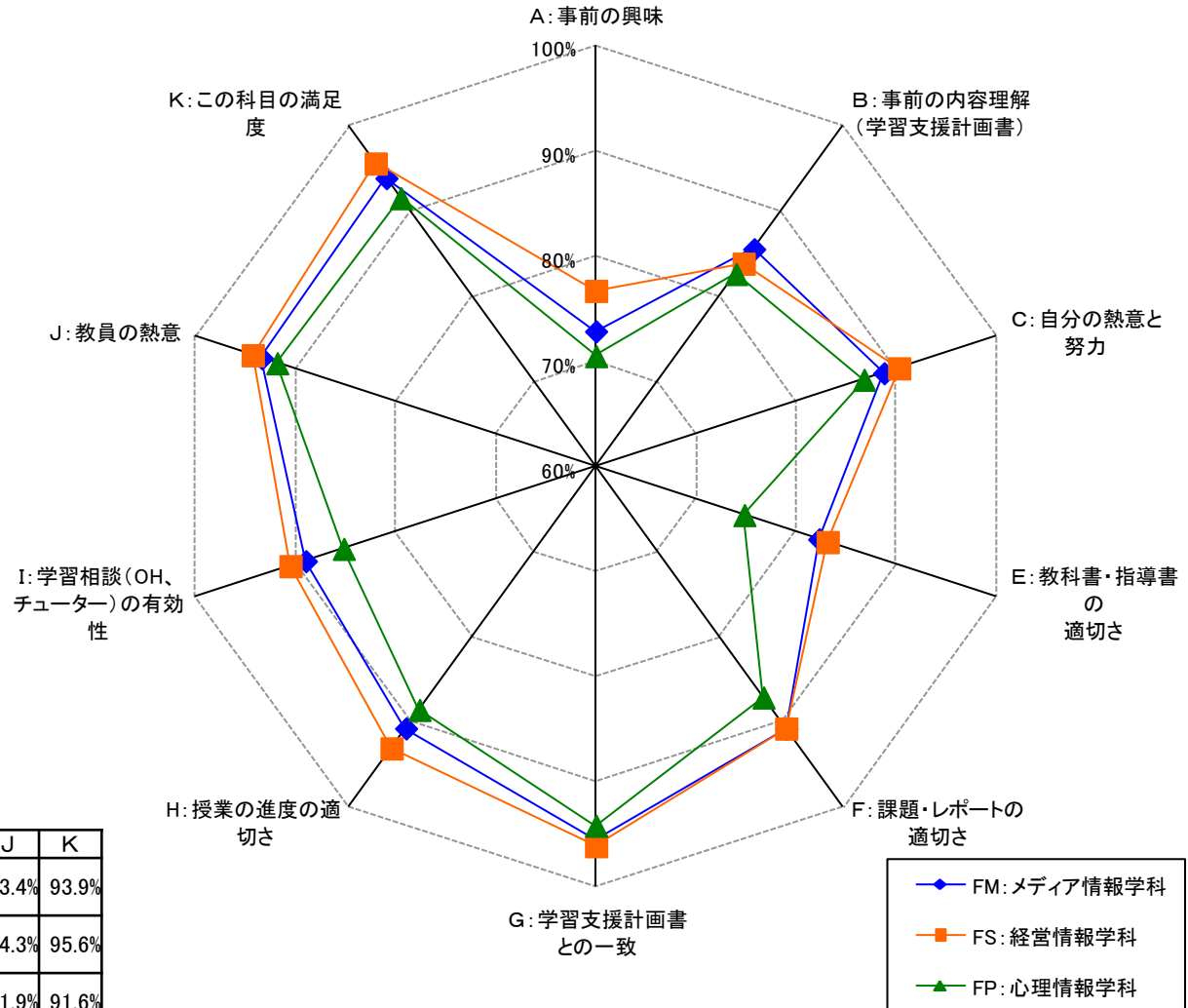


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	81.5%	86.6%	88.9%	87.3%	91.3%	96.6%	91.2%	89.4%	93.7%	94.0%
EA: 航空システム工学科	82.7%	87.1%	87.8%	89.1%	92.9%	96.7%	93.0%	92.9%	94.2%	93.5%
ER: ロボティクス学科	80.3%	86.6%	89.5%	82.2%	89.6%	96.0%	89.1%	89.3%	93.9%	93.1%
EE: 電気電子工学科	79.6%	86.2%	86.5%	87.8%	90.3%	96.9%	93.4%	91.1%	92.6%	95.0%
ET: 電子情報通信工学科	75.6%	83.3%	83.8%	84.2%	88.9%	94.8%	90.8%	87.2%	92.8%	93.4%
EP: 情報工学科	74.0%	82.0%	84.6%	84.2%	87.4%	94.8%	89.5%	88.6%	91.0%	92.1%

- 情報フロンティア学部の3学科を比較したところ、全体的に差が見られた。
- 全体的に肯定的な意見が多かったのは「FS:経営情報学科」であり、ほとんどの項目で肯定的な意見が最も多かった。特に「A:事前の興味」の高さが目立っており、大きな差ではないが「K:この科目の満足度」も最も高かった。
- 一方、全体的に低かったのは「FP:心理情報学科」であり、すべての項目で最も低くなっていた。特に「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っていた。
- 「FM:メディア情報学科」は全体的に中庸な結果となっていたが、「B:事前の内容理解」は「FS:経営情報学科」を上回って最も高く、「F:課題・レポートの適切さ」もわずかな差ではあるが最も高かった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

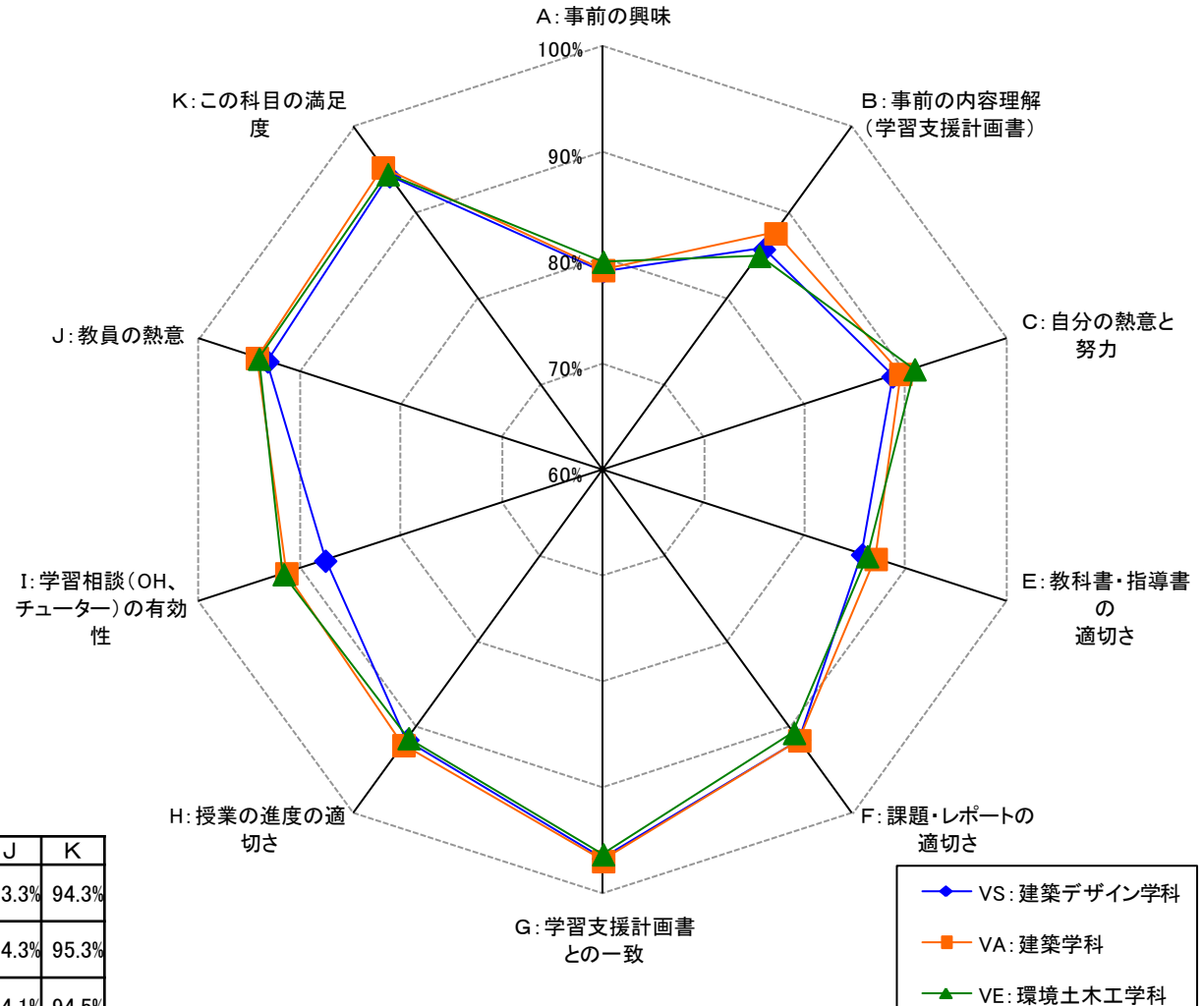


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	72.9%	85.6%	88.8%	82.3%	90.8%	95.5%	90.7%	89.0%	93.4%	93.9%
FS:経営情報学科	76.7%	83.9%	90.3%	83.2%	90.7%	96.1%	93.1%	90.5%	94.3%	95.6%
FP:心理情報学科	70.5%	82.7%	86.8%	74.8%	87.1%	94.1%	88.6%	85.2%	91.9%	91.6%

- 環境・建築学部の3学科では、学科間の差は非常に小さく、いずれの学科も似た傾向になっていた。
- 「VS:建築デザイン学科」は「I:学習相談の有効性」の低さが目立っていたが、他には大きな特徴は見られなかった。
- 「VA:建築学科」はわずかな差ではあるが最も高い項目が多く、「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」などがやや高かった。また、「K:この科目の満足度」もわずかな差ではあるものの最も高くなっていた。
- 「VE:環境土木工学科」でも目立つものはなかったが、「C:自分の熱意と努力」はわずかな差ではあるが他の2学科を上回って最も高くなっていた。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

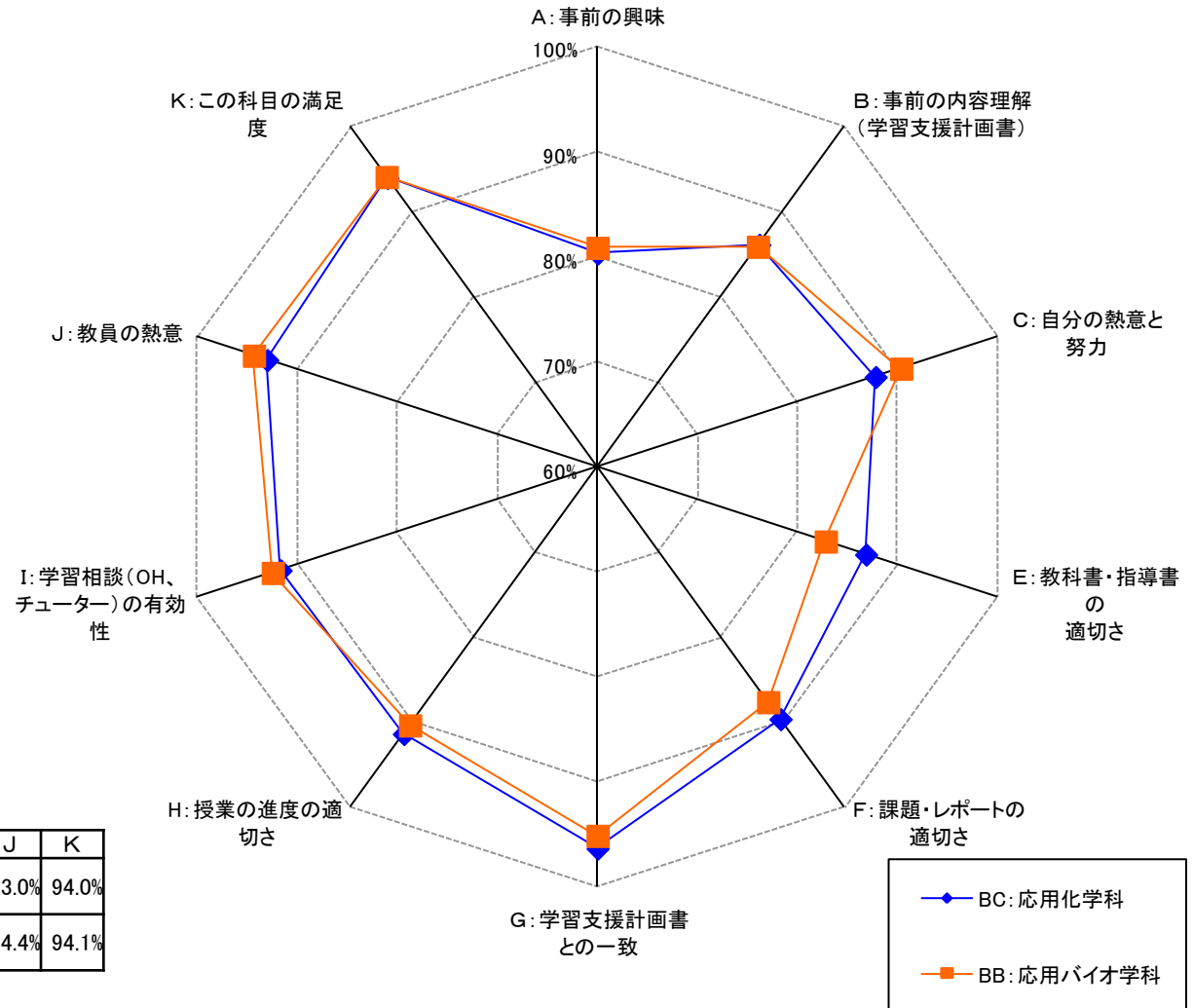


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VS: 建築デザイン学科	78.8%	85.8%	88.7%	85.7%	91.4%	96.6%	91.4%	87.5%	93.3%	94.3%
VA: 建築学科	78.9%	87.6%	89.5%	87.0%	91.5%	96.8%	92.0%	91.4%	94.3%	95.3%
VE: 環境土木工学科	79.7%	85.0%	90.9%	86.2%	90.6%	96.2%	91.2%	91.7%	94.1%	94.5%

- バイオ・化学部の2学科ではいくつかの項目で差が見られた。
- 「BC:応用化学科」は「C:自分の熱意と努力」が低く、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」が高かった。
- 「BB:応用バイオ学科」は上記とは逆の結果であり、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」がやや低く、「C:自分の熱意と努力」が高かった。
- 主要な指標である「A:事前の興味」と「K:この科目の満足度」に関しては2つの学科間にほとんど差が見られなかった。

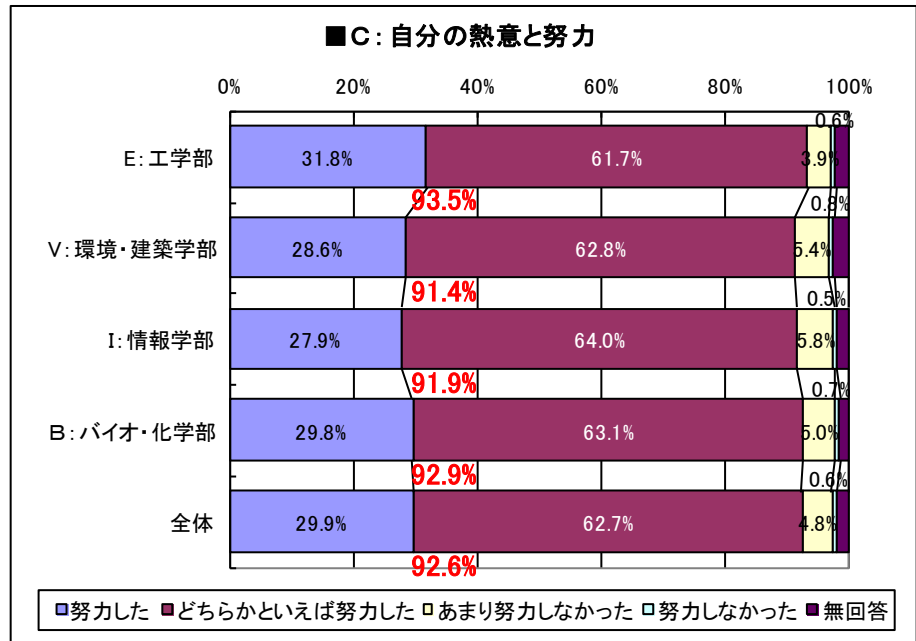
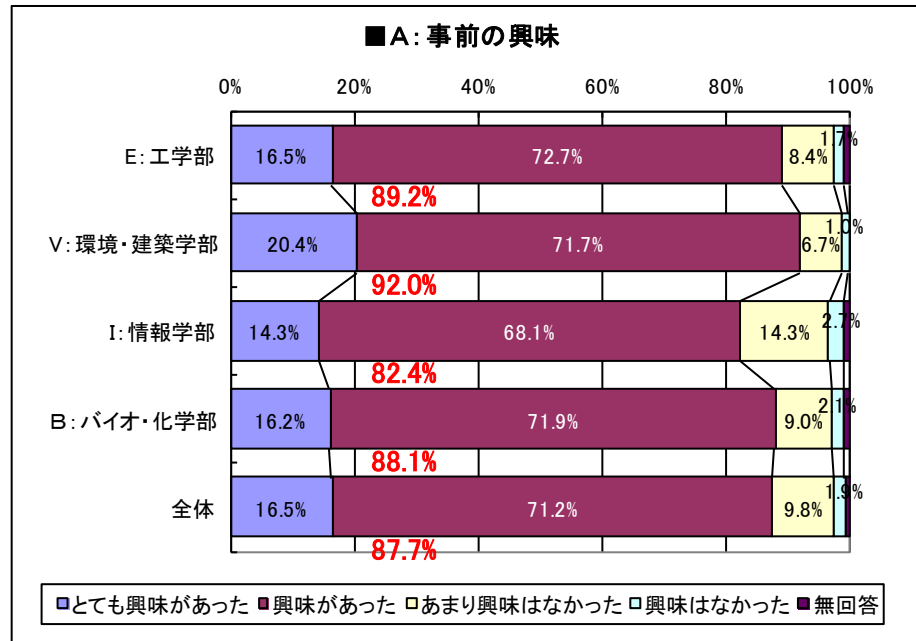
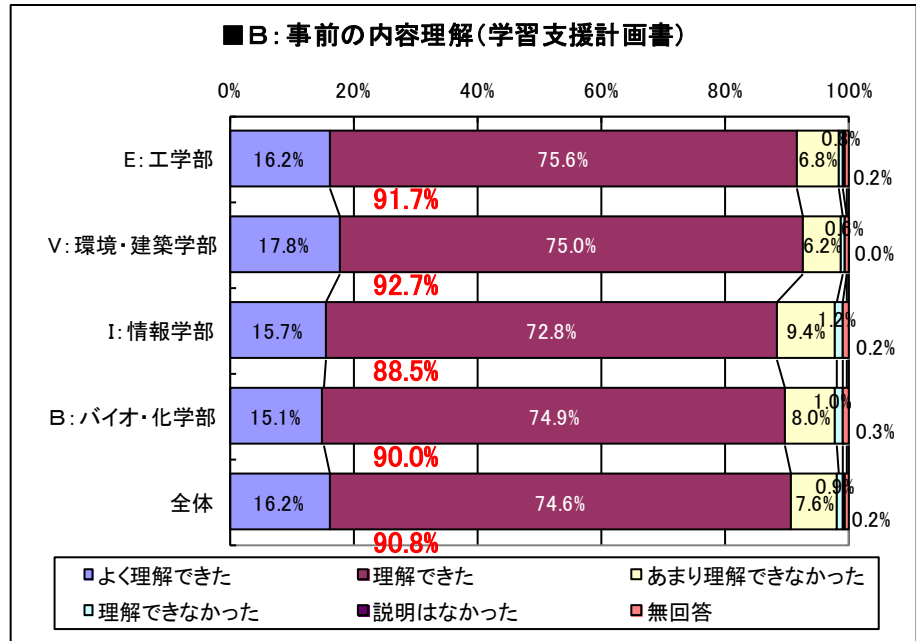
■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



■ バイオ・化学部 学科別比較

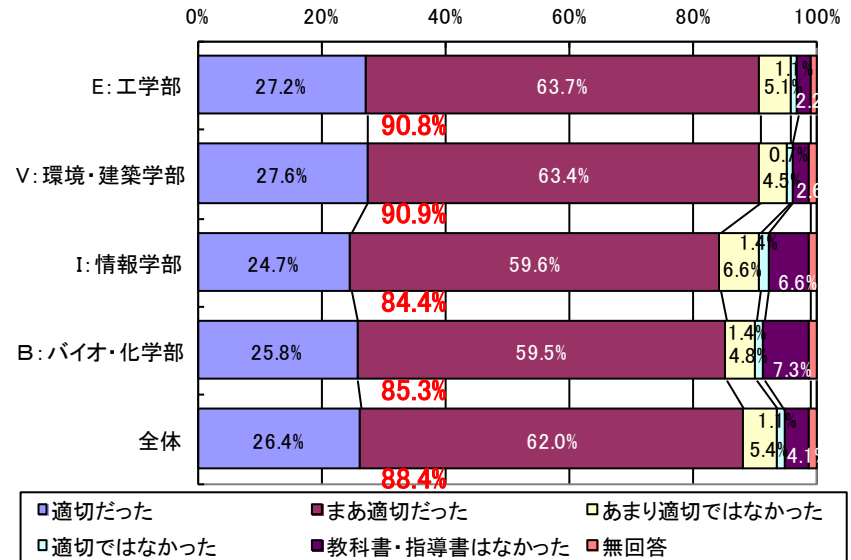
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	80.3%	86.2%	87.8%	86.9%	89.6%	96.3%	91.4%	91.7%	93.0%	94.0%
BB: 応用バイオ学科	80.9%	85.9%	90.4%	82.8%	87.6%	95.1%	90.3%	92.5%	94.4%	94.1%

- 「3年次生」と「4年次生」の学部構成は同一となっているので、一括で学部別の比較を行った。
- 「A:事前の興味」は学部による差が大きく、肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が92.0%で最も高く、次いで「E:工学部」(89.2%)、「B:バイオ・化学部」(88.1%)、「I:情報学部」(82.4%)と続いており、「V:環境・建築学部」と「I:情報学部」との差は9.6ポイントとなっていた。
- 「B:事前の内容理解」は学部間の差はあまり小さくなく、肯定的な意見が最も多かった「V:環境・建築学部」(92.7%)と最も少なかった「I:情報学部」との差は4.2ポイントであった。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部間の差は非常に小さく、肯定的な意見が最も多かった「E:工学部」(93.5%)と最も少なかった「V:環境・建築学部」(91.4%)との差は2.1ポイントで大きな差は見られなかった。

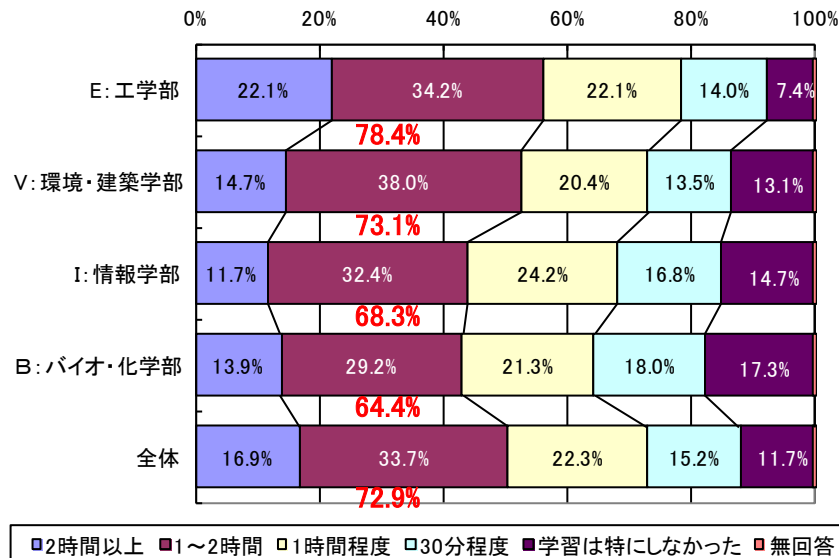


- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して「1時間程度」までの合計で比較すると、「E:工学部」が78.4%で最も多かった。内訳を見ると「2時間以上」が22.1%と他学部と比べても非常に多く、しっかりと学習している様子がうかがえた。上記に次いで「V:環境・建築学部」が73.1%、「I:情報学部」が68.3%、「B:バイオ・化学部」が64.4%となっており、「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」との間には14.0ポイントの大きな差がついていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学部による差がやや大きく、肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」(90.9%)と「E:工学部」(90.8%)との間にはほとんど差はなかったが、「B:バイオ・化学部」が85.3%、「I:情報学部」が84.4%と評価が低く、上位2学部とは6ポイント以上の差となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」では「E:工学部」で肯定的な意見の合計が94.6%、「V:環境・建築学部」で94.4%と同程度であり、次いで「I:情報学部」が92.4%、「B:バイオ・化学部」が88.2%と続いていた。

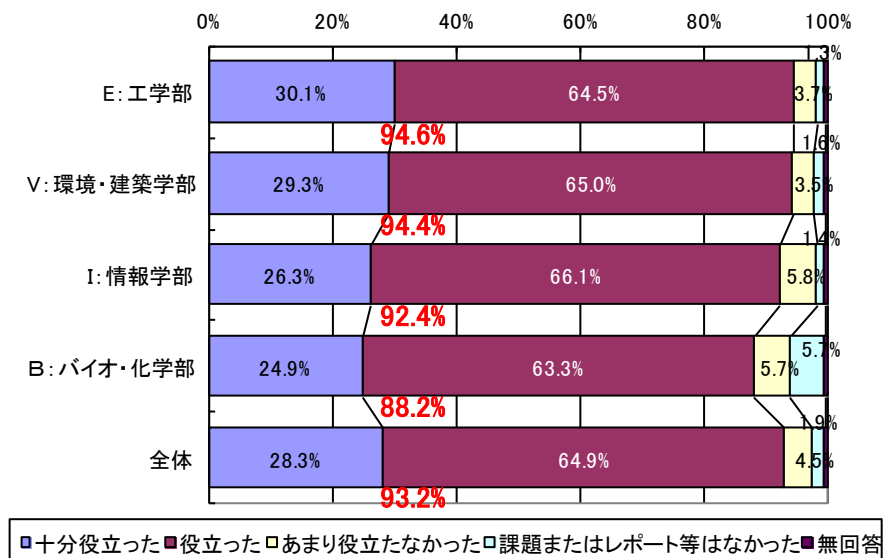
■ E:教科書・指導書の適切さ



■ D:予習・復習、課外学習活動

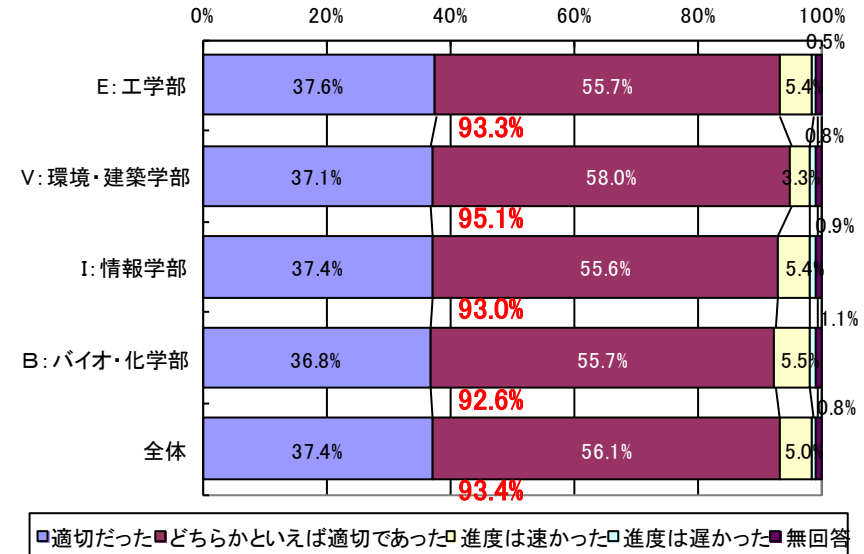


■ F:課題・レポートの適切さ

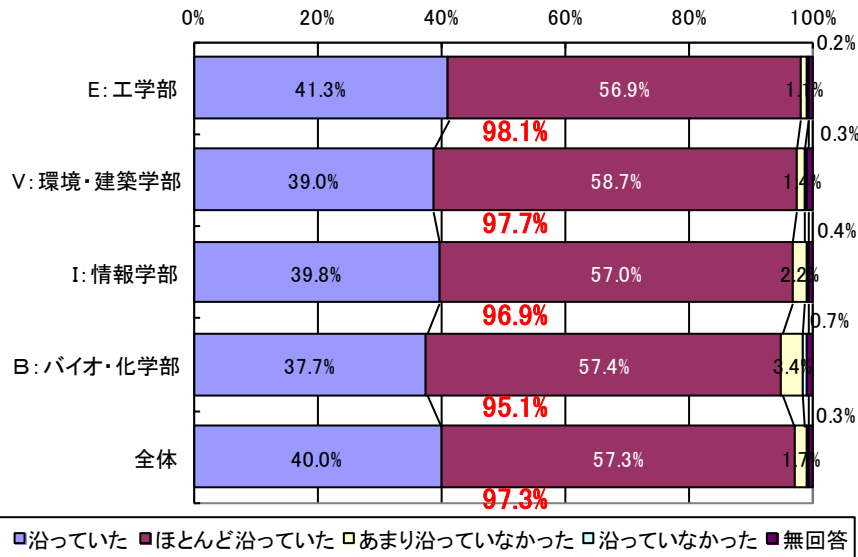


- 「G:学習支援計画書との一致」は全ての学部で95.0%以上が肯定的な意見であり、非常に評価が高かった。特に「E:工学部」では肯定的な意見の合計が98.1%であり、「V:環境・建築学部」が97.7%、「I:情報学部」が96.9%、「B:バイオ・化学部」が95.1%となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学部による差が非常に小さく、「V:環境・建築学部」では肯定的な意見の合計が95.1%で最も高く、最も低かった「B:バイオ・化学部」(92.6%)との差は2.5ポイントであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関して「相談しなかった」の割合で比較すると、「V:環境・建築学部」が47.9%で非常に低かった。そして、「E:工学部」が59.8%、「I:情報学部」が61.1%、「B:バイオ・化学部」が65.4%となっており、「V:環境・建築学部」と「B:バイオ・化学部」との差は17.5ポイントであり、学習相談の利用に関して大きな差が見られた。

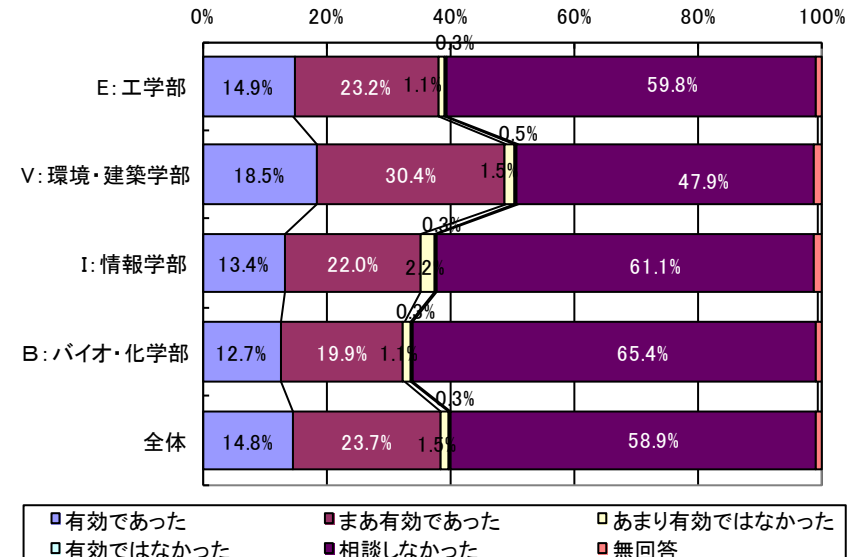
■H: 授業の進度の適切さ



■G: 学習支援計画書との一致

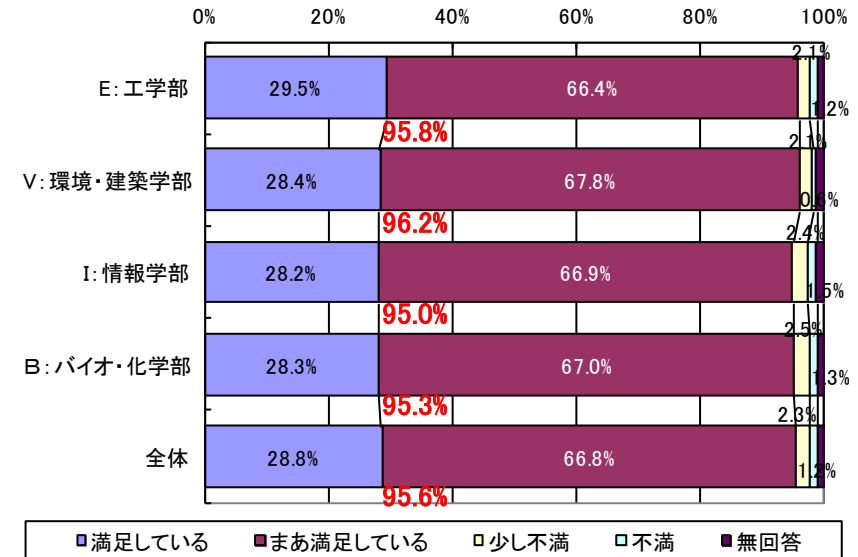


■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性

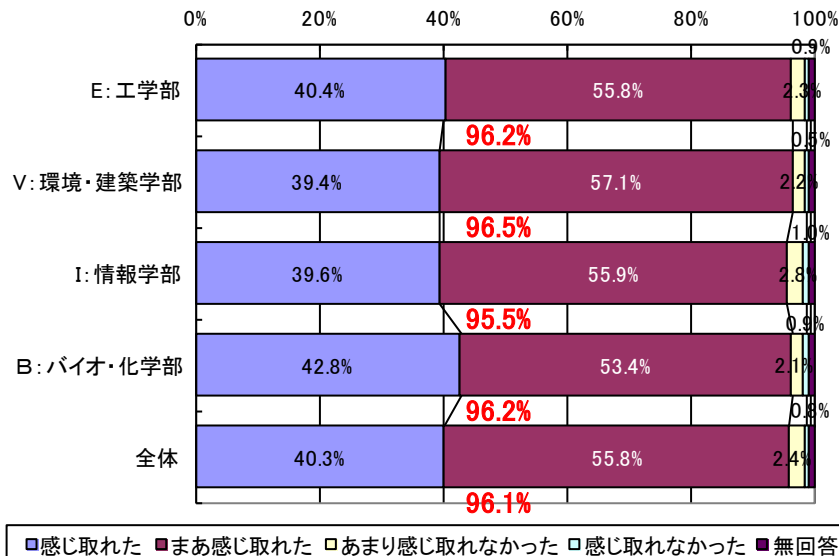


- 「J:教員の熱意」は全体的に非常に高い評価となっており、いずれの学部でも肯定的な意見の合計が95.0%以上となっていた。その中で最も高かったのは「V:環境・建築学部」であり、96.5%が肯定的な意見だった。一方、最も低かったのは「I:情報学部」であったが、ここでも95.5%が肯定的な意見となっていた。
- 「K:この科目の満足度」も全ての学部で95.0%以上が肯定的な意見となっており、満足度は非常に高いと言える。最も満足度が高かったのは「V:環境・建築学部」であり、96.2%が満足という意見であった。次いで、「E:工学部」が95.8%、「B:バイオ・化学部」が95.3%、「I:情報学部」が95.0%であり、学部間の差も非常に少なかった。

■ K:この科目の満足度



■ J:教員の熱意

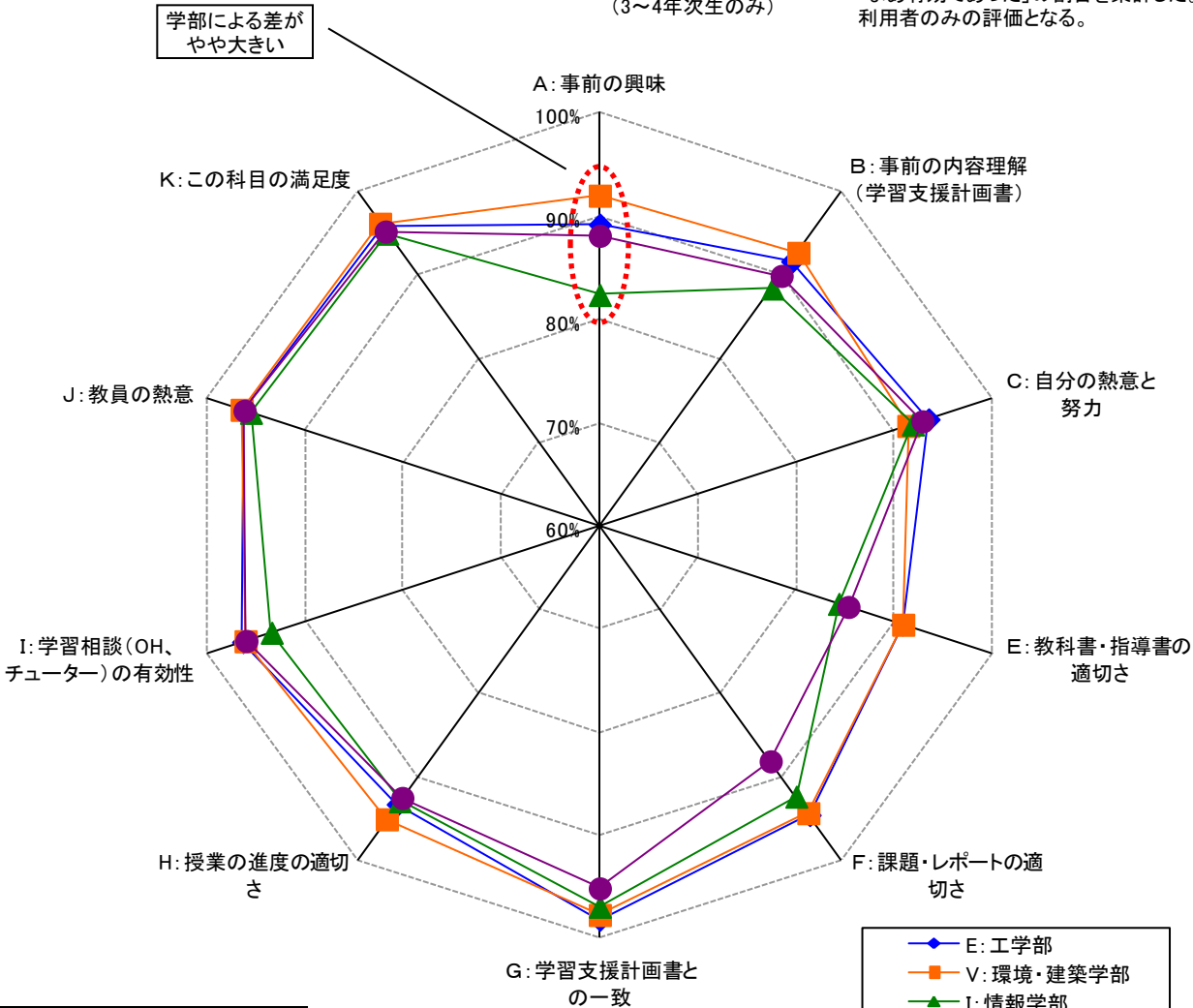


<4-5> 肯定的な意見の学部別比較(3~4年次生)

- 「3年次生」と「4年次生」の肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートでまとめた。
- 全体の傾向として、「A:事前の興味」は他の項目と比べて学部による差がやや大きかった。一方で「K:この科目の満足度」「J:教員の熱意」では学部による差がほとんど見られず、いずれの学部からも高く評価されていた。
- 全体的にやや高めであったのは「V:環境・建築学部」であった。それほど大きな差ではないが「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「H:授業の進度の適切さ」がやや高めで、特に低いものは見あたらなかった。
- 一方、「I:情報学部」は全体的に低めで、特に「A:事前の興味」の低さが目立っており、「B:事前の内容理解」「I:学習相談の有効性」もやや低めであった。
- 上記以外では「B:バイオ・化学部」で「F:課題・レポートの適切さ」「G:学習支援計画書との一致」が低めであった。
- また、この「I:情報学部」と「B:バイオ・化学部」の2学部では、揃って「E:教科書・指導書の適切さ」の評価の低さが目立っていた。

■ 学部別比較レーダーチャート

(3~4年次生のみ)

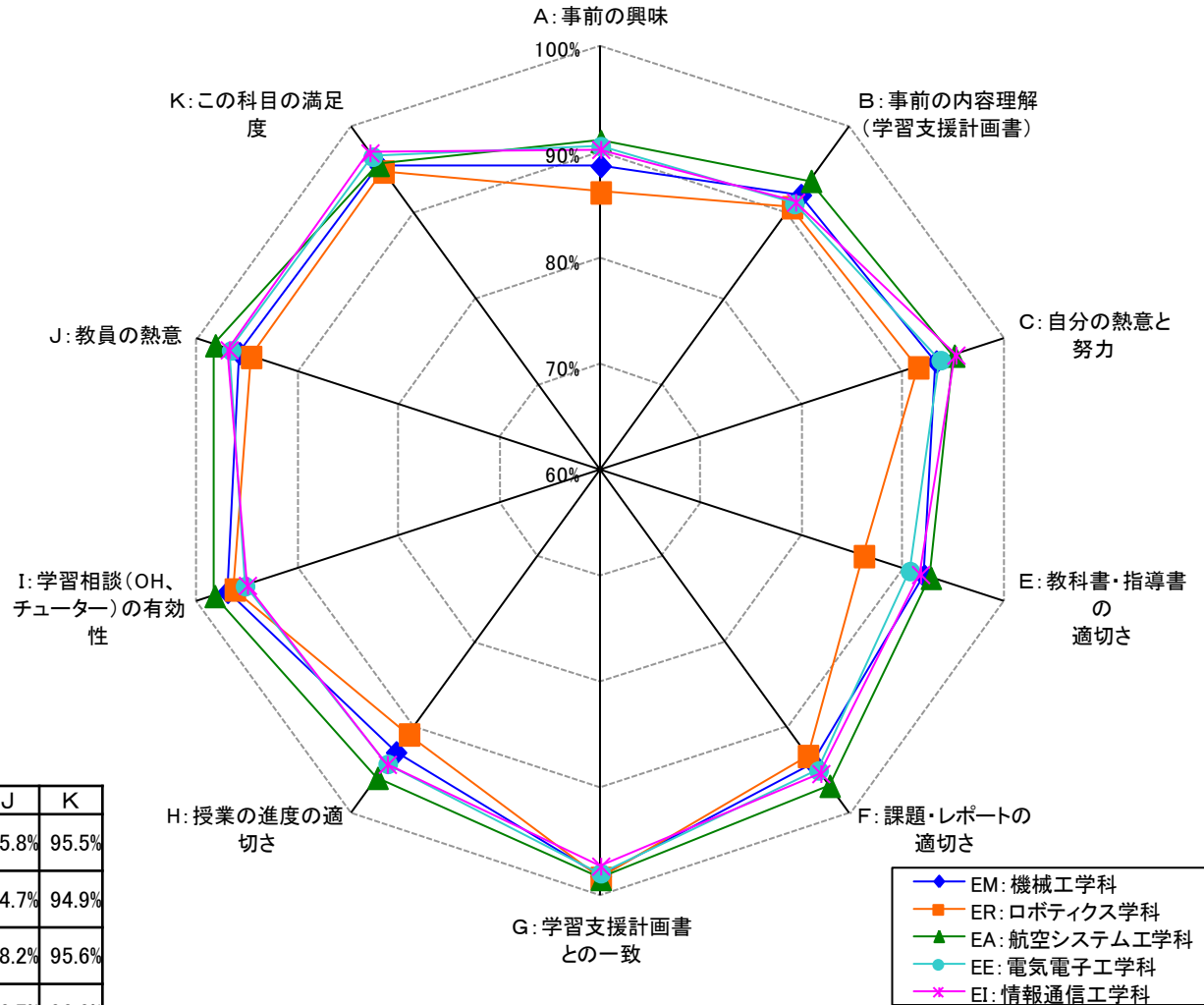


■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	89.2%	91.7%	93.5%	90.8%	94.6%	98.1%	93.3%	96.3%	96.2%	95.8%
V: 環境・建築学部	92.0%	92.7%	91.4%	90.9%	94.4%	97.7%	95.1%	96.1%	96.5%	96.2%
I: 情報学部	82.4%	88.5%	91.9%	84.4%	92.4%	96.9%	93.0%	93.4%	95.5%	95.0%
B: バイオ・化学部	88.1%	90.0%	92.9%	85.3%	88.2%	95.1%	92.6%	96.0%	96.2%	95.3%

- 「3年次生」と「4年次生」は学科構成が同じなので、学科別集計はこの2学年を合わせて行った。また、学科数が多いので学部毎に分けて比較をしている。
- 工学部の5学科の比較では学科間の差はそれほど大きくなかったが、「EA:航空システム工学科」が学科の中で最も高い項目が多かった。ただし、「K:この科目の満足度」はそれほど高くはなく、授業の内容に対しては他の学科より高く評価しているものの、満足度は特に高くないと言えそうであった。
- 一方、全体的に低かったのは「ER:ロボティクス学科」であり、ほとんどの項目で最も評価が低かった。特に「E:教科書・指導書の適切さ」に対する評価は厳しく、「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」「H:授業の進度の適切さ」などの評価も低かった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

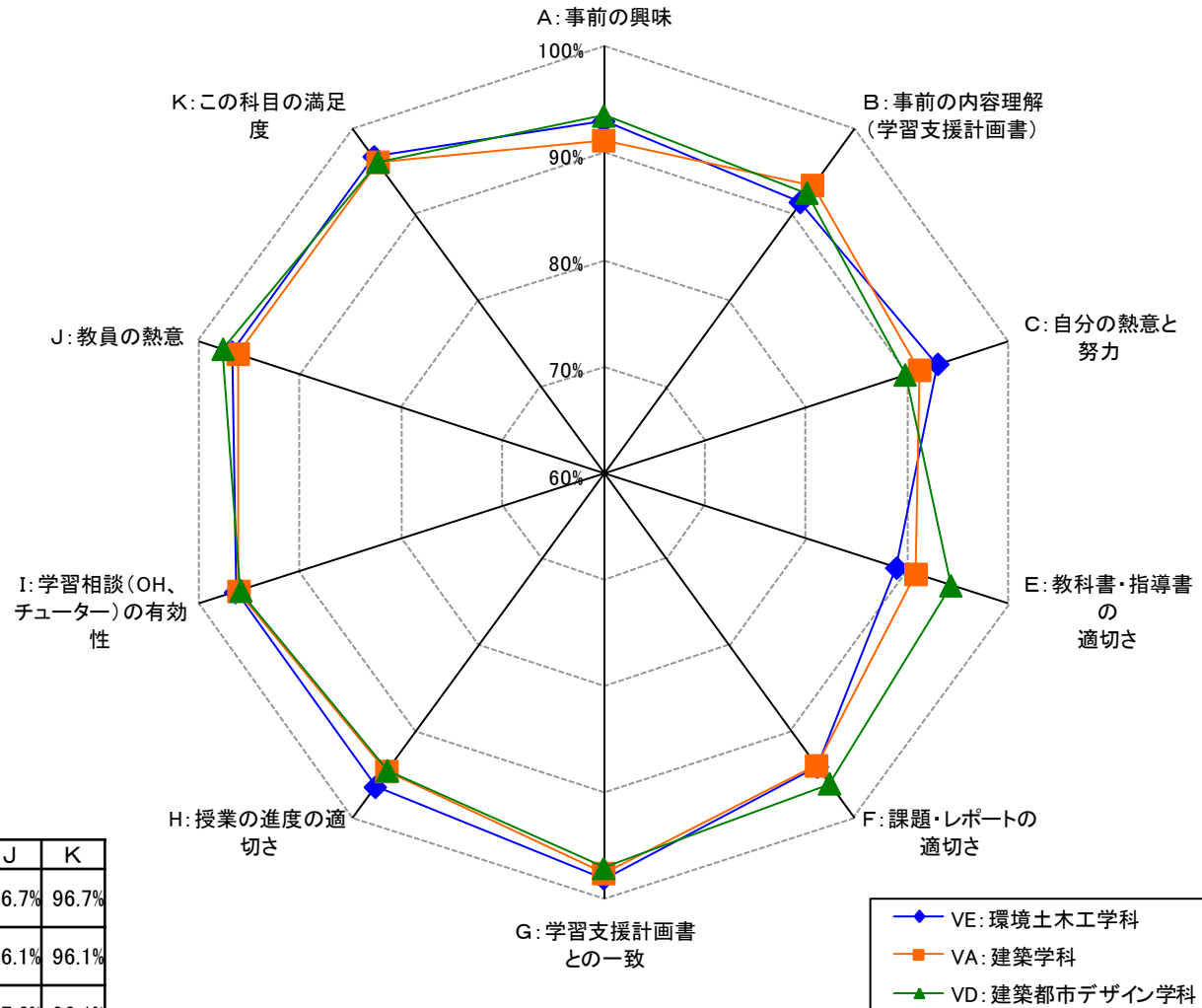


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	88.7%	92.1%	93.3%	92.1%	94.1%	98.2%	92.8%	97.0%	95.8%	95.5%
ER: ロボティクス学科	86.2%	90.7%	91.5%	86.1%	93.3%	98.4%	90.8%	96.3%	94.7%	94.9%
EA: 航空システム工学科	91.1%	93.8%	95.1%	92.7%	96.7%	98.5%	95.8%	98.3%	98.2%	95.6%
EE: 電気電子工学科	90.6%	91.1%	93.7%	90.7%	95.0%	98.0%	94.2%	95.3%	96.7%	96.6%
EI: 情報通信工学科	90.3%	91.3%	95.2%	91.7%	95.3%	97.3%	94.2%	95.0%	96.9%	97.0%

- 環境・建築学部は3学科の比較であるが、学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 特定の学科が全体的に高かったり、低かったりという特徴は見られず、「K:この科目の満足度」ではほとんど差がなかった。
- 項目別に見ると「E:教科書・指導書の適切さ」は学科による差がやや大きく、「VD:建築都市デザイン学科」で肯定的な意見がやや多く、「VE:環境土木工学科」で少なくなっていた。
- 他に学科間に差が見られたのは「C:自分の熱意と努力」であり、ここでは逆転して「VE:環境土木工学科」で肯定的な意見がやや多く、「VD:建築都市デザイン学科」で少なめであった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

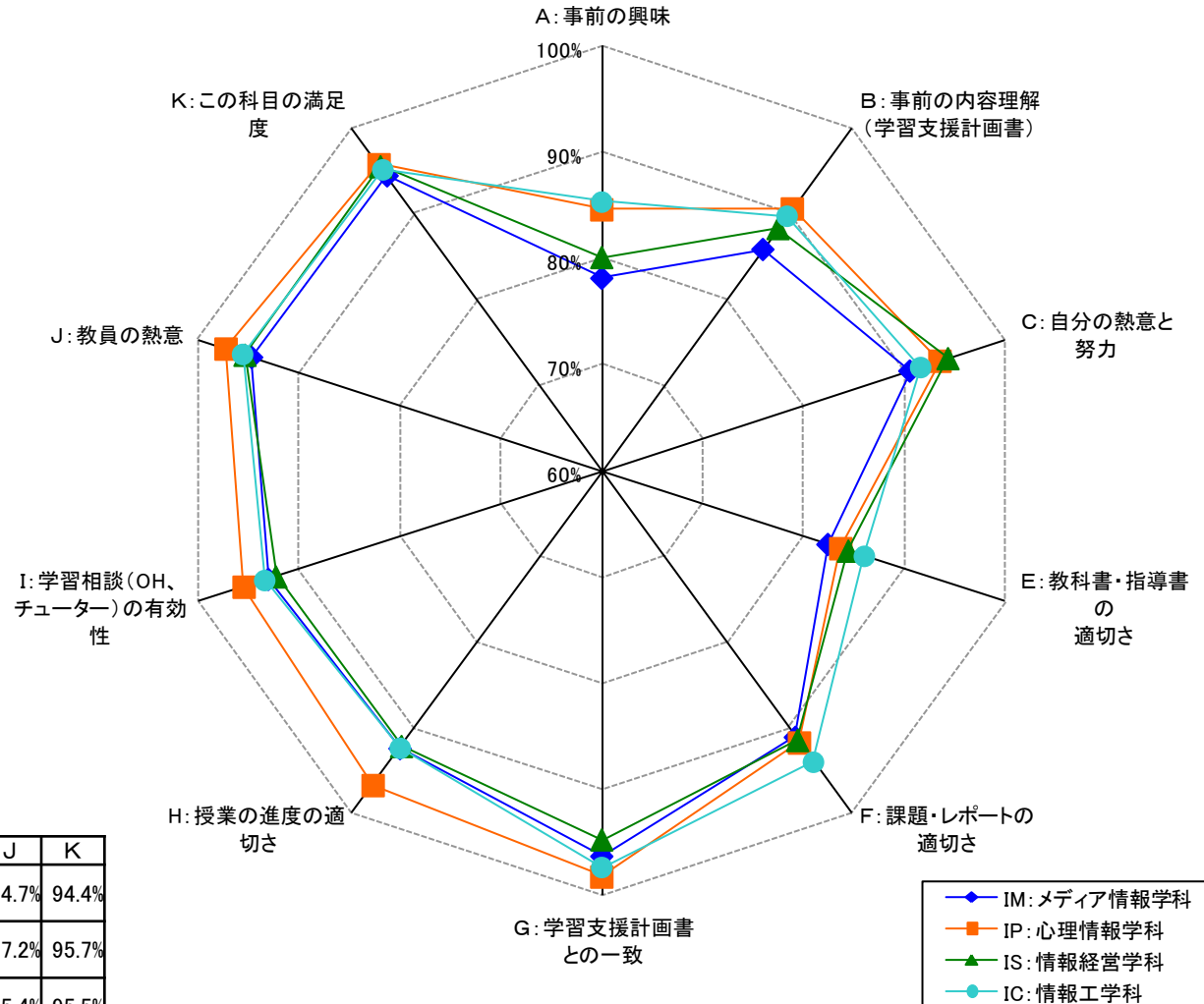


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE:環境土木工学科	93.0%	91.4%	93.0%	88.9%	94.1%	98.1%	96.5%	96.4%	96.7%	96.7%
VA:建築学科	91.2%	93.4%	91.2%	90.8%	94.0%	97.6%	94.7%	96.0%	96.1%	96.1%
VD:建築都市デザイン学科	93.5%	92.5%	89.8%	94.3%	96.1%	97.1%	94.6%	95.8%	97.6%	96.1%

- 情報学部の4学科を比較すると、全体的に「IP:心理情報学科」と「IC:情報工学科」の評価が高めであった。
- 「IP:心理情報学科」は特に「H:授業の進度の適切さ」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」が高めであり、特に低いものは見られなかった。また、「IC:情報工学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」が高めであった。そして、この両学科はともに「A:事前の興味」が高いという特徴が見られた。
- 「IM:メディア情報学科」と「IS:情報経営学科」には低いものが見られたが、特に「IM:メディア情報学科」では「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」といった授業の開始前の項目で肯定的な意見が少ないという特徴が見られた。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート

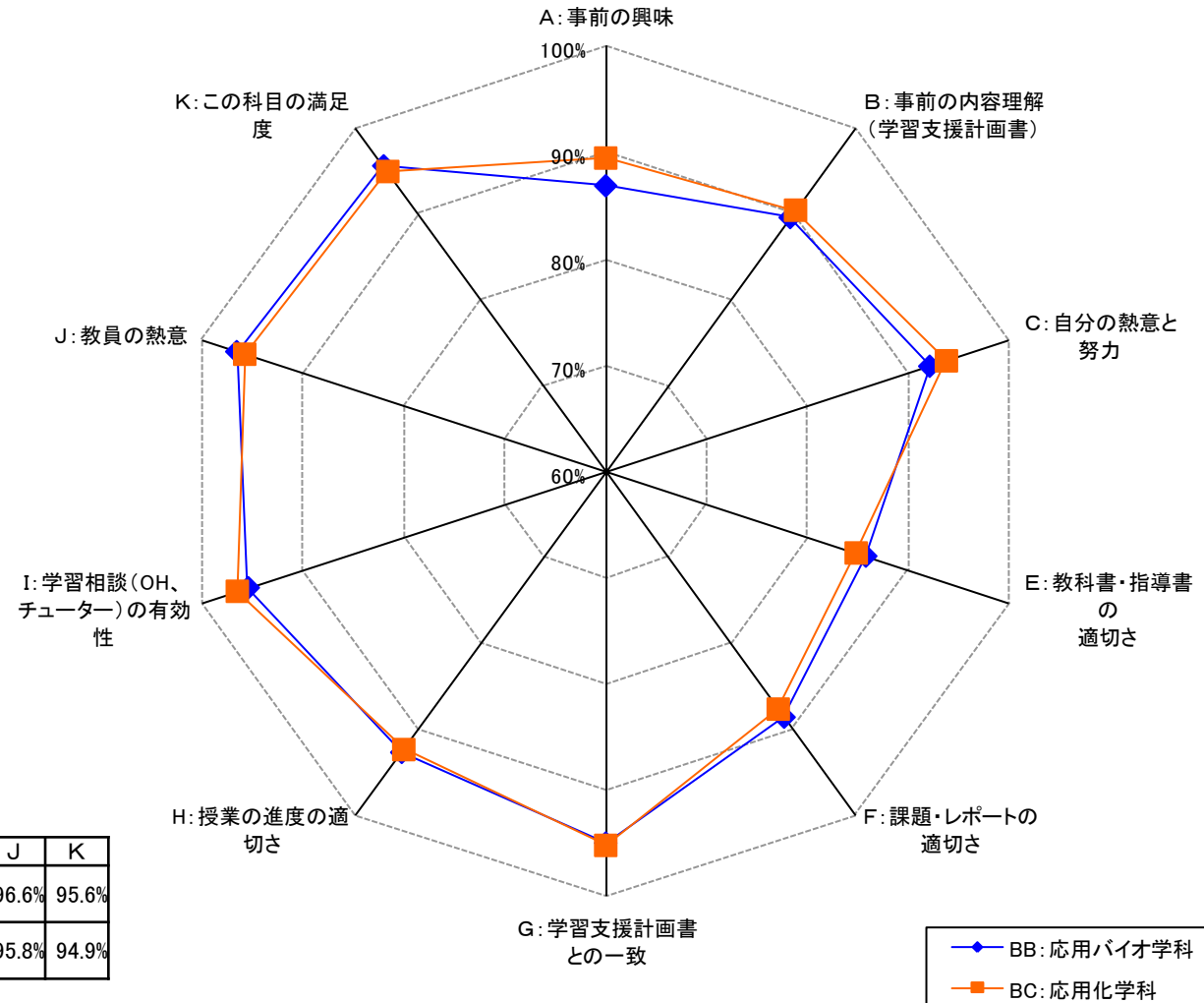


■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM:メディア情報学科	78.2%	85.8%	90.5%	82.4%	91.0%	96.3%	92.4%	93.0%	94.7%	94.4%
IP:心理情報学科	84.6%	90.6%	93.5%	83.7%	91.7%	98.3%	96.7%	95.4%	97.2%	95.7%
IS:情報経営学科	80.1%	88.3%	94.3%	84.4%	91.4%	94.8%	92.1%	92.3%	95.4%	95.5%
IC:情報工学科	85.4%	89.7%	91.6%	86.0%	93.9%	97.4%	92.3%	93.4%	95.6%	95.1%

- バイオ・化学部の2学科にはそれほど大きな差が見られなかった。
- 「BB:応用バイオ学科」は「A:事前の興味」が低めで、「C:自分の熱意と努力」もわずかに低かった。そして、「BC:応用化学科」は逆の結果となっていた。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



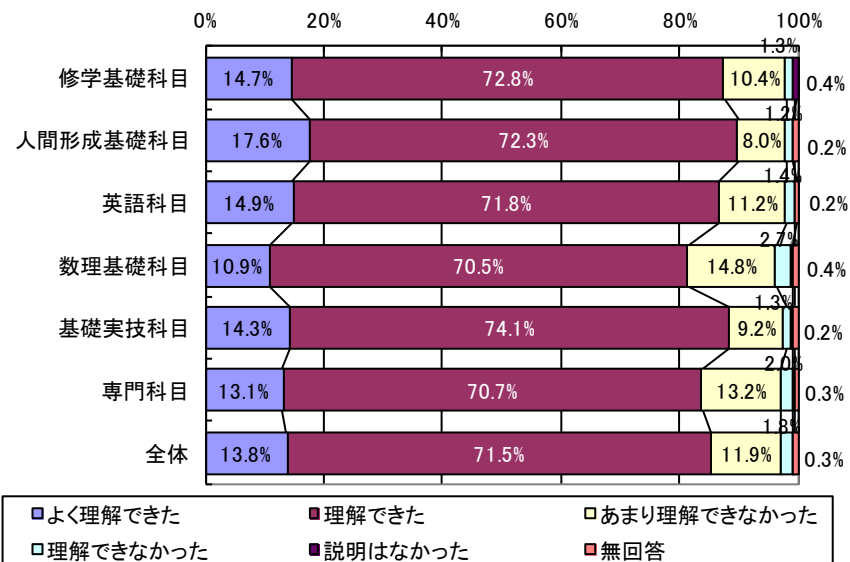
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	86.9%	89.6%	92.1%	85.8%	88.6%	95.0%	92.7%	95.4%	96.6%	95.6%
BC: 応用化学科	89.5%	90.4%	93.8%	84.8%	87.7%	95.2%	92.4%	96.5%	95.8%	94.9%

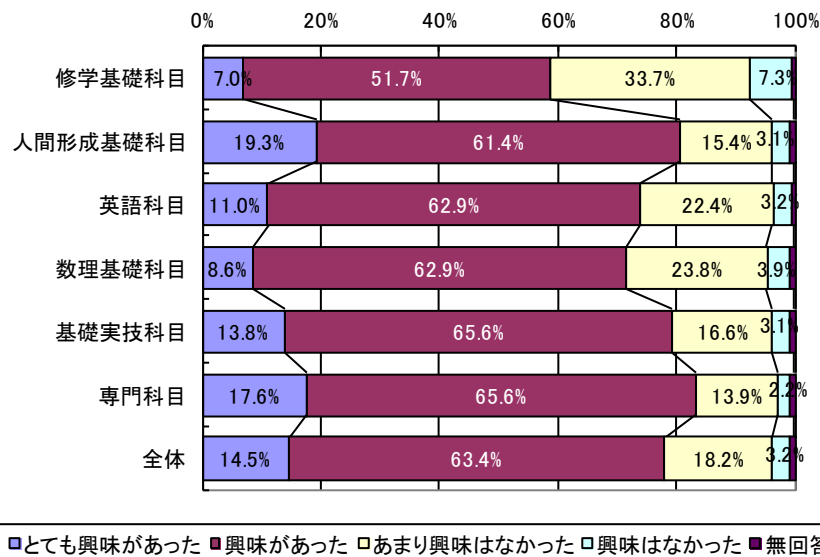
<5>科目区分別の分析

- 科目区分は「1年次生」と「2年次生」が同じになっているため、この2学年を合わせて6つの科目区分別に比較した。
- 「A:事前の興味」では「専門科目」と「人間形成基礎科目」で肯定的な意見が多く、この2つの科目区分では8割以上が興味を持って授業を受けたと答えていた。一方、「修学基礎科目」では興味を持っていないという意見は58.7%と非常に少なく、前出の2つの科目区分と比べると20ポイント以上の差があった。
- 「B:事前の内容理解」では科目区分別の差はそれほど大きくなかったが、「人間形成基礎科目」「基礎実技科目」で肯定的な意見がやや多く、「数理基礎科目」「専門科目」で事前の理解が進んでいない様子がうかがえた。
- 「C:自分の熱意と努力」も科目区分による差が非常に小さく、「数理基礎科目」で肯定的な意見がやや低めだったが、他の科目区分では大きな差は見られなかった。

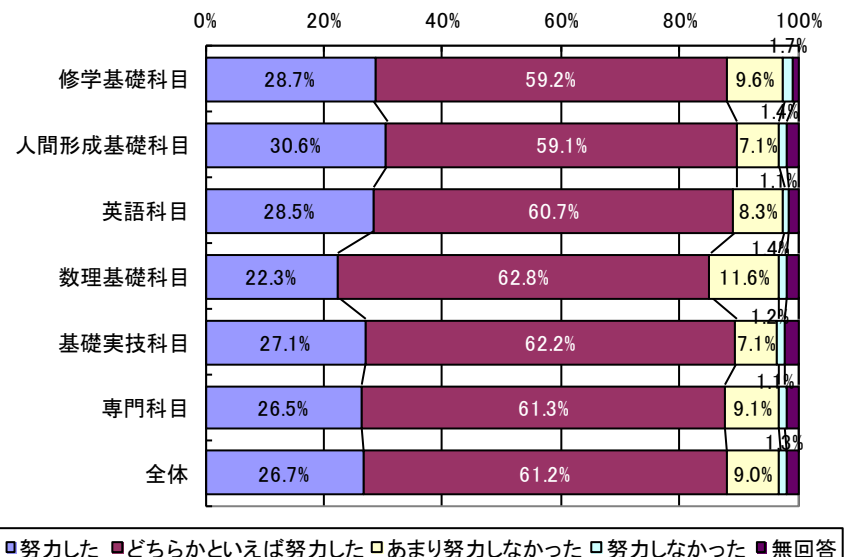
■B: 事前の内容理解(学習支援計画書)



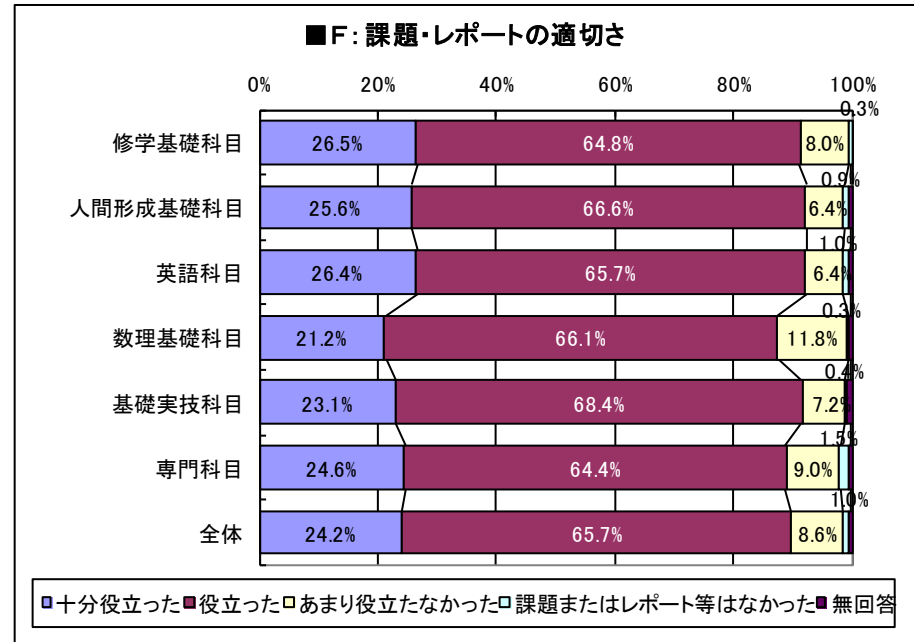
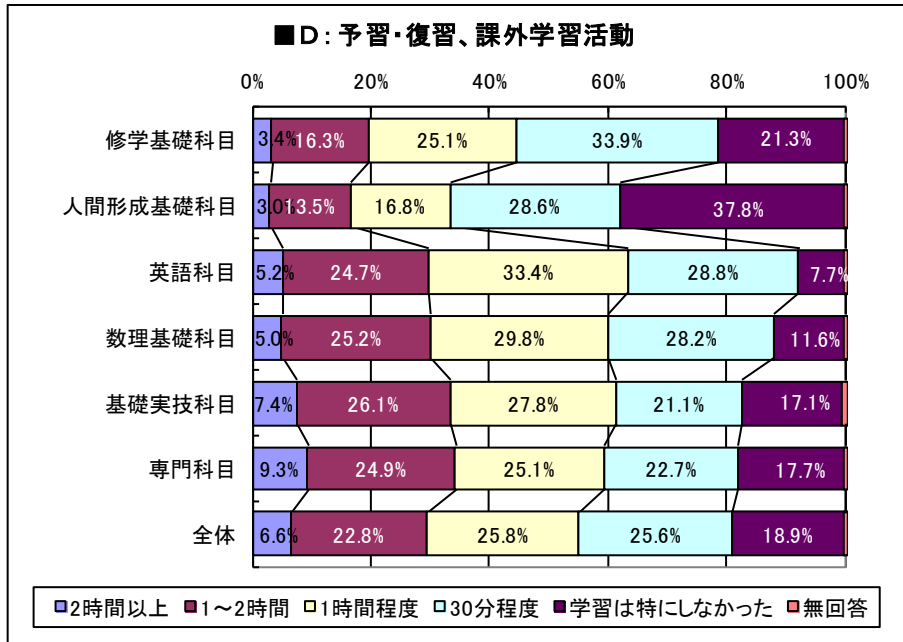
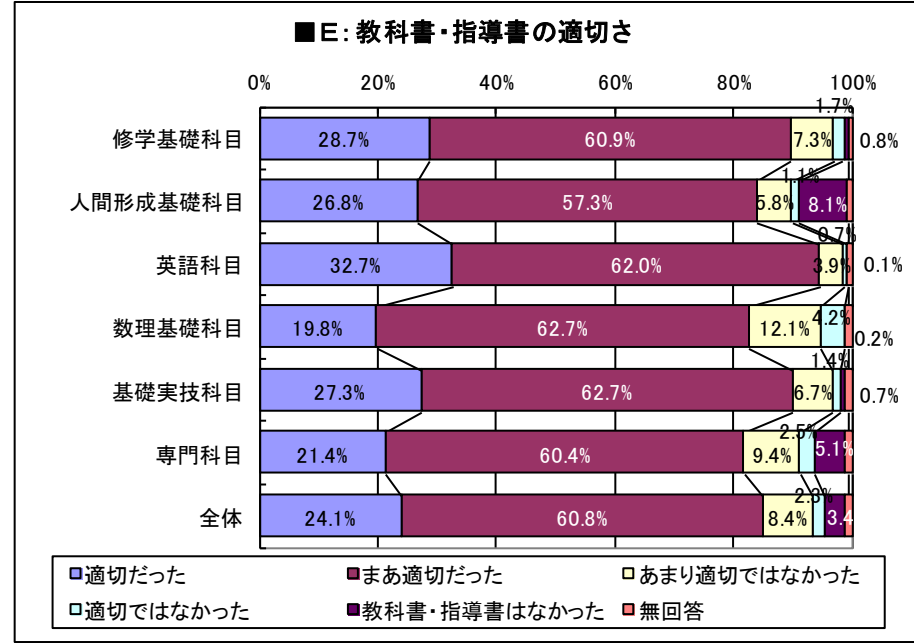
■A: 事前の興味



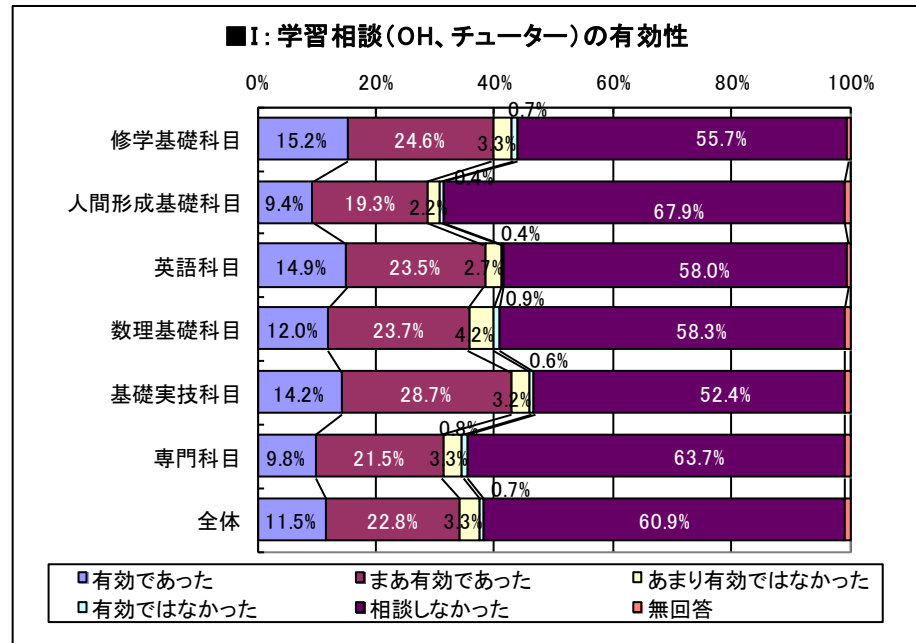
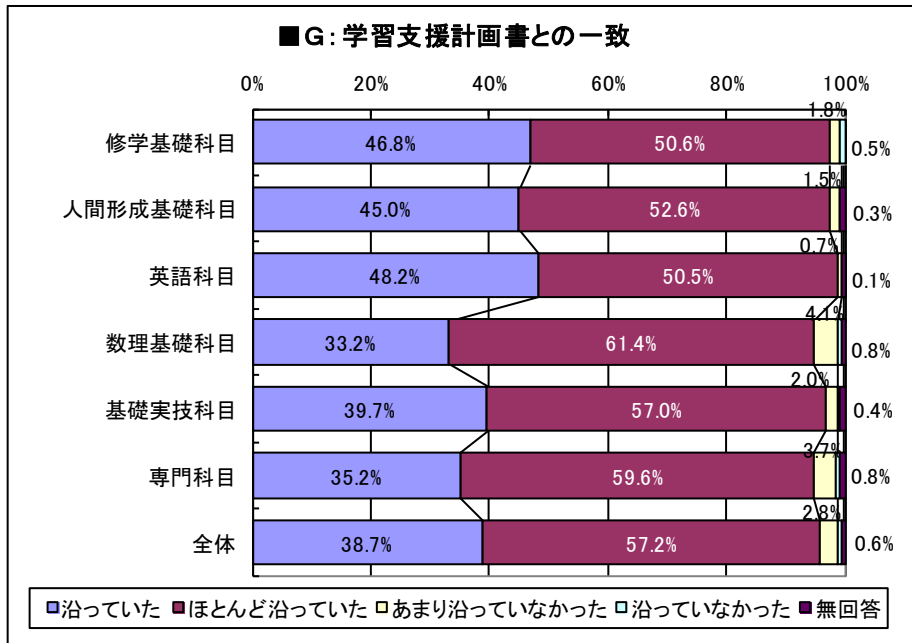
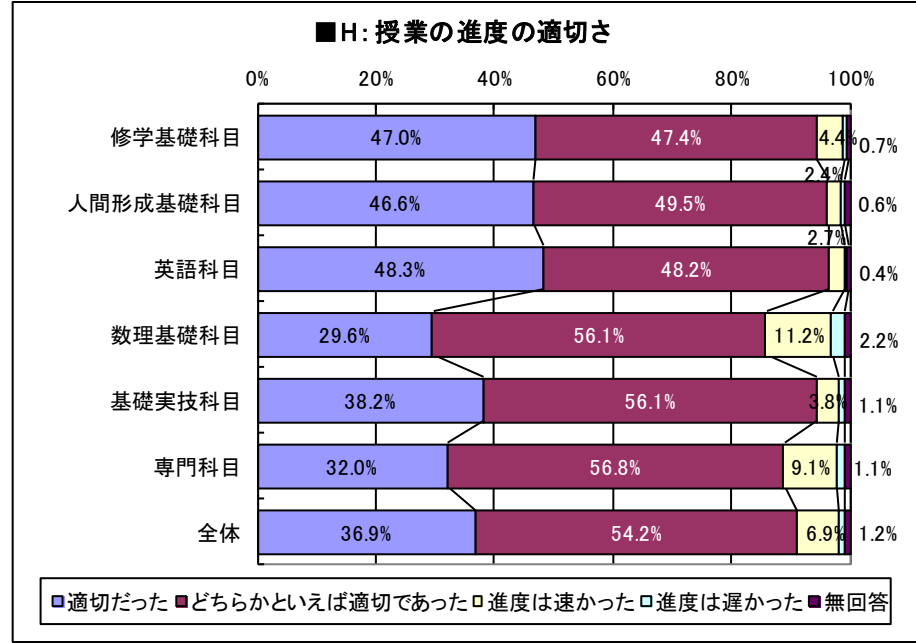
■C: 自分の熱意と努力



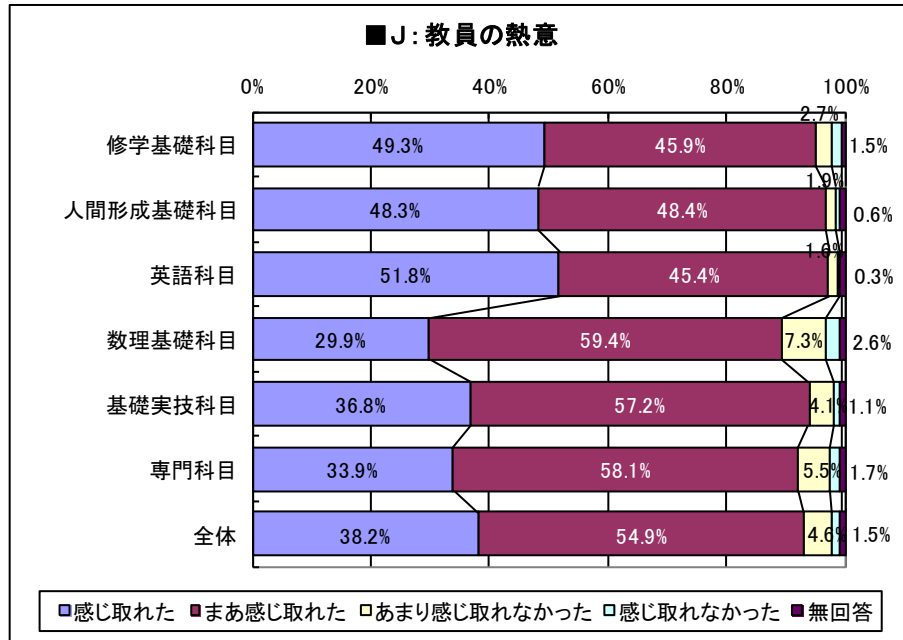
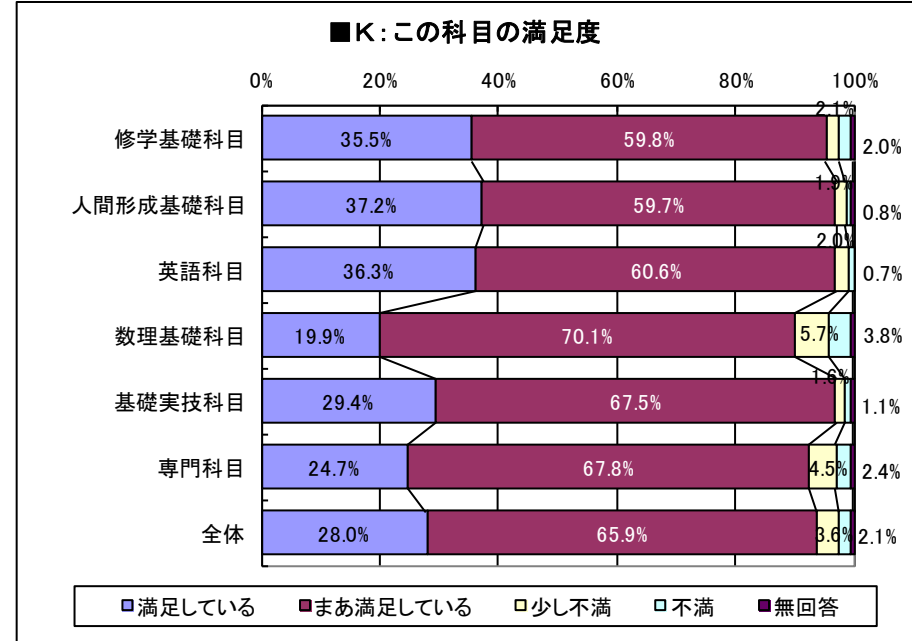
- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して、「学習は特にしなかった」の割合で比較すると、最も少なかったのは「英語科目」であり、「数理基礎科目」「基礎実技科目」と続いていた。しかし、「2時間以上」「1～2時間」の割合とは連動しておらず、「専門科目」「基礎実技科目」などでしっかり勉強している様子がうかがえた。一方、「学習は特にしなかった」が最も多かったのは「人間形成基礎科目」であり、37.8%という割合は他の科目区分と比べて非常に高いものであった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、「英語科目」の高さが目立っており、「修学基礎科目」「基礎実技科目」も高く評価されていた。一方で評価が低かったのは「専門科目」「数理基礎科目」「人間形成基礎科目」であったが、「専門科目」「人間形成基礎科目」では「教科書・指導書はなかった」という回答が多いという特徴も見られた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が少なかったが、「数理基礎科目」で肯定的な意見がやや少なく、厳しい評価となっていた。そして、「十分役立った」という回答だけを見ると「修学基礎科目」と「英語科目」の評価がやや高くなっていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」を肯定的な意見の合計で比較すると、科目区分間の差はそれほど大きくなく、「数理基礎科目」「専門科目」がやや低いものの全体的に評価は高かった。「沿っていた」という回答だけで比較するとやや差が見られ、「英語科目」「修学基礎科目」の評価が高く、「数理基礎科目」「専門科目」が低かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見の合計を見ると、「数理基礎科目」「専門科目」が低めであった。ただし、この2つの科目区分でも85.0%以上は肯定的な評価をしており、決して低い評価ではなかった。そして、「適切だった」という回答だけを見ると「英語科目」「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」が同程度で、非常に高い評価をしていた。
- 「I:学習相談の有効性」で「相談しなかった」という回答を見ると、「人間形成基礎科目」「専門科目」が6割を超えており、学習相談を利用していない傾向が強いようであった。一方で「基礎実技科目」「修学基礎科目」ではよく利用している傾向が見られた。有効性の評価は上記の逆の傾向となるが、「有効であった」だけを見ると「修学基礎科目」「英語科目」「基礎実技科目」の評価が高かった。



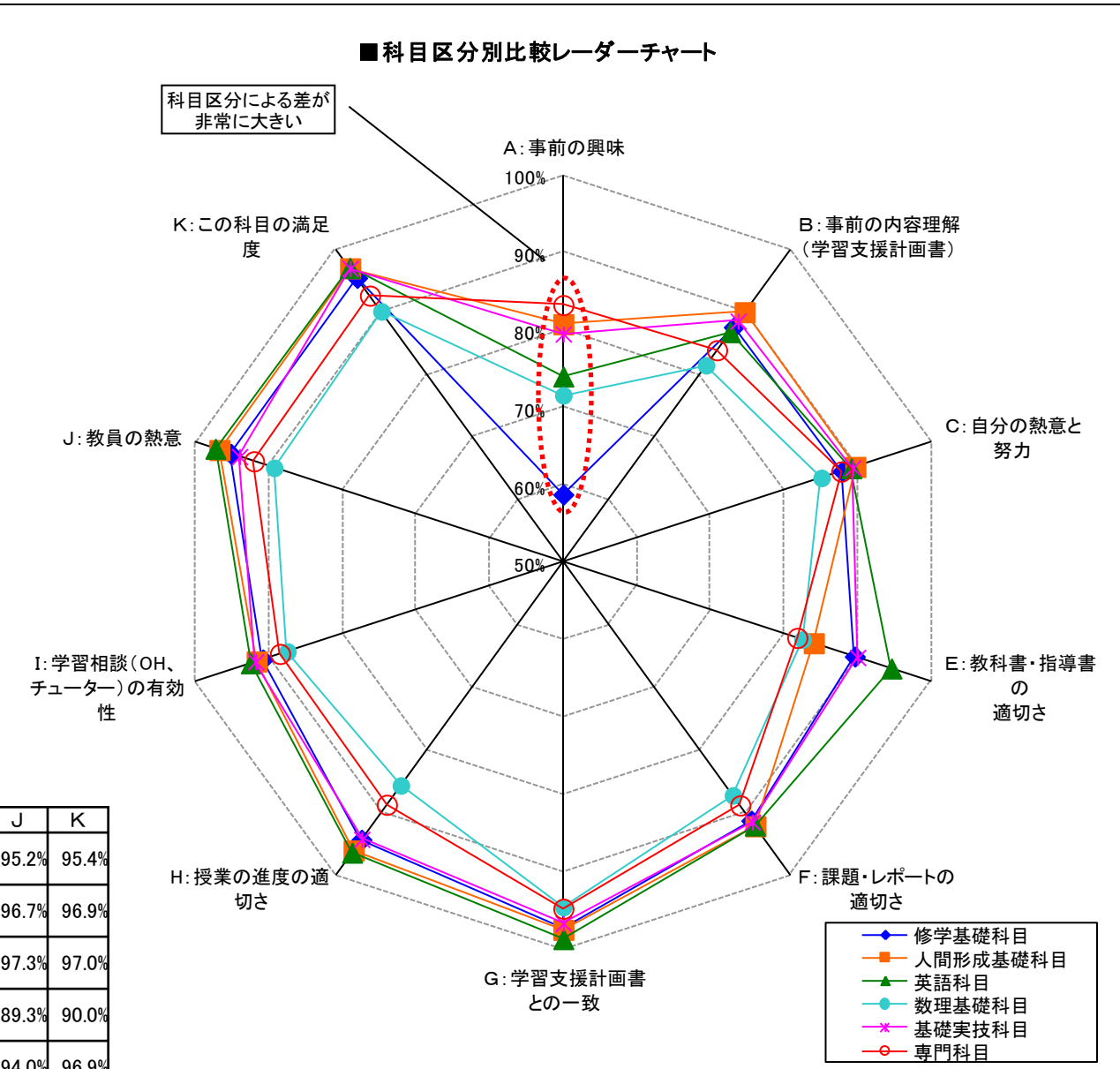
- 「J:教員の熱意」では全ての科目区分でほぼ9割以上が肯定的な評価をしており、教員の熱意はしっかりと伝わっていると言えそうであった。やや低かったのは「数理基礎科目」「専門科目」などであるが、「感じ取れた」という回答だけで比較すると差ははっきりしており、「英語科目」「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」の評価は高いが「数理基礎科目」は3割に満たず、最も低くなっていた。
- 「K:この科目の満足度」についても全ての科目区分で満足という回答が9割を超えており、満足度は非常に高いと言える。その中でやや低かったのは「数理基礎科目」(90.0%)、「専門科目」(92.5%)であったが、これらについても決して低い数値ではない。「満足している」という回答だけで見ると、「人間形成基礎科目」「英語科目」「修学基礎科目」では35.0%を超えており、強く満足している様子が見えがえた。一方で「数理基礎科目」では19.9%と最も低く、「専門科目」が24.7%、「基礎実技科目」が29.4%となっていた。



- 科目区分が同じである「1年次生」と「2年次生」を合わせてレーダーチャートに示した。
- 項目によって科目区分別の差は大きく異なっていた。最も差が大きかったのは「A:事前の興味」であったが、この項目では「修学基礎科目」が非常に低い点が目立っており、「数理基礎科目」「英語科目」もやや低かった。また、「E:教科書・指導書の適切さ」も差が大きく、この項目では「英語科目」の高さが目立っていた。
- 科目区分毎の特徴を見ると、「英語科目」は「A:事前の興味」が低いものの全体的に高めであり、「人間形成基礎科目」も全体的にやや高めであった。
- 全体的に低かったのは「数理基礎科目」であり、「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」「H:授業の進度の適切さ」のほか、「K:この科目の満足度」の低さも目立っていた。また、「専門科目」は「A:事前の興味」は最も高かったものの、他の項目は全体的に低く、「K:この科目の満足度」も低くなっていた。

■科目の評価比較

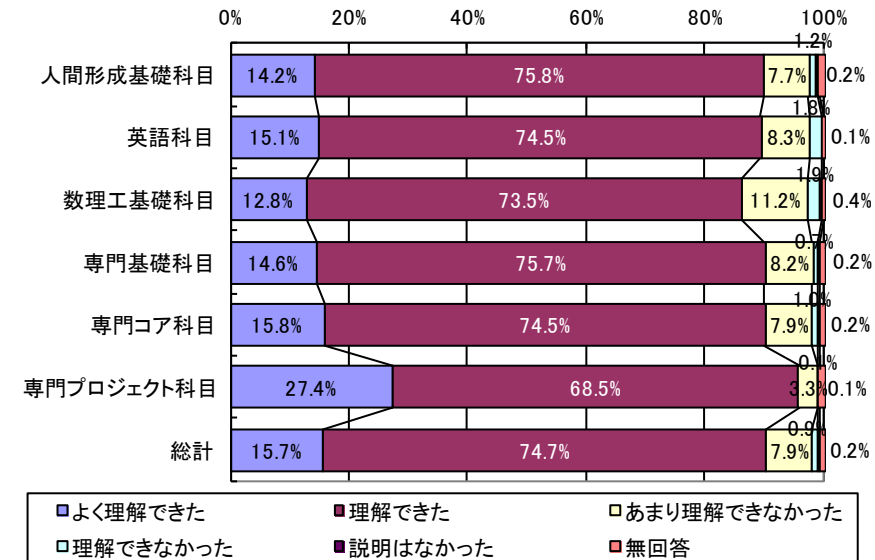
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	58.7%	87.5%	87.9%	89.6%	91.3%	97.4%	94.4%	90.8%	95.2%	95.4%
人間形成基礎科目	80.7%	89.9%	89.7%	84.0%	92.3%	97.6%	96.1%	91.7%	96.7%	96.9%
英語科目	74.0%	86.7%	89.1%	94.6%	92.1%	98.8%	96.5%	92.5%	97.3%	97.0%
数理基礎科目	71.5%	81.4%	85.1%	82.5%	87.3%	94.6%	85.7%	87.5%	89.3%	90.0%
基礎実技科目	79.5%	88.5%	89.4%	90.0%	91.6%	96.7%	94.3%	91.8%	94.0%	96.9%
専門科目	83.2%	83.8%	87.8%	81.8%	88.9%	94.8%	88.8%	88.5%	92.0%	92.5%



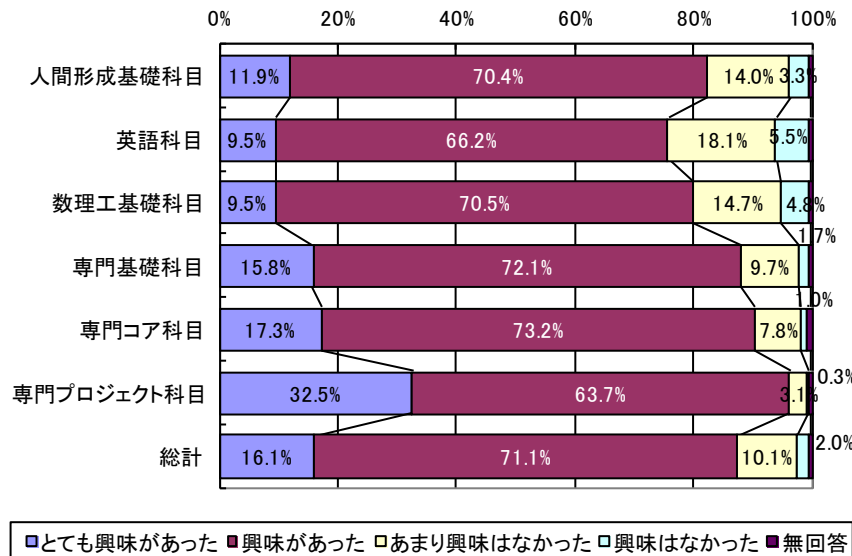
<5-3>科目区分別の比較(3~4年次生)

- 「3年次生」と「4年次生」の科目区分は共通であるため、合わせて分析を行った。「修学基礎科目」「基礎実技科目」は該当件数が少ないので集計から除外している。
- 「A:事前の興味」で目立っていたのは「専門プロジェクト科目」であり、「とても興味があった」が32.5%であり、非常に興味を持たれていることが分かった。次いで、「専門コア科目」「専門基礎科目」と続いており、専門系科目への興味がうかがえた。一方、肯定的な意見の合計が最も少なかったのは「英語科目」の75.7%であり、「数理工基礎科目」(80.0%)、「人間形成基礎科目」(82.3%)が続いていた。
- 「B:事前の内容理解」でも「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見の多さが目立っており、「よく理解できた」の27.4%は他を大きく引き離していた。しかし、その他の科目区分の差は大きくなく、「数理工基礎科目」がやや低い程度であった。
- 「C:自分の熱意と努力」でも「専門プロジェクト科目」の高さが目立っており、「努力した」だけを見ると「専門基礎科目」「専門コア科目」と専門系が続いており、「人間形成基礎科目」「数理工基礎科目」がやや低かった。

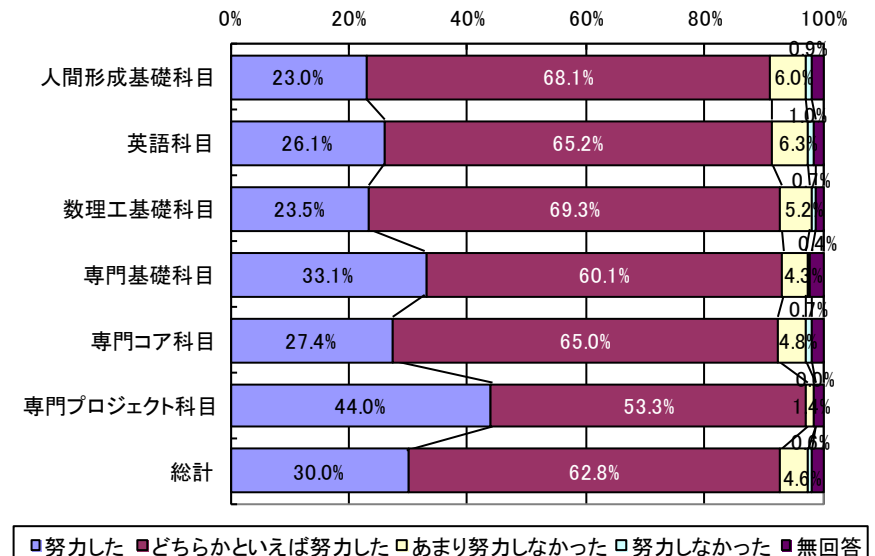
■B:事前の内容理解(学習支援計画書)



■A:事前の興味

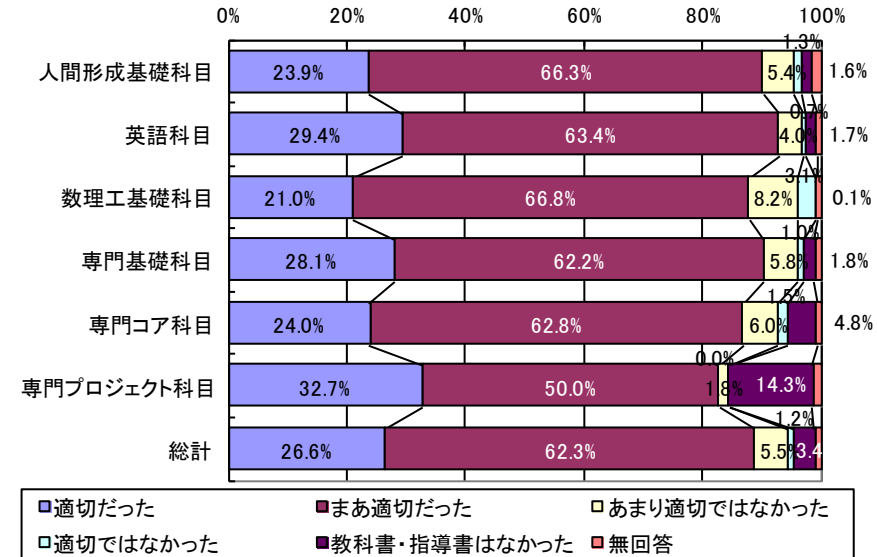


■C:自分の熱意と努力

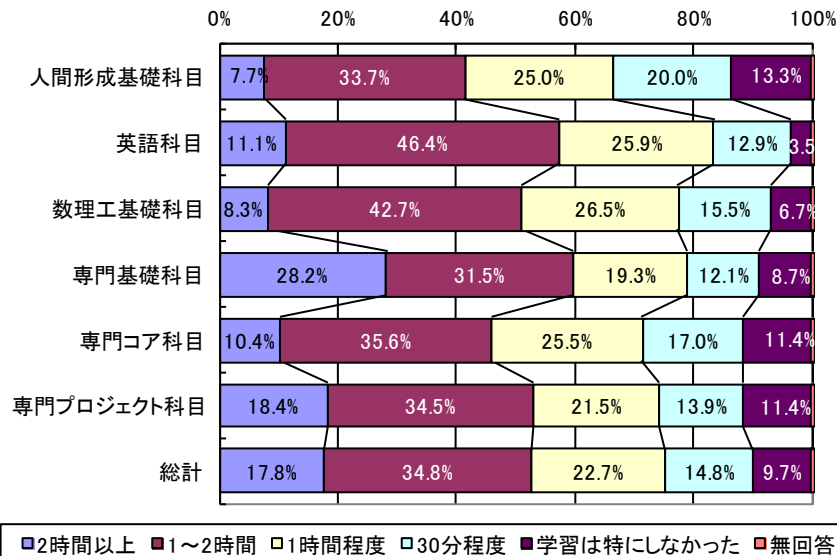


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「学習は特にしなかった」だけで比較をすると、「英語科目」が3.5%で最も少なく、最も多かった「人間形成基礎科目」の13.3%と比べると9.8ポイントの差がついていた。そして、特徴的であったのは「専門基礎科目」で、「2時間以上」が28.2%と非常に多かった。また、「英語科目」では「1～2時間」が46.4%を占めており、この2科目で勉強時間が長かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では、「専門プロジェクト科目」の「教科書・指導書はなかった」が14.3%で多い点が特徴的であった。そして、肯定的な回答の合計を見ると「英語科目」が92.8%となっており、高い評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」を肯定的な意見の合計で見ると大きな差が見られなかったが、「十分役立った」という回答だけで見ると特徴が見られ、最も多かったのは「専門プロジェクト科目」の36.0%であり、「専門基礎科目」「数理工基礎科目」と続いていた。一方で最も少なかったのは「人間形成基礎科目」の24.6%であり、「専門プロジェクト科目」との差は11.4ポイントと大きかった。

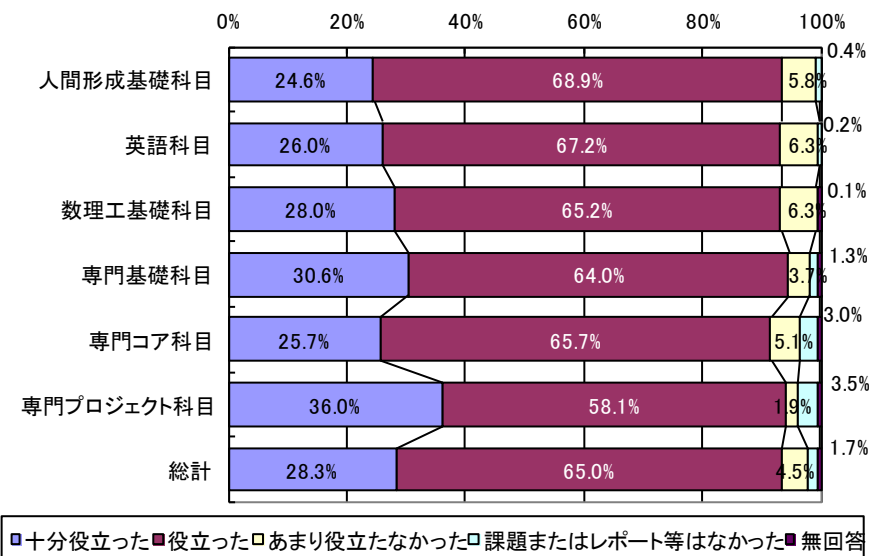
■ E:教科書・指導書の適切さ



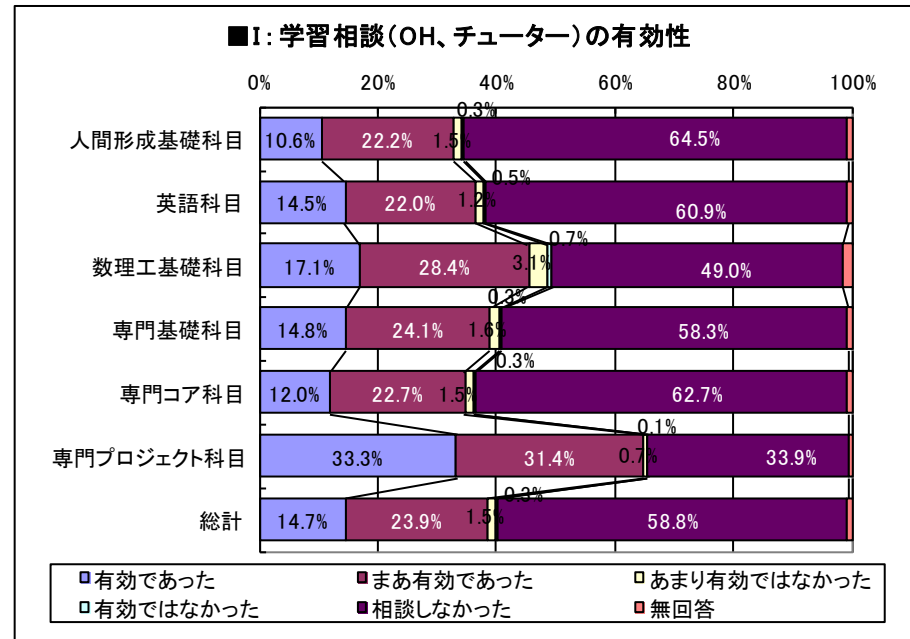
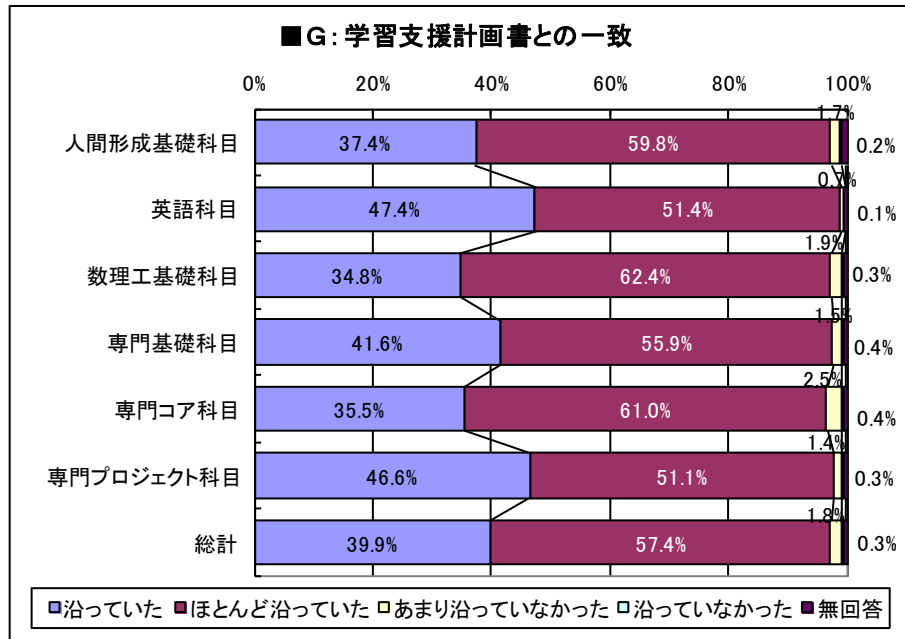
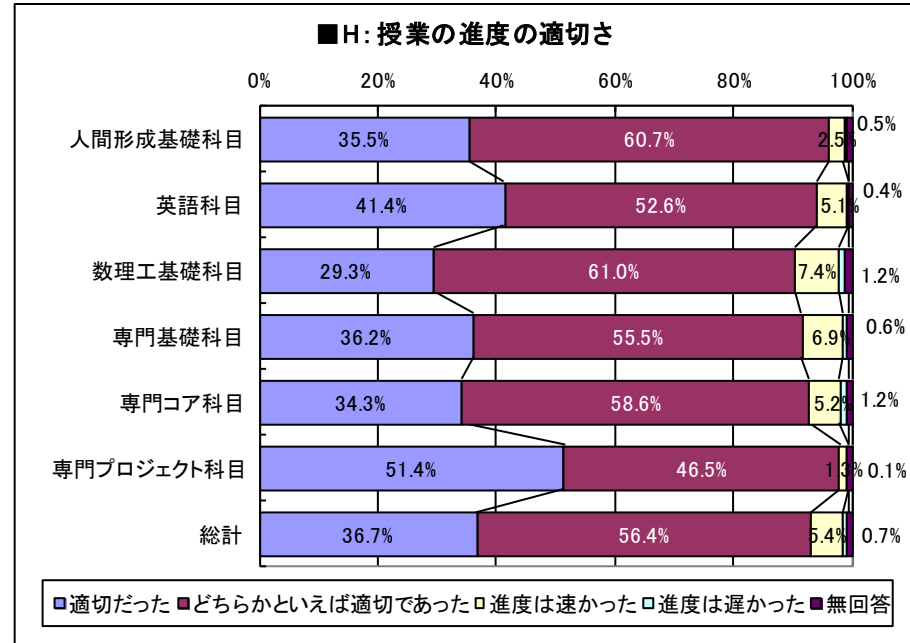
■ D:予習・復習、課外学習活動



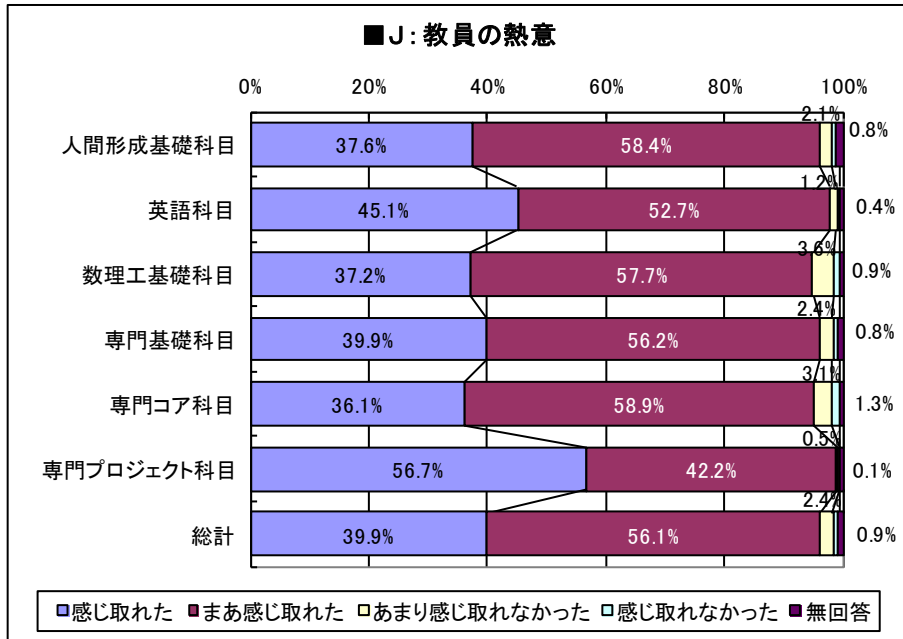
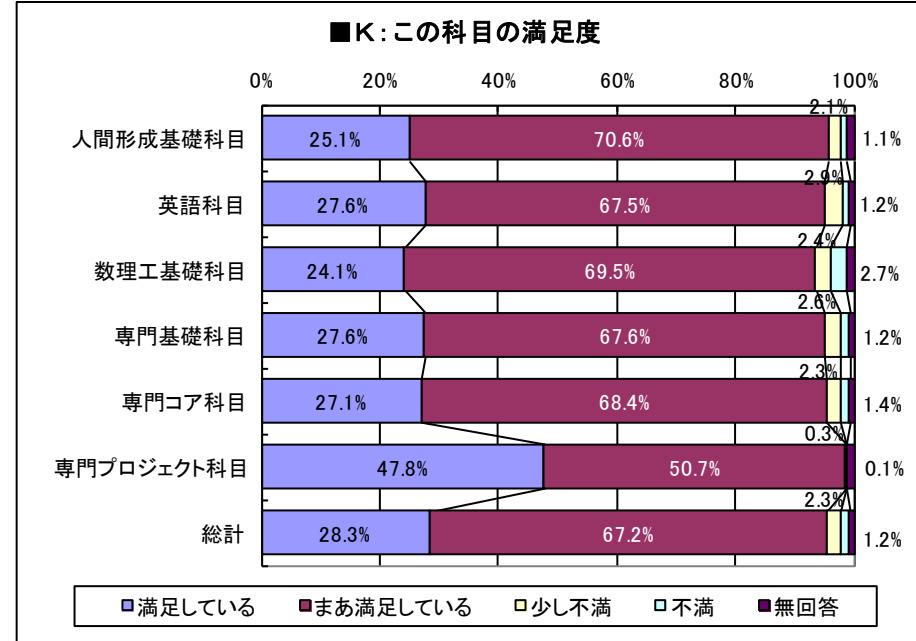
■ F:課題・レポートの適切さ



- 「G:学習支援計画書との一致」では肯定的な意見の合計にほとんど差が見られず、いずれの科目区分でも高い評価となっていた。「沿っていた」という回答だけの比較では「英語科目」が47.4%と最も高く、「専門プロジェクト科目」が46.6%、「専門基礎科目」が41.6%で続いており、最も低かったのは「専門コア科目」の35.5%であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」でも肯定的な意見の合計ではそれほど大きな差は見られなかったが、「適切だった」という回答だけを比べると「専門プロジェクト科目」で51.4%と、非常に評価が高くなっていた。そして、「英語科目」が41.4%で続いており、最も低かったのは「数理工基礎科目」の29.3%であった。
- 「I:学習相談の有効性」では、「専門プロジェクト科目」で「相談しなかった」が33.9%と非常に少ない点が特徴的であり、学習相談をしっかりと活用している様子がうかがえた。次いで「数理工基礎科目」で49.0%となっており、ここでも活用しているようであった。評価として「有効であった」という回答だけを見ると「専門プロジェクト科目」が33.3%と非常に高く、他の5科目と比べると15ポイント程度の差をつけていた。

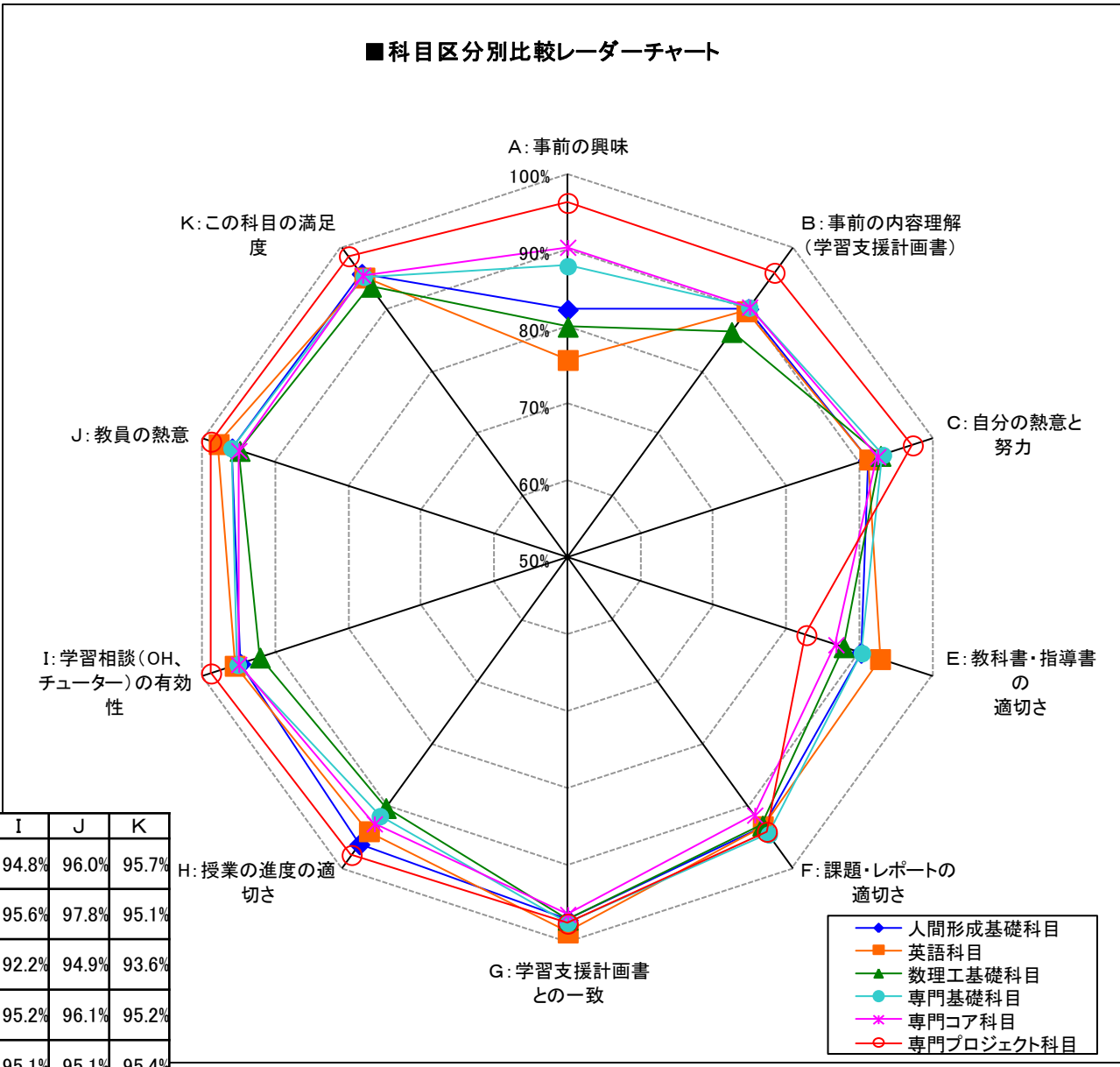


- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見の合計を見ると、いずれの科目区分でもほぼ95.0%以上が感じ取れたと評価しており、教員の熱意はしっかり伝わっているようであった。そして、「感じ取れた」という回答だけで見ると「専門プロジェクト科目」が56.7%と突出しており、「英語科目」が45.1%で続いていた。
- 「K:この科目の満足度」でも「満足している」と「まあ満足している」の合計を見ると、いずれの科目区分でも90.0%以上であり、満足度も非常に高いことが分かった。そして、「満足している」という回答だけで見ると「専門プロジェクト科目」が47.8%と非常に高く、強く満足している様子がうかがえた。その他の5科目でも25.0%前後は「満足している」と答えており、最も低かった「数理工基礎科目」でも24.1%であった。



- 「3年次生」と「4年次生」の6つの科目区別にレーダーチャートでまとめた。
- 全体の傾向として目立っていたのは「専門プロジェクト科目」の高さであり、「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」などをはじめとして、ほとんどの項目で肯定的な意見が最も多くなっていた。「E:教科書・指導書の適切さ」は最も低かったが、これは教科書・指導書がなかったという意見が多いためである。
- 一方、全体的に低めであったのは「数理工基礎科目」で、それほど目立つものではなかったが、最も低くなっている項目が多かった。
- 項目としては「A:事前の興味」で科目区分による差が非常に大きいという点が特徴的であり、特に「英語科目」の低さが目立っていた。逆に差が少なかったのは「F:課題・レポートの適切さ」「G:学習支援計画書との一致」であり、これらに関してはいずれの科目区分でもしっかりとした対応がされていることがうかがわれた。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



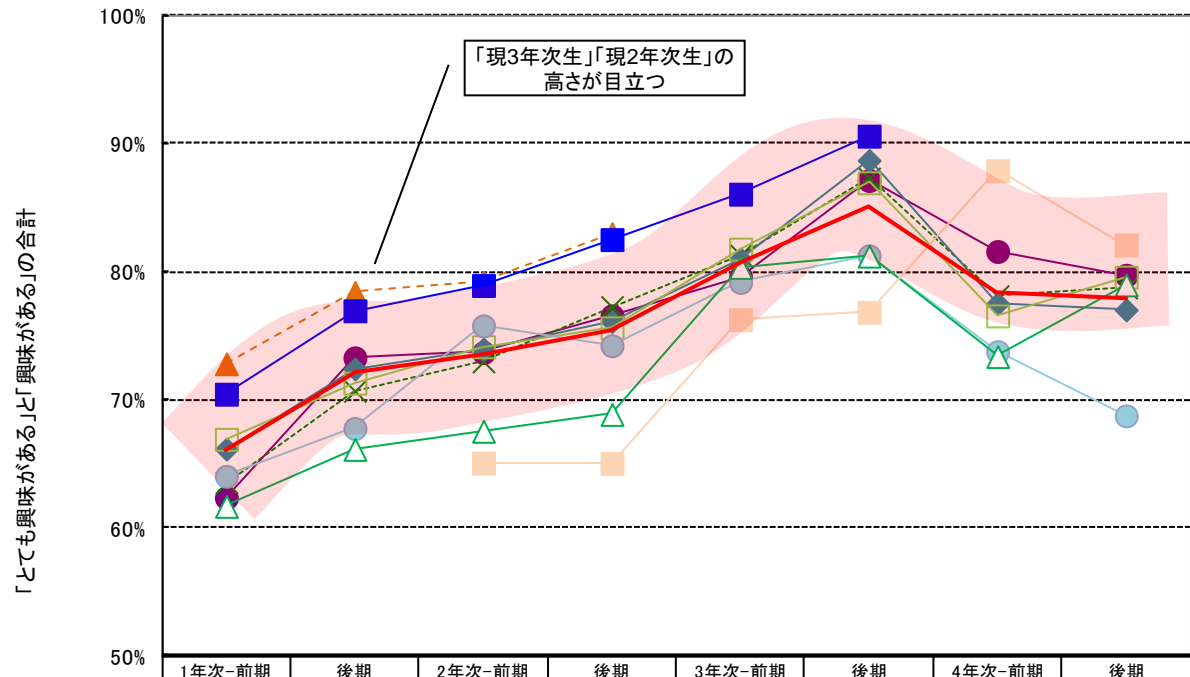
■ 一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
人間形成基礎科目	82.3%	90.0%	91.2%	90.2%	93.4%	97.2%	96.2%	94.8%	96.0%	95.7%
英語科目	75.7%	89.6%	91.3%	92.8%	93.2%	98.8%	94.1%	95.6%	97.8%	95.1%
数理工基礎科目	80.1%	86.3%	92.9%	87.8%	93.2%	97.2%	90.3%	92.2%	94.9%	93.6%
専門基礎科目	87.9%	90.2%	93.2%	90.3%	94.6%	97.6%	91.6%	95.2%	96.1%	95.2%
専門コア科目	90.4%	90.3%	92.5%	86.7%	91.5%	96.5%	92.9%	95.1%	95.1%	95.4%
専門プロジェクト科目	96.2%	95.8%	97.3%	82.7%	94.1%	97.7%	97.9%	98.9%	98.8%	98.5%

<6> 同一学生群の分析

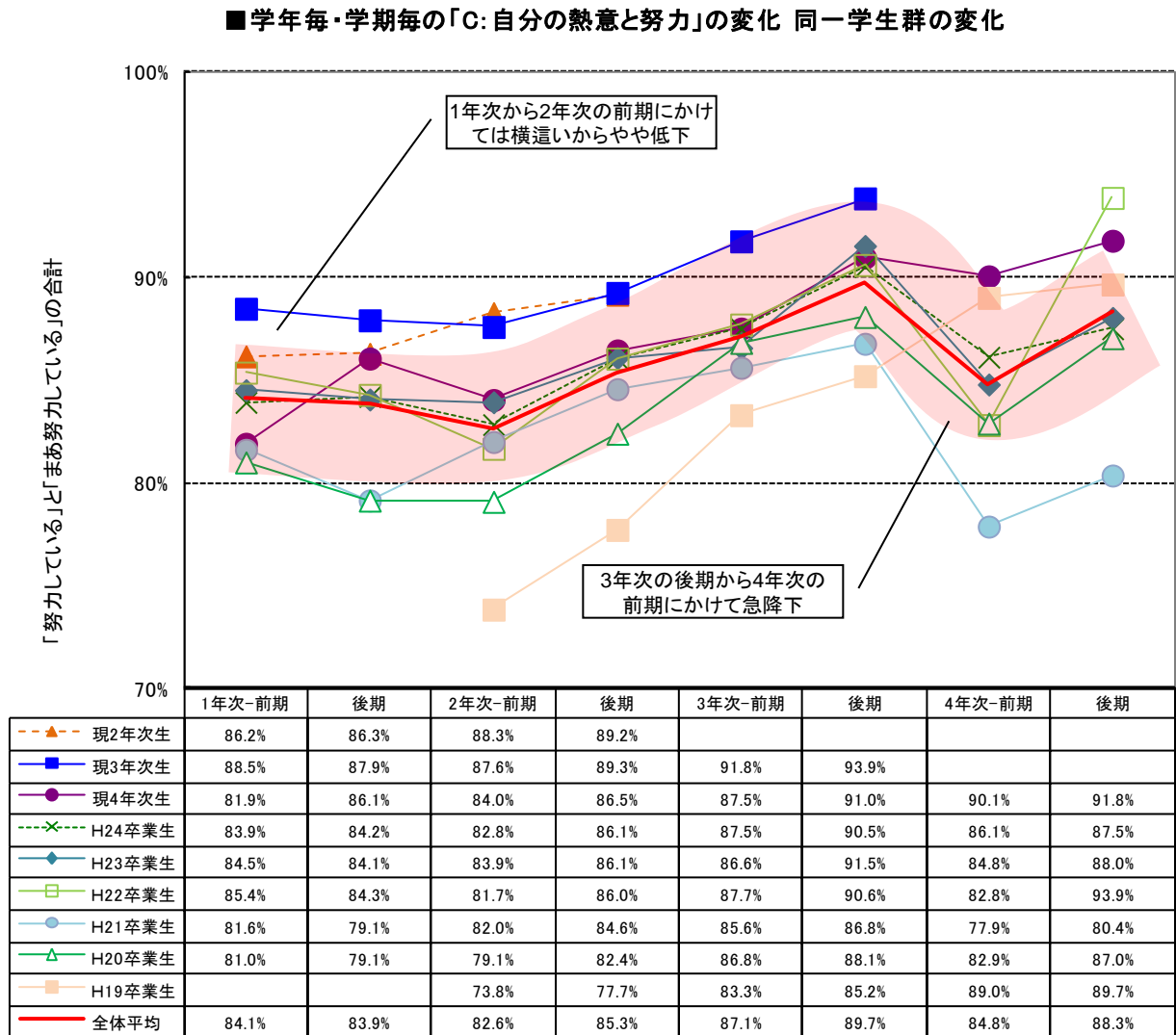
- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期制度は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制に変わっているため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」の変化を見ると、「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて継続的に肯定的な意見が増加しており、「4年次-前期」にかけて減少していたが、個別の学生群を見てもほぼ同じような変化となっており、このような変化が典型的な学生の実態と言えそうであった。
- 個別の学生群の変化を見ると、「現3年次生」の「高さ」が目立っていた。また、「現2年次生」も高い状態が続いており、この2つの学生群は授業に対して強い興味を持ちながら受講している様子がうかがえる。
- 上記に挙げた学生群と比べると、「H19卒業生」「H20卒業生」「H21卒業生」など以前の学生群は授業に対する興味が弱い傾向が見られ、学生の授業に対する取り組み姿勢の変化が感じられる結果となっていた。
- いずれの学生群でも「4年次生」時点で授業アンケートに回答している学生は少数で、ほとんどの学生は卒業研究に取り組んでいるため、それらが「授業に対する興味の低下」につながっているのではないかと思われる。

■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化

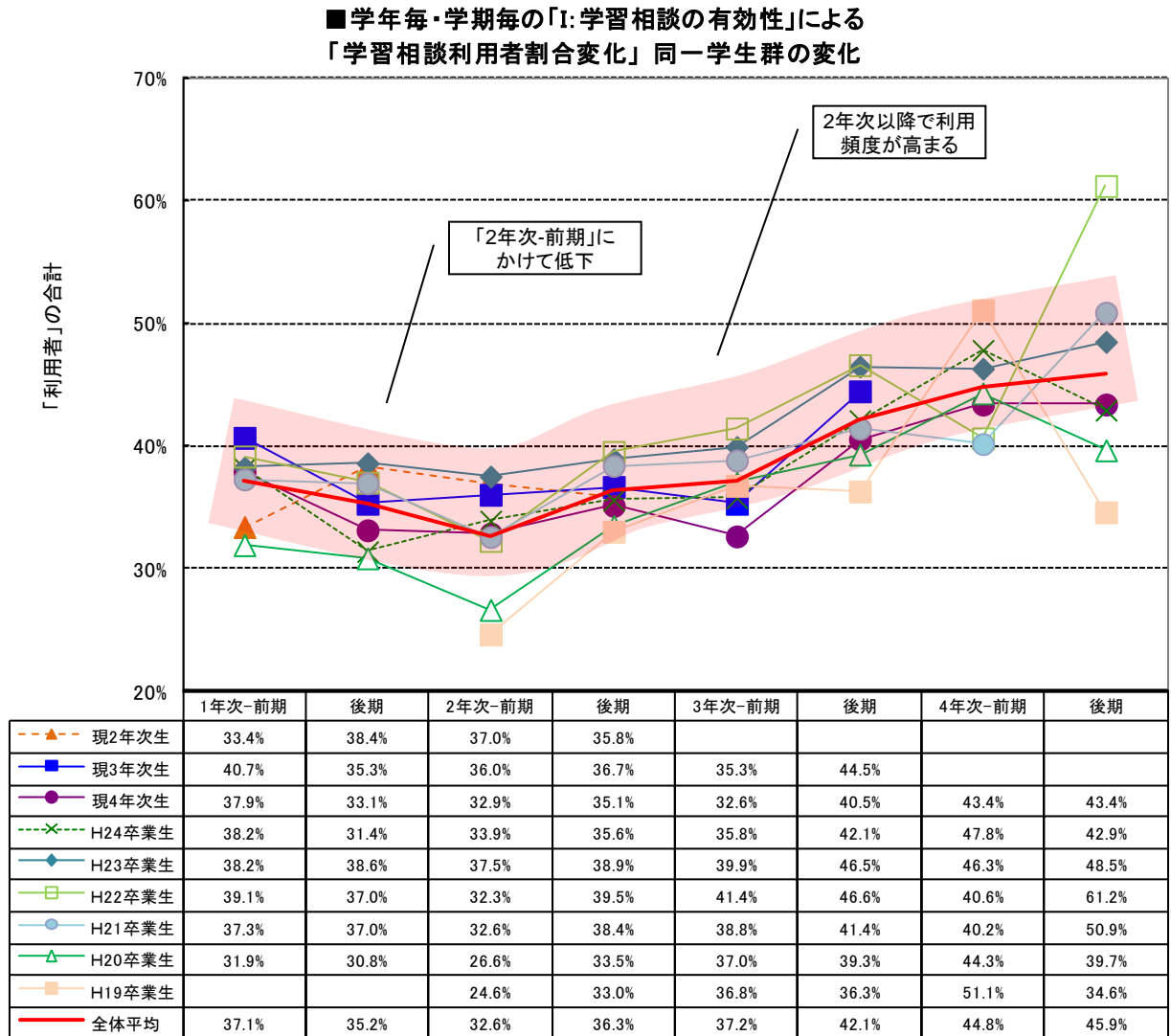


	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%				
---■--- 現3年次生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%		
---●--- 現4年次生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---×--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---◆--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---□--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---○--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---△--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---□--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---●--- 全体平均	66.0%	72.1%	73.5%	75.5%	80.7%	85.0%	78.4%	77.9%

- 「C:自分の熱意と努力」の全体平均は変化があまり大きくなかったが、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけては横這いからやや低下し、その後は「3年次-後期」にかけて緩やかに上昇していた。そして、「4年次-前期」に一気に低下して「4年次-後期」に上昇するという変化であった。
- 前項で見たように「4年次生」は回答者が少なく、一部の意見なので除外して考えると、授業に対する積極性はわずかに低下する時期はあるものの、学年を経る毎にわずかに強くなっていると言える。
- 特徴的な学生群は「現3年次生」であり、他の学生群と比べると非常に積極性が強い状態で推移していた。また、「現2年次生」も高い状態を維持しており、「1年次生」から「2年次生」にかけての低下も見られなかった。
- 「A:事前の興味」と同様に、「C:自分の熱意と努力」についても、以前の学生群よりも積極性が強くなっている状態が見られた。

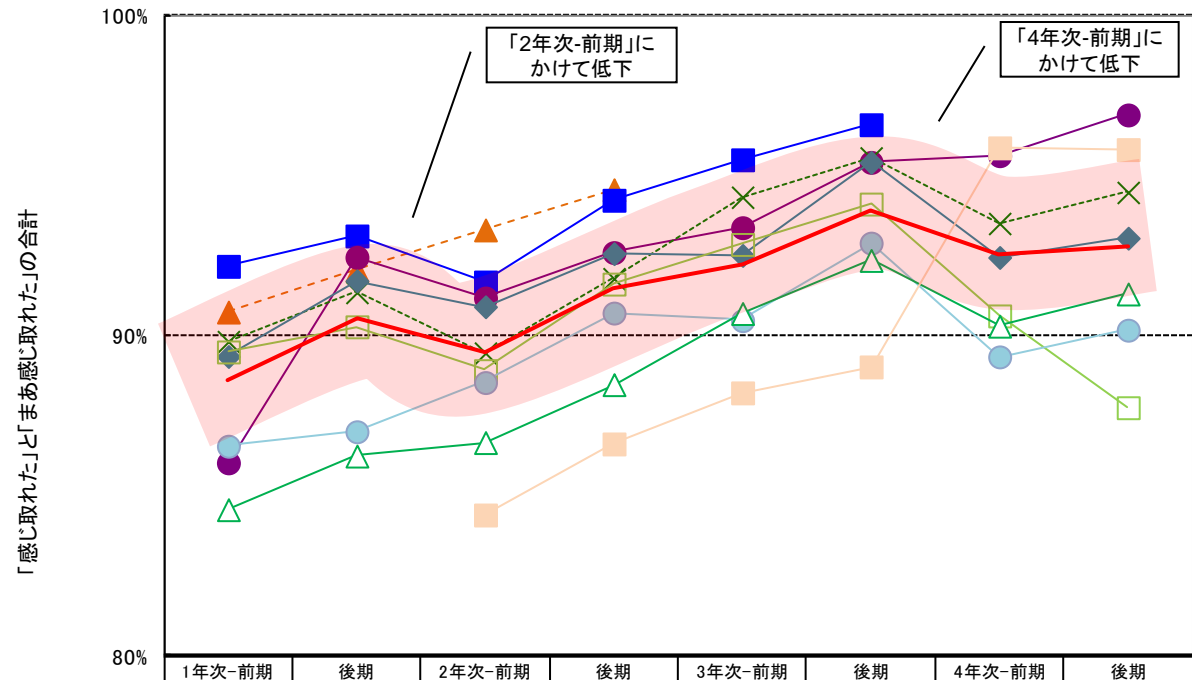


- 「I:学習相談の有効性」では、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 「全体平均」の変化を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに低下傾向が続き、「4年次-後期」にかけて継続的に利用者割合が増加する傾向が見られた。他の指標では「4年次-前期」で大幅に低下するケースが多いが、ここではそれが見られず、「4年次生」でのモチベーション低下時期でも「学習相談」は利用していると言ったことが分かった。
- 他の指標では「現3年次生」と「現2年次生」の意識の高さが目立っていたが、この指標ではそのような傾向は見られず、学生群同士の差が少なめとなっていた。



- 「J:教員の熱意」の「全体平均」を見ると、「2年次-前期」と「4年次-前期」の2つの時期にわずかな低下が見られたが、大きな流れとしては高学年になるほど教員の熱意を感じるようになってきているようであった。
- この項目では「全体平均」を見てもほぼ9割以上が肯定的な意見であり、多くの学生が教員の熱意を感じていると言える。
- 他の指標と同様に以前の学生群よりも肯定的な意見の割合が増加してきており、ここでも「現3年次生」と「現2年次生」の高さが目立っていた。特に「現2年次生」は「2年次-前期」での落ち込みがまったくないという特徴が見られた。
- 「現4年次生」は「1年次-前期」に非常に低かったが、その後は肯定的な意見が増加しており、「4年次-前期」での落ち込みがなく、卒業直前の「4年次-後期」ではこれまでで最も高くなっており、教員の熱意をしっかりと感じながら卒業していったことがうかがえる結果となっていた。

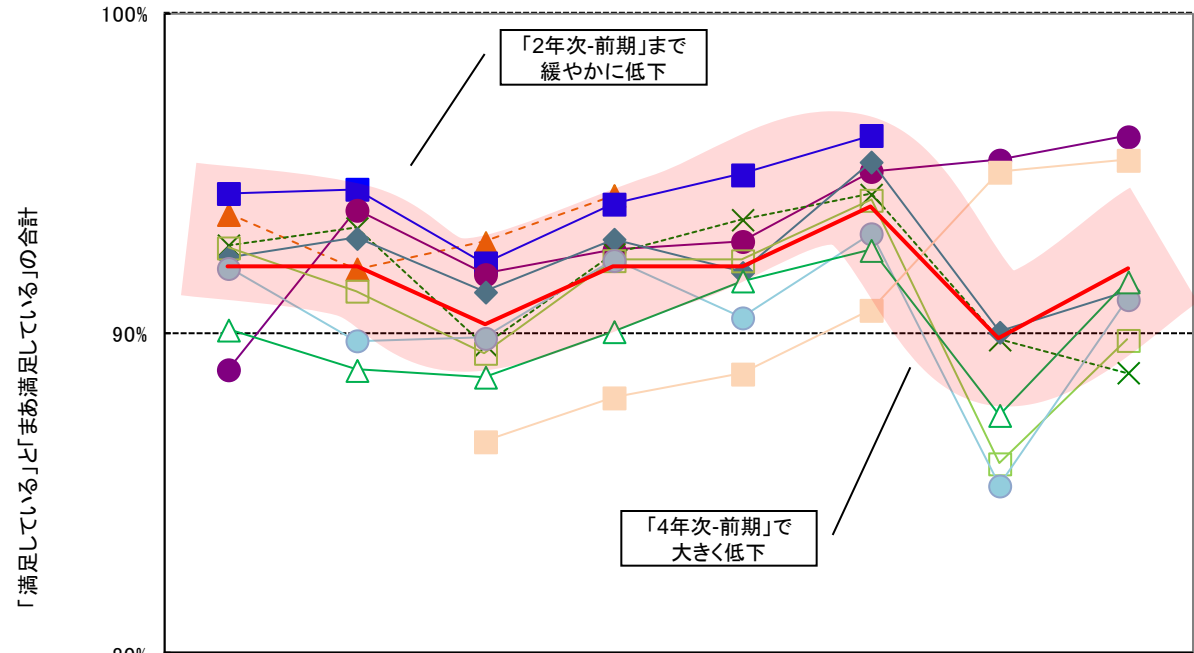
■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%				
---■--- 現3年次生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%		
---●--- 現4年次生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
---×--- H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
---◆--- H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
---□--- H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
---●--- H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
---△--- H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
---■--- H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
--- 全体平均	88.6%	90.5%	89.5%	91.5%	92.2%	93.9%	92.5%	92.8%

- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」を見ると、「2年次-前期」にわずかに低下し、「4年次-前期」で大きく低下しているが、ほとんどの時期で「満足」という回答は9割を超えており、授業自体の満足度は高いと言える。
- 学生群の特徴を見ると、他の項目と同様に以前の学生群よりも満足度は向上しており、特に「現3年次生」は満足度が非常に高い状態で推移しており、「現2年次生」もそれに続いていた。そして、「現4年次生」は「4年次-後期」の満足度が非常に高くなっており、「4年次-前期」にも落ち込みが見られなかった。
- 課題として考えられるのは「2年次-前期」での落ち込みであるが、これは大学に慣れたことによる中だるみだと思われ、そのあたりの心境の変化をしっかりと捉えていくことが必要だと思われる。

■ 学年毎・学期毎の「K:満足度」の変化 同一学生群の変化

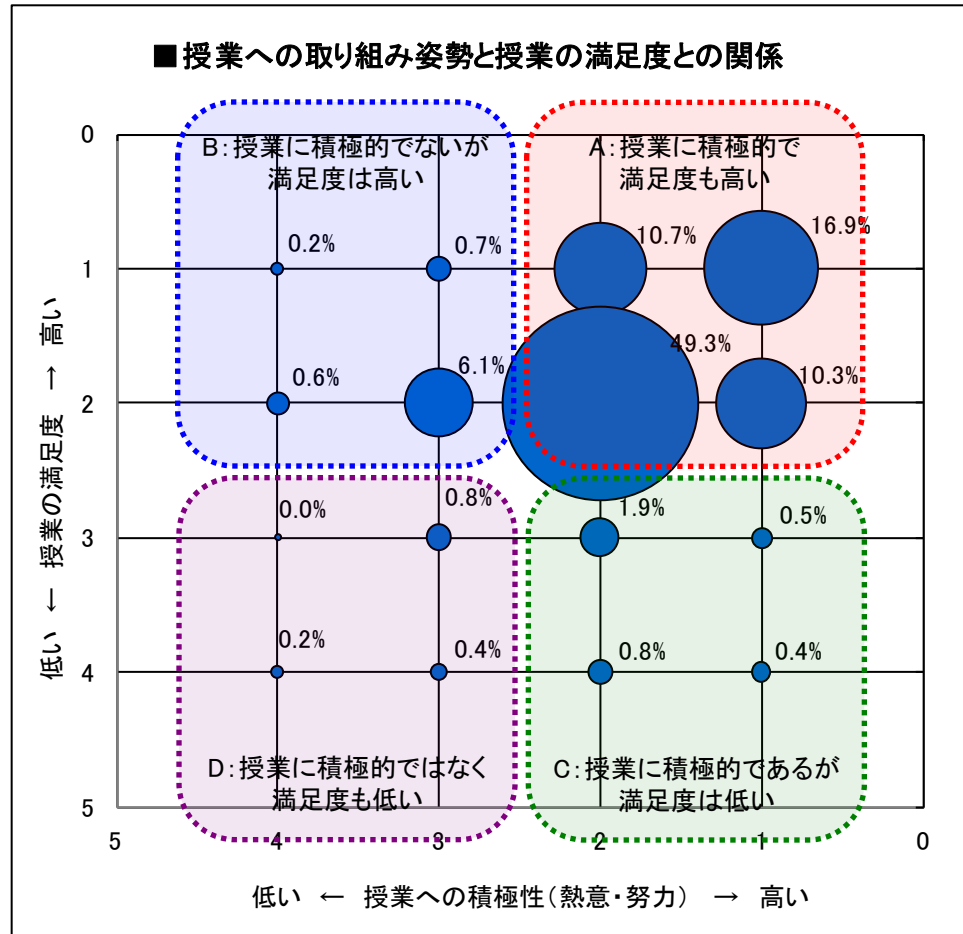


	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	93.7%	92.0%	92.9%	94.3%				
—■— 現3年次生	94.4%	94.5%	92.2%	94.1%	95.0%	96.2%		
—●— 現4年次生	88.9%	93.9%	91.9%	92.6%	92.9%	95.1%	95.4%	96.2%
---×--- H24卒業生	92.8%	93.3%	89.7%	92.5%	93.6%	94.4%	89.8%	88.8%
—◆— H23卒業生	92.4%	93.0%	91.3%	93.0%	91.9%	95.4%	90.1%	91.3%
—□— H22卒業生	92.7%	91.3%	89.4%	92.3%	92.3%	94.2%	85.9%	89.8%
—●— H21卒業生	92.0%	89.8%	89.9%	92.3%	90.5%	93.1%	85.2%	91.1%
—△— H20卒業生	90.1%	88.9%	88.6%	90.1%	91.7%	92.6%	87.5%	91.6%
—■— H19卒業生			86.6%	88.0%	88.7%	90.7%	95.1%	95.4%
—■— 全体平均	92.1%	92.1%	90.3%	92.1%	92.1%	94.0%	89.9%	92.0%

<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

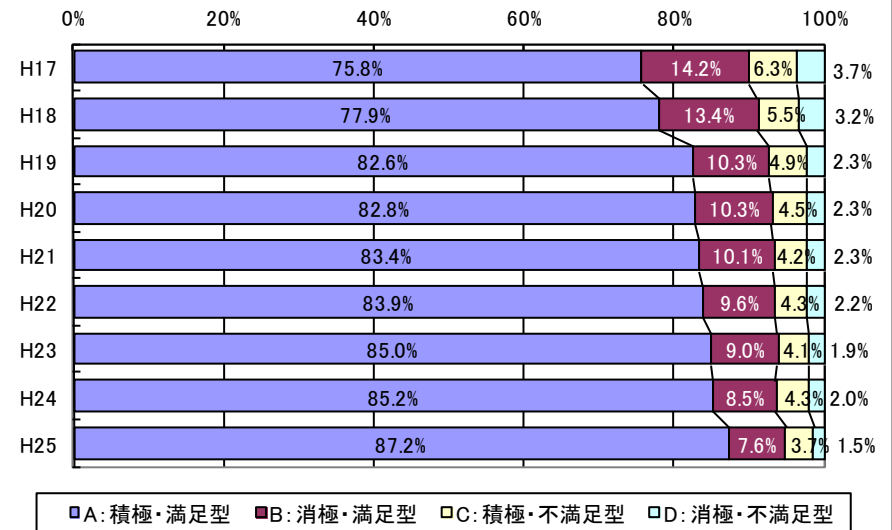
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」という最も良い状態にある学生は全体の87.2%となっていた。中でも「満足度」も「積極性」も共に最も高かった学生は16.9%、共に「まあまあ」という学生は49.3%となっていた。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」という学生は7.6%であった。これは授業に対して積極性を持っていないが満足はできているという学生群となる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は3.7%と少なかった。これらの学生群は授業には積極的に取り組んだものの、最終的には満足感を得られておらず、「期待はずれ」「物足りない」「授業が分からない」といった意識があるものと思われる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は1.5%と非常に少なかったものの、最も大きな課題を持っている学生群であり、放置しておくよりタイアなどにつながる恐れがあるものと思われる。



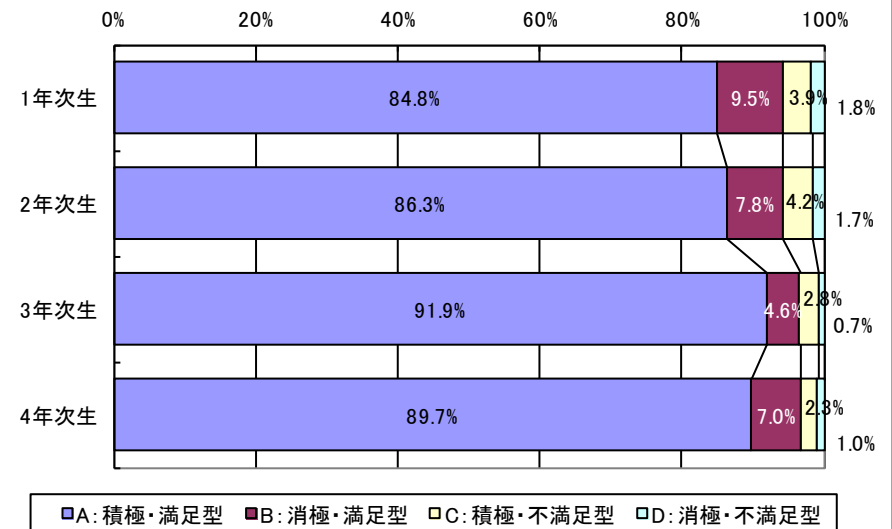
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	87.2%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	7.6%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.7%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.5%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で分類した「積極性」と「満足度」の4グループの経年変化を見たところ、「A:積極・満足型」は前回より2.0ポイント増加し、これまでで最も多くなっていた。このグループは最も良い状態のグループであるが、分析をはじめたH17から継続的に増加しており、良い状態が進んでいると言える。
- 「A:積極・満足型」以外の3グループはいずれも前回より減少していた。そして、最も課題がありそうな「D:消極・不満足型」も前回より0.5ポイント低下して、これまでで最も少なくなっていた。
- 学年別の比較で「A:積極・満足型」を見ると、「3年次生」が91.9%と最も多く、良い状態にあると言えそうであった。次いで「4年次生」が89.7%、「2年次生」が86.3%、「1年次生」が84.8%であり、「3年次生」と「1年次生」の差は7.1ポイントであった。
- 「1年次生」では「A:積極・満足型」が8割を超えており、決して状態が良くないわけではないが、「B:消極・満足型」が9.5%を占めていた。このグループに関しては実態が不明確であるため、今後はこれらの本質をしっかりと把握していくことが必要と思われる。

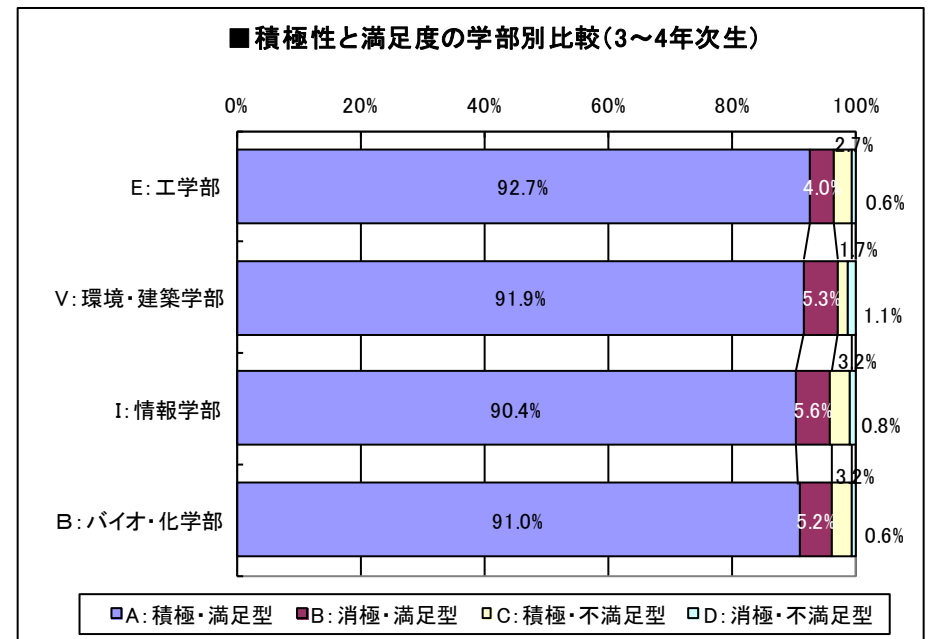
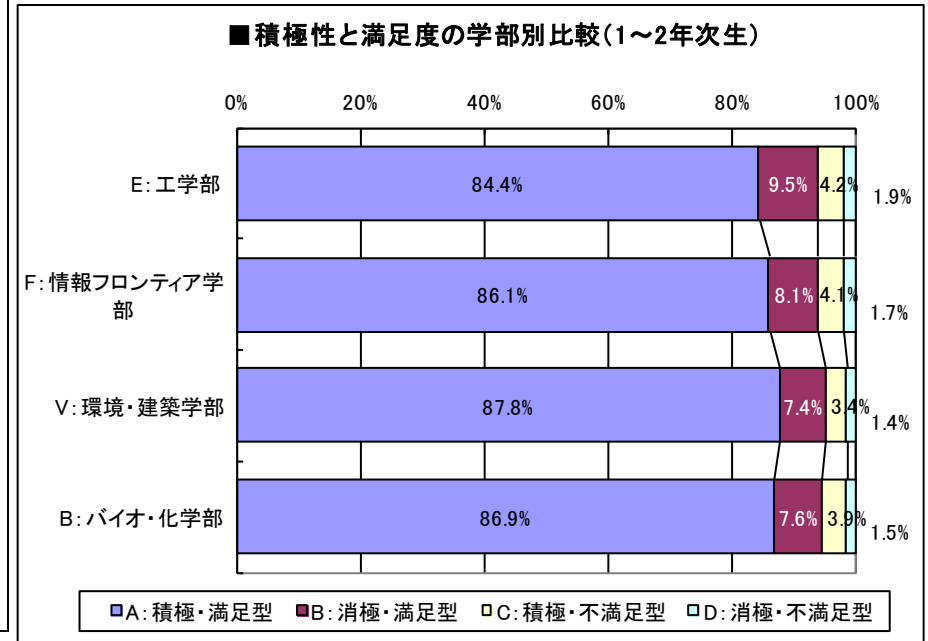
■ 積極性と満足度の経年変化



■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別の比較は、学部構成が異なる「1～2年次生」と「3～4年次生」でグラフを別にして集計を行った。
- 「1～2年次生」で「A:積極・満足型」の割合を見ると、差はそれほど大きくはないが「V:環境・建築学部」が最も多く、87.8%であった。次いで「B:バイオ・化学部」が86.9%、「F:情報フロンティア学部」が86.1%、「E:工学部」が84.4%となっており、いずれの学部でも充実している学生が8割以上であった。
- 「A:積極・満足型」が最も少ない「E:工学部」では「B:消極・満足型」と「D:消極・不満足型」がやや多く、消極的な学生が多いことがうかがえる。
- 「3～4年次生」では学部間の差が非常に小さく、「A:積極・満足型」の割合を見ると、最も多かった「E:工学部」(92.7%)と最も少なかった「I:情報学部」(90.4%)の間の差は2.3ポイントであった。いずれの学部でも「A:積極・満足型」は9割を超え、良い状態であることがうかがえた。



<8> 全体のまとめ

<8-1> 全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

事前に授業に興味を持っていた学生は80.7%であったが、89.2%は熱意を持って授業を受け、94.3%が授業に満足しており、94.0%が教員の熱意を感じていた。

- ◆ 授業を受ける前の状況として、事前に授業に興味を持っていたという回答は80.7%、学習支援計画書によって事前に内容を理解できていたという回答は86.8%であり、受講準備はしっかりできているようであった。
- ◆ 受講する姿勢として、89.2%は熱意を持って受講しており、60.0%は1時間以上の予習・復習をしていると答えていた。
- ◆ 学生の85.9%は教科書・指導書が適切であったと評価しており、課題・レポートに関しても90.8%が役立ったという評価であった。
- ◆ 最終的な評価として、94.0%は教員の熱意を感じ、94.3%は授業に満足と答えており、満足度は高いと言える。

【経年変化で確認できた事】

「授業に対する興味」「自分の熱意と努力」「この科目の満足度」といった主要指標を含め、すべての項目で肯定的な意見が過去最高となっており、授業に対する評価は良くなっていることが確認できた。

- ◆ いずれの項目も肯定的な意見がこれまでで最も多くなっており、授業に対する評価は良くなっていることが確認できた。
- ◆ 主要な指標として、「授業に対する興味」は前回は1.1ポイント上回り、「自分の熱意と努力」は1.3ポイント、「この科目の満足度」は1.1ポイントといずれも前回は1ポイント以上上回っていた。
- ◆ 「予習・復習時間」では、「学習は特にしなかった」が前回は0.6ポイント下回って過去最低となっており、「1時間以上」の合計は過去最高であった。
- ◆ 教員の熱意を感じていたという回答も前回は1.1ポイント上回っていた。

【学年別比較で確認できた事】

「興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」といった受講前の姿勢は高学年で意識が高く、特に「3年次生」が良い状態であったが、「満足度」では学年による差がほとんど見られなかった。

- ◆ 全体的に「3年次生」「4年次生」の高学年で肯定的な意見が多めであり、特に「事前の興味」「事前の内容理解」「自分の熱意と努力」といった事前の準備や受講姿勢に関しては「3年次生」の高さが目立っていた。
- ◆ 上記に対して、「この科目の満足度」は「3年次生」「4年次生」がわずかに高かったものの、学年間の差はわずかであり、結果的に授業の評価に差は見られなかった。
- ◆ 「予習・復習時間」は差が大きく、「学習しなかった」は「4年次生」の8.9%に対して「1年次生」では21.6%となっていた。また、「1時間以上」の合計では「4年次生」の74.9%に対して、「1年次生」は50.3%であった。

【同一学生群で確認できた事】

2年次の前期に中だるみによる意識低下が見られるもの、高学年ほど授業に対する取り組み姿勢は良くなっていると言える。また、最近の学生群ほど取り組み姿勢が良くなる傾向が見られる。

- ◆ ほとんどの学生群で「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」のいずれも、「2年次の前期」で中だるみによると思われる意識の低下が見られる。また、それまでに落とした単位の再履修のための意識低下かと考えられるが、「4年次の前期」で低下が見られる。
- ◆ 上記のような低下があるものの、「3年次生」までは高学年になるほど授業に対する取り組み姿勢が良くなり、満足度も上がる傾向が見られる。
- ◆ 以前の学生群と比べると、最近の学生群の方が「興味」「熱意と努力」「満足度」などが高まる傾向が見られた。特に「現2年次生」「現3年次生」の高さが目立っており、今後注目したい学生群と言える。

【1～2年次生の学部別・学科別比較で確認できた事】

「1～2年生」では、学部間の差は少ないが「情報フロンティア学部」で「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」が低く、「バイオ・化学部」で「学習相談」の利用者割合が低いという特徴が見られた。

- ◆ 「1～2年次生」の学部別比較を見ると、「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」は「情報フロンティア学部」でやや低めであったが、他の指標では大きな差は見られなかった。
- ◆ 「学習相談」においては「バイオ・化学部」で「相談しなかった」の割合が非常に多い点が目立っていた。
- ◆ 「工学部」では「航空システム工学科」が全体的に高く、「情報工学科」「電子情報通信工学科」の低さが目立っていた。「情報フロンティア学部」では「心理情報学科」がすべての項目で最も低く、「環境・建築学部」「バイオ・化学部」では学科間の差はそれほど大きくなかった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「3～4年次生」では「専門プロジェクト科目」の評価が非常に高かった。一方、「1～2年次生」でも「専門科目」への興味は高いものの、満足度を含めて全体的に低い点が気になる点と言える。

- ◆ 「1～2年次生」では「事前の興味」で科目区分間の差が非常に大きく、特に「修学基礎科目」の低さが目立っていた。そして、全体の傾向としては「英語科目」「人間形成基礎科目」が高めであり、「数理基礎科目」「専門科目」が低めであった。
- ◆ 「3～4年次生」ではほとんどの項目で「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が最も多く、目立っていた。一方、全体的に低かったのは「数理工基礎科目」であった。
- ◆ 「1～2年次生」では「専門科目」の「興味」は高いものの、全体としては低くなっており、「3～4年次生」の専門系の高さとは対照的であった。

【3～4年次生の学部別・学科別比較で確認できた事】

「3～4年次生」では、「工学部」「環境・建築学部」の「興味」「事前の内容理解」がやや高かった。また、「工学部」は「予習・復習時間」が多く、「環境・建築学部」では「学習相談」の活用が活発であった。

- ◆ 「3～4年次生」では「事前の興味」「事前の内容理解」で「工学部」「環境・建築学部」がやや高かったが、「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」では差はほとんど見られなかった。
- ◆ 「予習・復習時間」では「工学部」が多い傾向が見られ、「学習相談」は「環境・建築学部」の利用者割合の高さが目立っていた。
- ◆ 「工学部」では「航空システム工学科」が全体的に高く、「ロボティクス学科」が低めであった。そして、「情報学部」では「心理情報学科」と「情報工学科」が全体的に高く、「環境・建築学部」「バイオ・化学部」では学科間の差はあまり見られなかった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」の割合は年々増加し、今回は9割近かったものの、いずれも「まあまあ」という学生がほぼ5割を占めていた。学年別では「3年次生」で「積極・満足型」が多く、「1年次生」が最も少なかった。

- ◆ 「積極・満足型」は87.2%と非常に多かったものの、「積極性」も「満足度」も両者ともに「まあまあ」という学生が49.3%であり、半数が授業に対して「まあまあ」の状態であったと言える。
- ◆ 「積極・満足型」は調査を開始したH17から継続的に増加を続けており、H17より11.4ポイント増加している。
- ◆ 学年別では「3年次生」で「積極・満足型」が91.9%で最も多く、「4年次生」が89.7%、「2年次生」が86.3%、「1年次生」が84.8%と続いていた。
- ◆ 学部間の差は大きくないが、「1～2年次生」では「環境・建築学部」で「積極・満足型」が多く、「3～4年次生」では「工学部」で多かった。

<8-2>全体のサマリー

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようなになる。

- 事前に授業に興味を持っていた学生は80.7%であったが、89.2%は熱意を持って授業を受け、94.3%が授業に満足しており、94.0%が教員の熱意を感じていた。
- 「授業に対する興味」「自分の熱意と努力」「この科目の満足度」といった主要指標を含め、すべての項目で肯定的な意見が過去最高となっており、授業に対する評価は良くなっていることが確認できた。
- 「興味」「事前の内容理解」「熱意と努力」といった受講前の姿勢は高学年で意識が高く、特に「3年次生」が良い状態であったが、「満足度」では学年による差がほとんど見られなかった。
- 2年次の前期に中だるみによる意識低下が見られるもの、高学年ほど授業に対する取り組み姿勢は良くなっていると言える。また、最近の学生群ほど取り組み姿勢が良くなる傾向が見られる。
- 「1～2年生」では、学部間の差は少ないが「情報フロンティア学部」で「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」が低く、「バイオ・化学部」で「学習相談」の利用者割合が低いという特徴が見られた。
- 「3～4年次生」では「工学部」「環境・建築学部」の「興味」「事前の内容理解」がやや高かった。また、「工学部」は「予習・復習時間」が多く、「環境・建築学部」では「学習相談」の活用が活発であった。
- 「3～4年次生」では「専門プロジェクト科目」の評価が非常に高かった。一方、「1～2年次生」でも「専門科目」への興味は高いものの、満足度を含めて全体的に低い点が気になる点と言える。
- 「積極・満足型」の割合は年々増加し、今回は9割近かったものの、いずれも「まあまあ」という学生がほぼ5割を占めていた。学年別では「3年次生」で「積極・満足型」が多く、「1年次生」が最も少なかった。



- ❖ 授業に満足という回答は94.3%で過去最高となっており、授業に対する興味(80.7%)、自分自身の積極性(89.2%)、教員の熱意(94.0%)といった主要な指標はいずれも過去最高であり、授業に対する評価は良くなっていると言える。
- ❖ 同一学生群の分析を見ると、最近の学生は以前に比べ授業への取り組み姿勢が良くなり、満足度も高くなっている。ただし、「2年次生」での中だるみは依然として見られ、このあたりの意識の変化の要因をしっかりと捉える必要があると思われる。
- ❖ 「3～4年次生」は専門系の科目に対する事前の興味が強く、積極的に取り組んでおり、結果として満足度も高いという良い循環がありそうであった。しかし、「1～2年次生」は専門系の科目に対する興味はやや強いものの、満足度を含めたその他の指標は低く、当初の興味をうまく活かせていないのではないかと思われた。